

朝鮮總督府月報

9215.9  
4222.5  
v.8:8  
(1913)



RETURN TO the circulation desk of any  
University of California Library  
or to the

NORTHERN REGIONAL LIBRARY FACILITY  
Bldg. 400, Richmond Field Station  
University of California  
Richmond, CA 94804-4698

---

ALL BOOKS MAY BE RECALLED AFTER 7 DAYS  
2-month loans may be renewed by calling  
(415) 642-6233

1-year loans may be recharged by bringing books  
to NRLF

Renewals and recharges may be made 4 days  
prior to due date

---

DUE AS STAMPED BELOW

---

LIBRARY USE JAN 21 '87

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



# 朝鮮總督府 月報

第三卷 第八號

BERKELEY  
LIBRARY  
UNIVERSITY OF  
CALIFORNIA

## 主 要 事 項

### ○日 繪 寫 眞 版

(一) 鎮南浦揚場監視署上屋並道路排水工事の景  
(二) 京城南大門外大通り (三) 京城釜山間街道  
(四) (五) (六) (七) 包裝に關する寫眞

### ○朝 鮮 の 農 業

は三井技師が奎良縣視察團に對し講演したる所、朝鮮の農業を概括的に且つ實際に照らして詳述し土壤より氣象の變化に至り各種農作物の狀況を明らかにす

### ○エ ビ 米 に 就 て

は三原技師の調査に係り其の生成の原因より豫防の方法に至り且又人工的作成試験に於て(一)高温醗酵裝置及其成績(二)低温醗酵裝置及其成績を詳述し以て朝鮮産米の上に至大の訓を與ふるもの也

### ○海雲臺轉地療養場調査

朝鮮各地山に富み水に富むと雖も轉地療養場としての適地を頗る難し森安醫學博士、吉本醫學士は各候補地を就して此に海雲臺を發表し其所在、其氣候、其水質等に就き一々専門的調査を加へ以て絶好適地たるを明らかにしたり本篇は乃ち是なり

### ○經學院に於る講演狀況

經學院第一回講演の狀況を録し、講演の要旨も亦た一々掲げ奉る

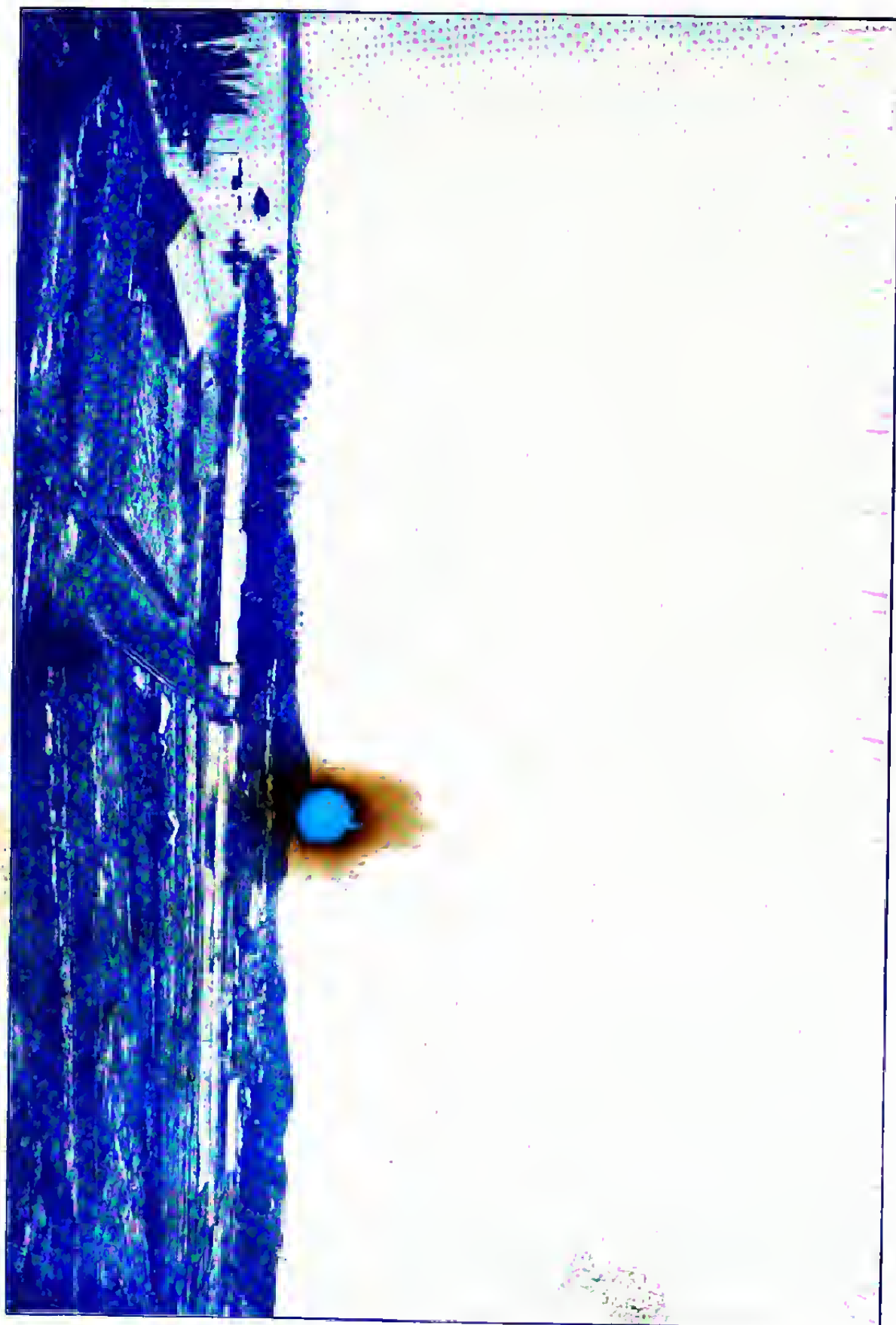
7.2159  
6.2225  
V.318  
C19137

# 朝鮮總督府月報

第三卷第八號

## 目次

<p>○鎮南浦揚陸場監視署上級道路排水工事の景</p> <p>(二)京城南大門外大通り (三)永城金山街道</p> <p>(四)(五)(六)(七)包裝に關する資料</p> <p>○朝鮮の農業</p> <p>○エビ米に就て</p> <p>○海雲臺轉地療養場調査</p> <p>○經學院に於ける講演の狀況</p>	<p>調査資料</p> <p>○輸移出入品包裝に關する調査</p> <p>○平安南北並黃海道採金業の現況</p> <p>○輕便タガリ織裝置の創案及試織成績</p> <p>○玉瑣貝赤貝調査</p> <p>○道路改修工事概況</p> <p>○運 輸 概 況</p> <p>○鐵道建設及改良工事概況</p> <p>○遞信事業概況</p> <p>○羅州郡に於ける面指導の狀況</p> <p>○龜浦購買販賣組合の設立</p> <p>○南鮮植物採取目錄(承前完)</p>	<p>雜 錄</p> <p>○各道林務主任會議○公立普通學校內地人教員夏季講習會狀況○天長節祝日○塔洞公園公開○鳴鶴江航路を航行する船舶の注意事項○東京に朝鮮總督府鐵道營業案內所設置○京元線鐵道一部開通○本府購入及受贈圖書</p>
<p>○自七月九日至八月七日</p> <p>統計</p> <p>○貿易概況</p> <p>○經濟概況</p> <p>○朝鮮人教育私立學校圖 (大正二年六月末現在)</p>	<p>法令</p> <p>○治及居住規則中改正○古墳ノ發掘ヲ願フル者タルニ據置方○市街地建築取規則ノ市街地及同規則第六條ノ地域指定○京城市街地中同規則第四條ノ地域指定參照市街地建築取規則○市街地建築取規則取扱手續○陸境關稅令ノ規定ニ依リ貨物ノ輸出入ヲ爲スコトヲ得ル地點○郵便規則中改正○通商郵便物市内特別取扱規則中改正○藥品運送規則○朝鮮關稅定率令ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸入貨物ノ容器同上ノ規定ニ依リ輸移入ヲ禁止スル物品同上ノ規定ニ依リ乳用牛及物品ノ検査箇所○朝鮮總督府會計監査規程○郵便爲替貯金管理事務分掌規程中改正○總督府中學校規則中改正○普通學校規則等改正○文官任用令○任用分限及ハ官等ノ初級階級ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件○醫院附屬醫學講習所規則中改正○濟生院規則中改正</p>	<p>判決例</p> <p>○民事△宗孫權確證請求ノ件</p>



景の事工水排路道並屋上雲視監機陸揚浦南鎮

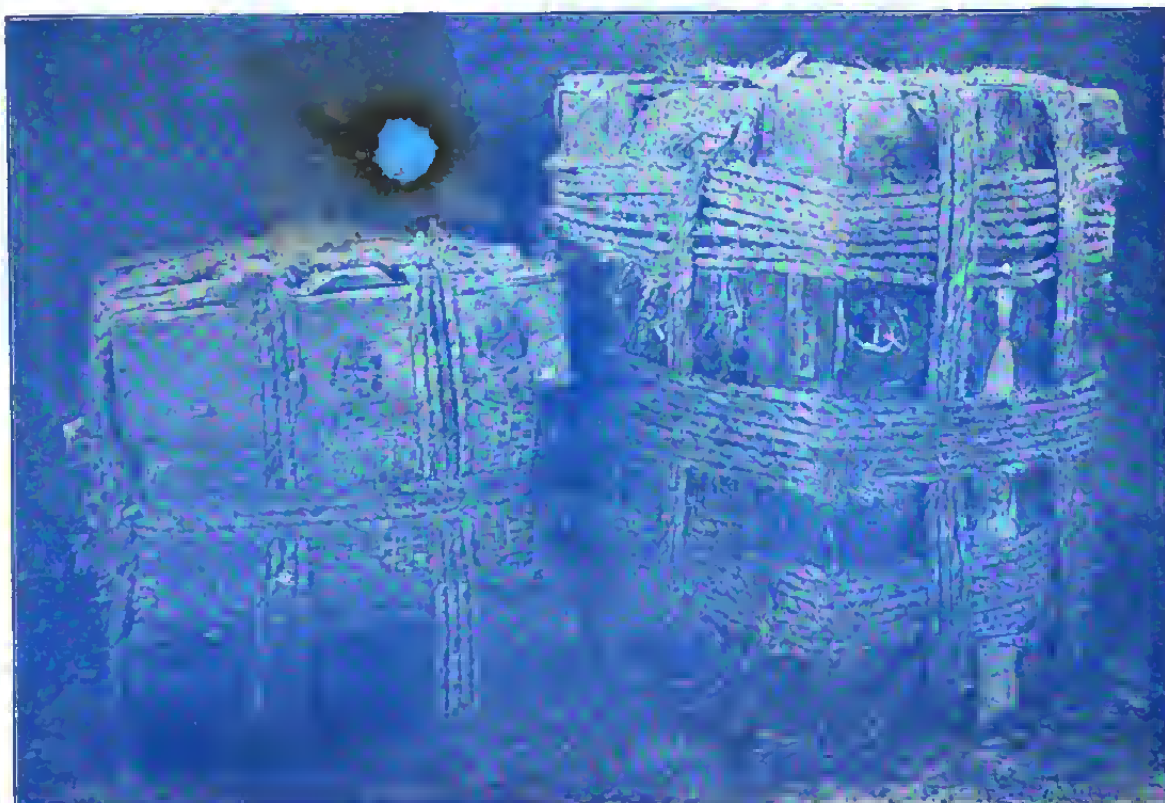






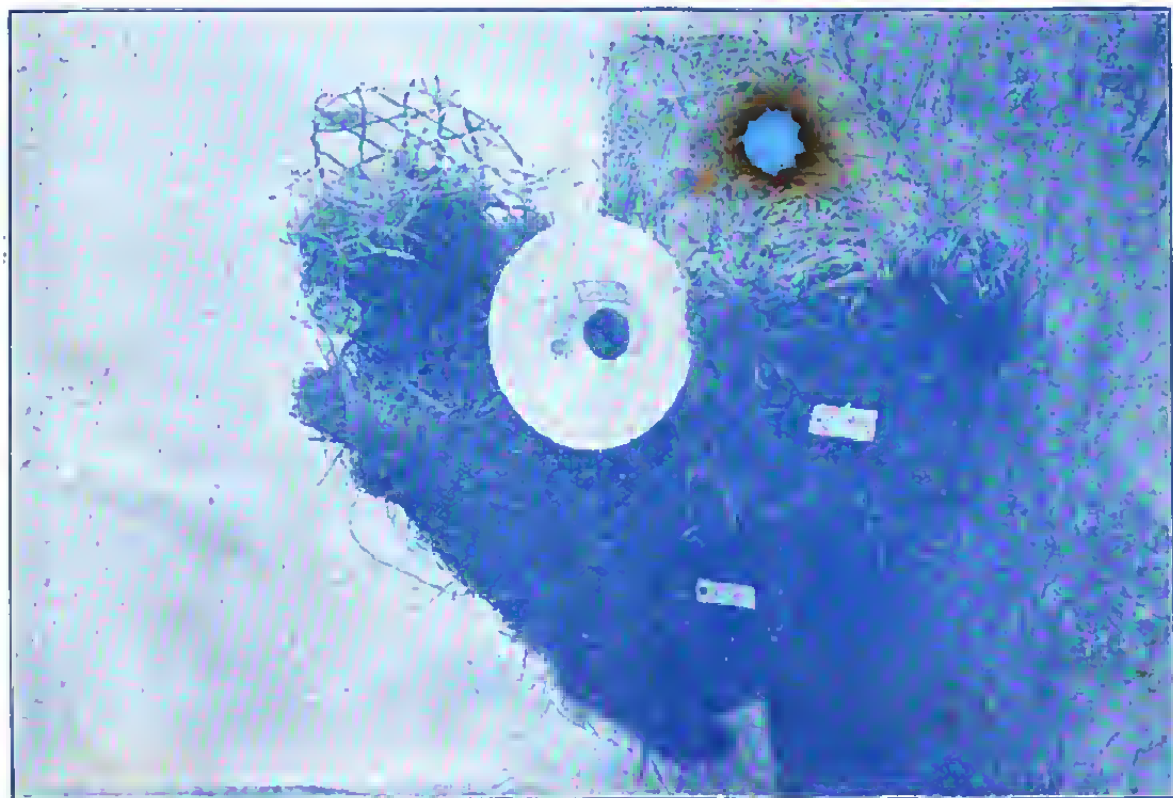
(頁五十二第號本)  
(照參六十四第)

裝 包 品 入 出 移 輸



(頁六十二第號本)  
(照參七十四第)

裝 包 品 入 出 移 輸



(頁六十二號本) 裝包品入出移輪  
(照參八十四第)



(頁五十二號本) 裝包品入出移輪  
(照參五十四第)

# 朝鮮總督府月報

第三卷第八號

## 朝鮮の農業

(八月十二日奈良縣視察團に對する講演筆記)

總督府技師 三井榮長

朝鮮の農業に就て極めて概略の御話を致します施設及數字等の詳細なることは只今申上ます所と御手許にある印刷物とを御引合せの上御承知を願ひます

御承知の通り土地及氣溫、雨雪、濕度等百般の氣象事項は農業の主たる基礎を成して居るものでありますか朝鮮に於ける此等農業の基礎となるべき事項は如何之か常に第一番に質問さるる處てありますから之から御話を始めようと思ひます御判り易い様に内地と比較して申上げます第一、土地に就て申上げます農業上朝鮮の土地は内地の土地と比較して如何なる異りたる點かあるか此の問題は御話か極めて専門的になり易く又林~~田~~も今日の處未だ完全して居りませぬから單に土壤に就て彼此主なる相違の點を一二擧ぐるに止めて置きます其の一つは朝鮮の土壤は内地の土壤に比して一般に有機質を含むことか少ないこととてあります此のことは諸君か釜山から當地に參らるる間に充分御實驗なされたことと思ひます即ち山や原野の土壤は勿論耕土てさへも黑色を帶ふること極めて些少なるものか多くあるのは此の證であります有機質は土地の理學的性質を良好ならしむると共に一方には自身か徐徐に分解して直接作物の肥料となるもので良好なる土壤中には缺けてならぬものになつて居ります尙朝鮮の土壤と内地

の土壤と異て居る他の一つのごとは前述の有機質の含有分の少ないことに關係を有すること  
てすか朝鮮の土壤は内地の土壤に比して窒素分が乏しいと申すこととてありま  
す御承知の如く  
窒素肥料は内地に於ても肥料中の最も大切なもので其の價格も亦一番高いものでありま  
す此  
の朝鮮の土壤の内地のそれと著しく異なつて居る二點て即ち朝鮮の土壤が大切な二含有物  
に乏しいと云ふことは何れも農業上よりは喜ばしくないものでありま  
す然しなから之は多年  
奪掠農法が行はれたのか主因て幸に今後困難ではありま  
すが救済の出来る事項てありま  
す總  
督府は綠肥栽培とか堆肥製造とか肥料問題に對し各其  
の應し夫夫一定の方針を立てて指  
導獎勵しつつありま  
して著著其の效を收めて居りま  
すから遂には内地に劣らぬ様になるもの  
と信して居りま  
す尙土壤に付け加へて申し上げ度いのは朝鮮の土壤は前述の缺點あるにも不  
拘無肥料で連年能く相當の收穫を得る場合がある如此ことは内地に見ざる例て朝鮮の土壤に  
特有のものてあると曰ふ様なことを聞くことかありま  
す之は事實あることとて朝鮮農業上喜ば  
しい現象の一つてありま  
す而し之は土壤の性質と申すよりも寧ろ後に御話し致さうと思ひま  
す風化力の強きに依る一現象てはないかと思ひま  
す

第二、氣象の主なる事項に付ての御話てありま  
す朝鮮の氣溫は内地のに比較致しますと所謂  
大陸的てありま  
して寒暑共に激しきことは已に御承知の如くてありま  
すそれから雨雪量に就  
て申し上げま  
すと之も朝鮮と内地とは著しく異なりま  
して内地に於ては北海道方面を除けば  
大概の地方は年雨雪量千ミリ以上てありま  
すか朝鮮は釜山とか元山とか特別の地方を除きて  
は孰れも千ミリ内外若しくは其れ以下てありま  
す唯年雨雪量が少ないのみならず其の降る時  
期即ち雨雪の分配が大さう偏して居りま  
す大體から申しま  
すると年雨雪量の約七割は雨期（大



に於て六月に終るに現はると曰ふ次第で他の季節に於ては雨雪量か至て少なくあります又是は別に數字上の材料を具へての御話ではありませぬか年雨雪量か偏して現はるのみならず一日の雨量から申しまして矢張其の様に思はれます換言しますと内地に於ける五月雨の様に同じ位の度合でしどくと二日にも三日にも互りて降るやうなことは先づ稀で車軸を流す様にどつと降り直に日光を見ると云ふのか朝鮮的である様に思はれます雨雪量か少なく其の降り具合か上述の如くてありますから從て日照時間快晴日數等か多くなつて居ります又温度も前述せる如く雨雪量の少なきと大陸に連て居る等の關係からして大體内地より低く殊に雨期以外の季節に於て乾燥甚しくあります更に尙一つ附け加へ度いと思ふは朝鮮には内地に於ける二百十日二百二十日等に當る暴風雨か少ない様であることと大陸的氣候の結果日射の力及風化力か強いこととであります

以上氣象に就て述べた所を取り纏めて申し上げますと大體に於て朝鮮は寒暑か激しく雨雪量か少なく且つ其の現はるる時期か偏して居り空氣は乾燥し日照時間か多くて且つ日射の力か強く風化力も又強く而して暴風雨か少ないと云ふことにはます此等の事柄に付ては農業上に喜しくない場合も勿論あります例へは京城の夏は諸君の御承知の如く如此相當に暑氣も激しくあります秋の氣温は割合に急下し十月初旬には結氷を見十二月より二月にかけて攝氏二十度内外迄降下し土地は結氷三尺に達する所あるに至ります從て内地の同緯度の所で容易に越冬し得るものも此の處では困難のものかあります又氣候の乾燥殊に春季の乾燥は農作物の發芽を害することかあり雨雪量の偏して現はるは現今の山河の現状と相俟て洪水の害を大ならしめます而しなから農業上好都合のこととも亦甚多くあります寧ろ是等の内地と異なり

たる氣象を有するか故に朝鮮の農業は益有望にあると云ひ得ると存します今更に二三農産物に就て其の利害の一二を御話し致します

朝鮮では米は五月初頃蒔付け六月中下旬に移植し大略九月迄灌漑水を供給しまして十月に成熟致します稲作には灌漑水と高い温度と日光の直射を必要と致しますことは御承知の通りでありますか故に稲作上内地が一番に心配するのは春の雨期が長引いて土用に入り尙経過せざる様のことであり爲に大切な季節に温度と光線に不足を生ずることにて之に次ては二百十日、二百二十日即開花期前後に於ける暴風雨の被害であります。雨申上げた如く朝鮮では夏の暑さ激しく日照時間多く日射の力強く而して二百十日、二百二十日等厄日の難至て輕き故前述の内地に於ける様な虞は極めて少ないと思ひます又稲作期間の雨期に遭遇する如きも灌漑設備の未だ普及せざる今日殊に好都合のことであります唯一つ最も遺憾とするは現今に於ける朝鮮の灌漑設備は極めて不完全のものでありまして内地で旱魃と申さるるものは總田面積の二割位でありますか朝鮮では灌漑水の設備あるものか僅に總田面積約二割と申す次第で加ふるに春の雨が少ない爲雨期が遅ると忽ち植付水に不足を生ずることであります而し是も前申し上げた土壤の缺點と同じく幸に人力を以て或程度迄は救済の出来るものでありまして現に大田より三南線に移り約三時間にて全州の平野と申す古來有名なる旱魃地に達しますか此の處は一朝旱魃になると一萬餘町歩の水田は白田と云ふて植付不可能となる場所でありましたか今日ては五つの水利組合を設立せしめまして先大體救済の方法が立つて居ります又朝鮮には約四千の溜池と一萬に近い堰がありますか之等は大方荒廢して居ります故に先年來補助金を與へて其の修築を奨励して居りますか昨年度末迄に已に三百五十箇所の完成を爲して居ります昨年丁度旱魃歳でありました故之等修築せる溜池及堰は多大の効果を現

はしました以上は一二の實例でありますか如此總督府では灌溉設備の普及に極力力を致して居りますから逐次其の設備完成の實を擧げることと思ひます要するに農業の土臺たる稻作上今日人力で如何ともすることの出來ぬ事項に於て天恵を多く得て居ることは朝鮮農業の爲慶すべきことと思ひます

それから棉に就て申し上げますか夏の氣溫の高いこと日射の強いこと開絮期に雨の少なきこと等は陸地棉栽培に成功しつつある所以であります又空氣の乾燥すること日射の力強いこと等は果樹に適し内地に於てフレイムの中てなくては結實せざる果實か朝鮮では好く露地で結果する所以であります又養蠶には大體濕度の低き方か都合良きことと致して居ります朝鮮に於て容易に養蠶の好果を收め得るも上述せる氣候の然らしむる所と思ひます最後に風化力に就て一寸申し上げますか風化力とは岩石は勿論土壤を構成し居る母岩等を分解する大氣の力で土地を休閒致しますと作物の良く出來ますは此の力あるに職由するものでありまして此の力の強いのは凡ての作物に好都合であることは別に御話し致す迄もないと思ひます

土地及氣象に付ては是にて止めまして次に現時の朝鮮の農作物に就て申し上げます

朝鮮の作物の種類は大體内地と同様でありますか其の作物の順位等に變化の有るは勿論て御座ります今作付反別の順位に其の種類を挙げますれば米が一番て麥類、豆類、粟、稗、蕎麥、玉蜀黍、蜀黍、棉、燕麥、ずーつと下つて煙草、大麻、黍、荏等の順であります然し之は全土を通しての御話で各道によりて夫々又順位が異りましたして京畿以南は各道共米か第一番て大麥、大豆、小麥等の順でありますか京畿以北は粟か第一番て(尤も江原道は矢張米か第一位て次に粟、大豆、小豆と云ふ順てすか)米、大豆、小豆、稗、大麥、小麥等か第二位又は第三位になつて居ります換言すれば京畿道を界とし南部ては米、北部ては粟か主作物になつて居り大麥は主として南部に小麥は南北部を通して作付

せられ大豆も同しく全土を通して作付せられますか優良なる品質のものは多く北部から産れます又煙草、荏は全土を通して小豆、稗、玉蜀黍、蜀黍、黍、蕎麥、燕麥は北部に、棉は南部に多く作付せられます又大麻は南部にも廣く作付せらるる所あるも優良なる品質のものは北部に多く産します此の外無論品種は相當のものを選ぶ必要はありますから桑樹果樹に至る所之に適せざるなく殊に果樹に於て然りとすることは前述の如くであります

作物の種類及其の順位の状況は概略右の如くでありますか新政に依り世界に現れ出てた朝鮮の今日は内地の維新當時に於ける如き有様で各種作物栽培上の利益、農家の經濟狀態等昔日と同一なるを得ず從て各地方に依り夫々作物の種類其の順位及之か農法等の改良は必須の事に屬して居りますから總督府は技術上に經濟上に農民をして此の過渡時代に過りなきを致さしむるのみならず大に農業の發展を致す様極力指導獎勵に勉めて居る次第であります一、二の例を挙げますと米に就ては品種の改良、灌漑設備の普及、乾燥調製の改良、施肥の獎勵等養蠶に就ては桑園の増殖、蠶種の改良、育蠶製絲に關する技術の傳習、繭販賣の斡旋等、棉に就ては陸地棉栽培の獎勵等の如きでありまして今日では未だ短時日なるに不拘其の成績誠に宜しき様信して居ります即ち稻の優良品種の作付の如きも昨年は三萬五千町歩本年は此の二倍以上に達し居ると思ひます又陸地棉の如き近年其の作付面積倍加し本年の作付は一萬五千町歩に達して居ると思ひます尙差上げました印刷物と實地とに就て充分御觀察を願ひ度くあります

終に朝鮮の牛に就て一言申し上げます朝鮮の牛は其の體格も良く性質も溫順で且粗放の取扱に堪ゆるので耕牛としては實に完全したものだと思はれますのみならず肉質も亦良くあります唯南部産のものは稍劣つて居りますから所謂同種改良て之等地方を初とし全土の牛の體格をして益向上せしむると共に其の頭數を増加することに務めて居ります



## エビ米に就て

勸業模範場技師 三 原 新 三

全羅南道木浦附近にては産米中に穀粒の内容全部が飴色を帯ひ惡臭を有するものを混することあり之をエビ米と稱す鮮人の説によればエビ米は古來存在すと云ふ然れども木浦にて内地人か始て之か存在を認めしは數年前にして爾來年年之を認めたり而して其の量は年により多少の差あれども明治四十三年に於て最甚しく爲に一般木浦米の聲價に影響を及ぼしたること甚たしかりき木浦廻送米中にエビ米の混在する量は時期により相違あり毎年十二月及一月に多く又稻の品種に就て云へは在來種及倭租に多しと云ふ

エビ米混入の木浦米の聲價に及ぼす影響の如何に大なるやは木浦商業會議所か其の月報第十六號に明記せるものあるを以て左に之を摘録せん

此の種の混入米を焚くときはエビ米の周圍は悉く飴色に變し且惡臭を放つを以て需要者の嫌惡すること甚たしく爲に一種の米の中に僅に一粒の~~エビ~~米を含むも忽ち一石五十錢以上の値引の請求を受くるのみならず惹いて向後の信用にも關することなれば當業者は常に警戒を怠らざるも往往不測の災厄に陷る事あり云云

右の如くエビ米混在の木浦米の聲價に影響すること大なるを以て之か生成の原因を調査し之を豫防するは同地方農業上極めて肝要なりとす

明治四十四年の調査に依れば該米は靈光郡奉山面及海南郡昆一終面昆二終面に最多く産し其の他各郡には少量宛を産せり明治四十五年一月上旬法聖浦よりの廻米五十俵中五俵は殆ど該

米より成れりと云ふを見れば該地方にもこれを産出するは疑なし要之四十四年に於ける主產地は以上の數箇所に過ぎざれども少量は一般に廣く産出するものと思はる

エビ米の成因に就ては二説あり一はエビ米を以て一の品種なりとなすものにして他は醱酵作用の如き他動的原因に歸するものなり此の兩説の何れか是なるやを知らむ爲品種の調査を行ひたり今其の結果の概要を示さむ

該米の果して一品種なりや否を確かめむ爲左の二方法を實行せり

# 一、立毛の調査

## 二、エビ米播種試験

予は全羅南道靈光郡奉山面に於て立毛の調査を行へり同面は靈光邑内を距る西北約三里許の地にあり從來エビ米産出の多きを以て知らる予は明治四十四年十一月十三日咸平棉採種園主任辻技手と共に十七洞里(長水洞、孔門洞、平地洞、伏虎洞、兎洞、九岩里、支岩里、插古里、眞泉洞、朝陽里、西峯里、新月里、大田里、伏在里、鳳村里、五滅里、虎谷里)を逐次巡回立毛に就き詳細に調査せるに所謂赤米と稱すべきものを認めたるも一粒のエビ米を発見する能はざりし其の他咸平郡郡西面、月岳面、海保面等にて行へる調査も亦同一の結果なりし奉山面の如く多量のエビ米を生産する地方に於て立毛中にエビ米の存在するを認めざるはエビ米の稻の一品種にあらざるを明かに示すものなりとす

次に予は明治四十四年靈光郡奉山面産エビ米を木浦商業會議所に得て勸業模範場木浦支場内試験地畝に播種し其の生育狀況及收穫物を調査せしに發育は極めて不良なりしも其の收穫物中には全然エビ米を含まざりき如斯エビ米は遺傳せずとせば稻の一品種にあらざるは疑ひな

しとす

エビ米の醗酵作用に依りて生ずるものなるやを確めむ爲め左の調査を行へり

一、エビ米産地に於ける調査

二、エビ米人工的作成

明治四十四年十二月十日昆一終面陽洞夏目某より木浦商業會議所に送付せる中粗米中にエビ米を混せるものあり故に予は同氏に就き該米の昆一終面西邊里夏目農場の小作米にして十一月三日頃收穫せるを十二月七日同氏の許に廻送したる新米なる旨を確め十二月十三日該農場にて調査を行へり

昆一終面西邊里小洞鄭平俊は前記エビ米の生産者なり調査當日尙エビ米二畝を所持せり而して該エビ米の附著せし藁か尙庭の一隅に堆積せられありしを以て之を検するに黒褐色を呈し軟弱にして全然弾力性を失ひ且臭氣あり扱殘しの扱は悉くエビ米なりき同人の語るところに依れば稻堆の下部より三分一は藁變色せりと故に試みに稻堆の上部に於ける藁を検するに色澤變せず弾力性を有し扱殘しの扱にエビ米なかりき更に同人に收穫當時の事情を諮ねたるに「收穫の當時雨を催せしかは束ねて畦上に積むこと五日此の間雨に遭ふこと二回に及へり濕潤の僅庭前に堆積し約三十日を経て取崩せしか其の際温氣を覺ゐたり」と答へたり次に同面同里大洞尹士元に就き調査せるに時恰も高約六尺の稻堆を取崩し「ホルテ」にて扱を採取中なりし故に仔細に調査せるに鄭平俊のものと等しく稻堆上部の藁は異狀なく其の扱には全くエビ米を認めさりしも下部の藁は醗酵腐敗の狀を呈し之に附著する扱は悉くエビ米なりき同人方には稻扱一挺を有するも藁に弾力なく切斷し易かりしを以て止を得ず「ホルテ」を用ひたるなりと云

ふ同人亦收穫中雨に會し止むなく其の儘堆積せるなりと

右の調査に依ればエビ米の生成は藁の腐敗に伴ひ藁の腐敗は稻堆の内部に生したる醗酵作用の結果なるものの如く而して此の作用の起れるは收穫當時藁の未だ乾燥せざるに之を堆積したるに原因するに似たり故にエビ米の生成と前記醗酵作用との關係を知るはエビ米豫防上必要なりとす予はエビ米と稻堆中に於ける醗酵作用との關係を知らんことを欲し時間の許す限り多數の稻堆に就き調査せるに醗酵には適度の温度と濕氣とを要するものなれば雨濕に會せる稻と堆積せるものの凡てか醗酵してエビ米を生するものにあらず水分過多なりしもの却てエビ米を生せざりし例なきにあらず醗酵温度の攝氏十二度以上たるへき事及堆積時間の一箇月以上なる事はエビ米の生成に必要な事項なるを推定せり

靈巖郡に於ける調査の結果エビ米の成因醗酵にありとの事實略明かなるを得たるを以て更に一步を進め人工的に作成するを得るや否を試み以て其の原因を確證せむことを期圖せり然れどもエビ米生成の條件としては前記の調査により僅に醗酵温度の攝氏十二度以上なること及堆積期間の一箇月以上なることを推知せるに過ぎざるを以て人工的作成試験には高温醗酵装置、低温醗酵装置の二種を設けたり

#### (イ) 高温醗酵装置及其成績

東南に面せる地を選み幅四尺長六尺深二尺の穴を掘り内に醗酵材料を蹈込み即ち約三寸の厚さに藁舎の敷藁を置き其の上に一寸の厚さに牛糞を踏込み順次之を繰返して厚さ二尺に及はしめ(明治四十四年十二月二十三日作業)後一週間を経たる時新藁を薄く掩ひ其の上に供試材料俵粗を重ね濕氣を與ふる爲微溫湯二斗を瀝き更に藁を同筒形に積むこと約七尺に及び其の

間に吸入土塊七百斤を挿入し壓力を充分ならしめたり(同二十八日)  
 供試材料附近の溫度を測定する爲には寒暖計挿入口を設け置き毎日午後一時檢溫せり且十日  
 目毎に堆積を取崩し供試材料の變化を検し其の都度微溫湯二斗を灌けり而して試驗中に於け  
 る氣溫及醱酵溫度は左の如し(△印零下)

年	月	日	氣 溫(攝氏)	醱酵溫度(攝氏)
明治四十四年	十二月	二十八日	△ 一・九	二一・〇
		二十九日	△ 一・六	二五・〇
		三十日	〇・七	二五・〇
		三十一日	三・九	二七・〇
大正元年	一月	一日	二・七	二九・〇
		二日	二・四	二九・五
		三日	△ 一・六	二九・〇
		四日	△ 四・二	三〇・〇
		五日	三・七	三二・〇
		六日	二・七	三二・〇
		七日	一・八	三九・〇
		八日	二・四	五〇・〇
		九日	二・九	四九・〇
		十日	一・二	五二・〇
		十一日	〇・〇	五二・〇
		十二日	△ 一・六	四八・〇
		十三日	△ 二・二	四七・〇
		十四日	△ 〇・八	四八・〇
		十五日	△ 〇・九	四八・〇
		十六日	△ 一・八	四八・〇
		十七日	〇・四	三七・〇
		十八日	一・九	四〇・〇

エヒ米に就て

大正元年一月十九日

一〇

三二・〇

第一回検査は一月七日之行へり當時供試粳米中發芽せるものありしも未發芽の粳の内容には變化を認めず藁は少しく酸酵し黃變せり第二回検査は一月十六日之行へり供試粳米の發芽は其の後停止し下部の粳米は水分を吸収して容積を増し内容少しく黃變す依て之を乾燥したるにエビ米なることを確知せり其の胚は多くは枯死せり藁には一面に白黴を生し褐色を呈し全然彈力を失ひ頗る脆弱となり粳に輕く手を觸るるも脱落す又上部の供試材料は完全にエビ米に變し居たり

(ロ) 低溫酸酵裝置及其の成績

穴の構造蒸熱物の踏込法等凡て(イ)に同じ只低溫を保持せしむる爲上部より重量を以て壓力を加へす木框を以て之を掩ひ蒸熱物の發熱を待ち薄く藁を布き其の上に供試材料を並列せり試験中の氣溫及酸酵溫度左の如し

年	月	日	氣 溫 (攝氏)	酸酵溫度 (攝氏)
明治四十四年	十二月	二十六日	三・八	二〇・〇
同	同	二十七日	〇・七	二二・五
同	同	二十八日	一・九	二三・〇
同	同	二十九日	一・九	二四・〇
同	同	三十日	〇・七	二四・〇
同	同	三十一日	三・九	二四・〇
大正元年	一月	一日	二・七	二五・〇
同	同	二日	二・四	二三・〇
同	同	三日	一・六	二二・〇
同	同	四日	四・二	二〇・〇
同	同	五日	三・七	二〇・〇

Original from  
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

炭水化物	七四・九七〇	七三・五三一
灰分	一・八〇〇	一・五一〇

比 重	一・七八〇〇	一・四〇二〇
百粒の重量	一・九六七五	二・二〇八五
百粒の容積	一・二〇五〇	一・五七五〇

右の成績に依ればエビ米及朝鮮産玄米との間多少成分の差あるに似たりと雖其の差少にして未だ其の化學的變化如何を説明するに足らず故に後日再査の後を待ちて之を闡明せむとす

### 結 論

一、エビ米は立毛中に其の存在を認めす且エビ米を播種するもエビ米を生ぜざるによりエビ米は一品種にあらざること明なり

二、エビ米は稻堆中醱酵せる部分に存し其の醱酵せざる部分に存在せざるのみならず高温と濕氣とを與へて醱酵せしむるときは人工的にエビ米を生成し得べきを以て其の成因は醱酵作用に存するや明なり

エビ米の成因醱酵作用にありとせば其の豫防法は左の如く定むるを可とす

- 一、收穫したる稻は稻架に掛けて乾燥すること
- 二、若稻堆となす場合には堆積前充分に乾燥せしむべきこと
- 三、堆積中發熱の虞を認めたるときは時時積替を行ふべきこと



# 海雲臺轉地療養場調査

朝鮮總督府醫院醫官醫學博士 森 安 連 吉

同 藥劑官藥學士 吉 木 彌 三

朝鮮内地に適當なる轉地療養場を得むと欲するは嘗に吾人診療に従事するもののみに止まらざるへし然り而して日日患者に接近し其の病症の如何に依り又は疾病の恢復期に在りては吾人の經驗上藥物療法のみに委するよりも寧ろ轉地療養の著しき効果を奏する確實なることを見る場合に依ては一層其の必要を感ずるや切なり從來各地に於て其の經營者か適當なる療養地を以て自ら許し其の價值を喋喋するもの一にして止まらず果して其の言の如くむは病者の爲一大福音と言はざる可らずとす此の點よりして曾て余等は此等に就て實地調査をなせしことありしか或ものは舊に風光に富み位置氣候等の伴はざるあり或は溫泉の湧出する山間の僻地に位し或は單に海岸に接すと云ふに止まるか如き状態にして適當なる療養地としての條件を具備せざるなり偶釜山港の東方約四里半長山山下に海雲臺と稱する地あり從來人の唱ふる所に比すれば凡ての點に於て大に優れりと云ふ是に於てか余等兩名命を受け二月二十六日同地に出張し實地調査を爲すことを得たれば其の所見の概略を述べむとす

本地は釜山港を距る東方約四里半にして長山麓海岸の廣漠たる平地を稱するものなり東北西の三方は崎嶇たる山脈により圍繞せられ三部落ありて山麓に近きを右洞、左洞と云ひ海濱に接するを中洞といふ南は清酒たる白砂(通稱白濱)を隔てて海に面し(地圖參照)遙に對州を望む海は水淺くして極めて清潔波濤高からざるを以て夏季は海水浴場として相當の設備を施せば健

康者は勿論病者の保養地として他に譲らざる絶好適地たるへし

此の地方は一般に西北風強しと云ふも此の地は東北西に山を負ひ風力を遮り冬季と雖殆ど降雪を見ることなく温暖なり夏季は常に涼風ありて氣候釜山に比して寧ろ冬温夏涼と云ふ殊に右洞の近傍は直接北に山を負ひ南に向ひ日光の直射極めてよく常に風なく終日暖和なるを以て冬季病者殊に呼吸器疾患又は恢復期の患者を避寒せしむるには理想の地と云ふへし

飲料水の有無水質の良否は療養地に大なる影響を有するものなり例へ其の位置は良好なるも飲料水の缺乏を來し或は水質の不良にして用うるに堪へされは爲に體質を弱め疾病を醸すの憂あり今此の地を見るに井水豊富にして至る處に湧出し決して缺乏を告ぐるの憂なし茲に井水を分析し其の成績を擧ぐれば左の如し

## 海雲臺井水分析表

## 理學的試験

色	無色透明	無臭	清涼	浮游物及沈澱物
僅微				

## 化學的試験(表中數字は檢水一リットル)

固形分	クロール	アムモニア	亞硝酸	硝酸	酸	カメレオン消費量	硬度(獨逸)
一〇〇・〇	二八・四〇	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	二・五二八	一一・一

善良なる飲料水の鑑定標準としては理學的に無色無臭透明にして浮游物及沈澱物少きものを云ひ化學的には主要なる條件として(一)カメレオン溶液消費量の少きこと即ち水中有機質の少きこと(二)固形分は五百ミリグラム以下なること(三)アムモニア及亞硝酸は決して存在すへからざることなり茲に對照として有名なる化學者チーマン、ゲルトネル兩氏及諸他の設定せる標準

限界表を掲げ吾人の分析表と對照すれば其良否一目瞭然なり

形物	一リトル中 ミリグラム量				
	ライヒアルト	フィツシヤ	ブルツセル會議	チーメン ゲルトネル	日本藥學會 委員協定
クロール	100—500	500	500	500	500
アムモニア	2—8	38	8	20—30	30
亞硝酸	—	—	—	—	—
硝酸	4	27	2	5—15	20
カメルオン消費量(有機質)	2—10	8—10	10	6—10	10
硬度(獨逸)	12	15—20	20	18—20	18

是に依つて之を觀れば本井水は水質善良にして這般海岸に於て稀に見る好個の飲料水なりとす強て曰へば「クロール」の量少しく多きか如きも標準限界數以内に在るものにして恐くは地質に由來するものならんか

其の他此の地は温泉の湧出せるありて猶一層の便宜あり其の歴史に就て按すべきものなしと雖口碑に傳はれる所を聞くに温泉の發見せられしは往昔の事にして其の當時は只草叢の間に瀦溜せるものにして湯氣上昇するを以て温泉なることを知り足部の創傷等を洗滌せしに止まりしか其の效驗ありとを以て新に浴場を建設し一時に此の地方に喧傳せられたり其の後東葉府大邸府等より兩班等の來集多く従つて諸種の弊害起り終に温泉を埋没するの餘義なきに至れりといふ爾來永く顧みるものなかりしか其の後内地人に依り再び試掘せられ現今の如き温泉場をなすに至れり

温泉は無色透明にして僅に温泉固有の鹹臭を有し少しく鹹味を帶ひ反應中性にして比重は攝

氏十五度の温に於て一〇〇四其の湧出口の温度は四十八度なり之か分析を行ひしに左の成績を得たり

成分(一リートル中瓦量)

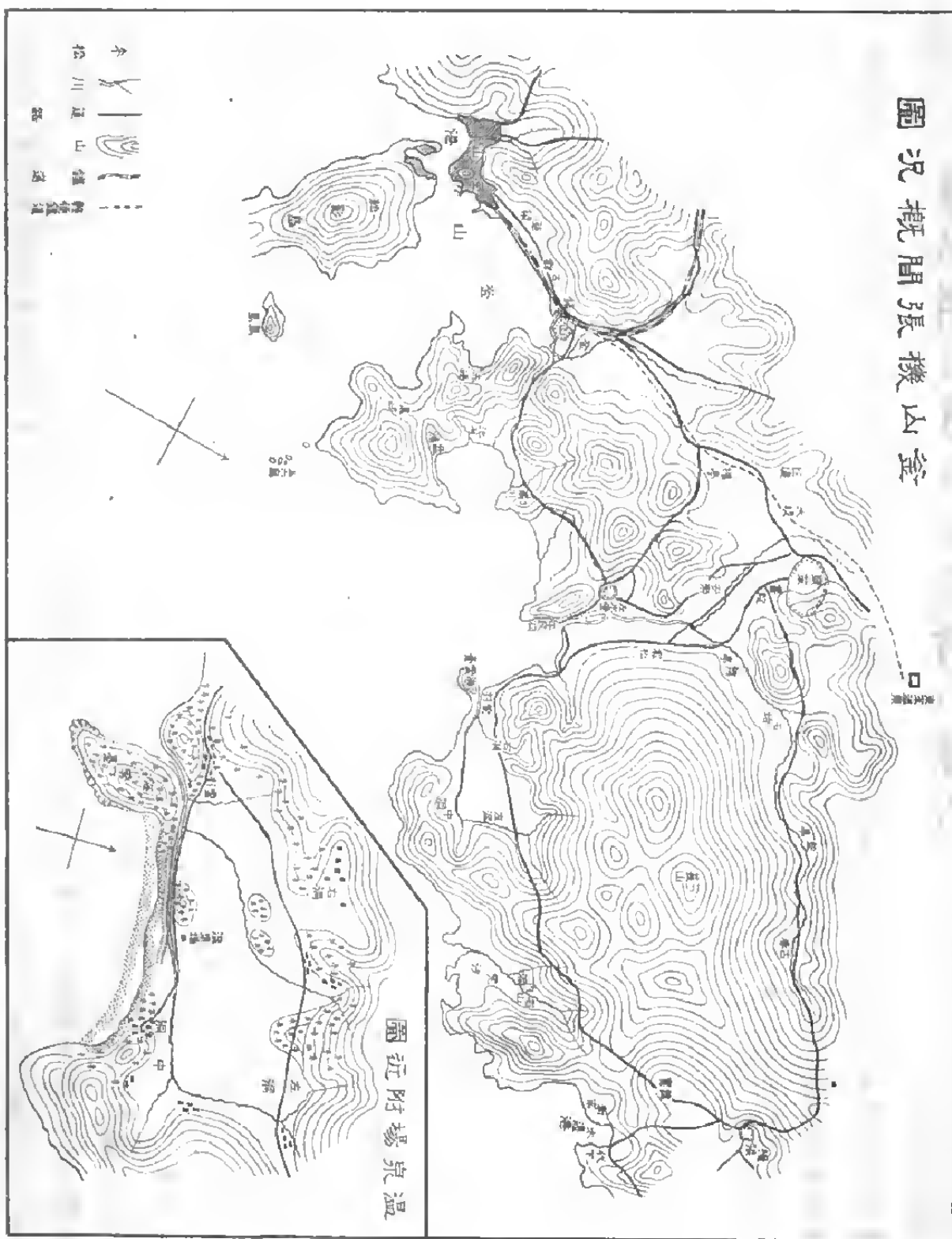
固形物總量	四・七五二
鹽類表	
クロールナトリウム(NaCl)	二・二八二
クロールカルチウム(CaCl <sub>2</sub> )	一九四五
クロールカリウム(KCl)	〇・一七五
硫酸カルチウム(CaSO <sub>4</sub> )	〇・二七六
硫酸(MgSO <sub>4</sub> )	〇・〇六一
鐵(Fe)	痕跡
マグネシウム(Mg)	

以上分析ノ成績ニ依レハ本泉ハ「アルカリ性鹽類泉」ニ屬スルモノナリ

之を要するに此の地は氣候温和水質極めて良好にして山あり海あり風色に富み且温泉の湧出するあり保養地としては他に譲らざる好適地なり而して療養地の選擇は主として其の位置及地勢風土等に重きを置くべきは論を待たずと雖其の交通の便不便並に適當なる設備如何は大なる關係を有するものなれば望むらくは陸路よりの交通を便にし家屋の設備を整へ病者は勿論健康者の避暑海水浴場若は避寒地として發展せむことを望むて止まざるなり



圖 況 概 間 張 機 山 釜





## 經學院に於ける講演の狀況

本院は夙に風教德化の神補を以て目的とし爾來孔子の祭祀を行ひ來りしか今回以上の趣旨を貫徹せむか爲本年三月十七日附同院大提學に對する内務部長官の通牒に基き同院事業の第一著手として六月十四日午後二時第一回の講演を開催し同四時閉會せり其の狀況左の如し

一、講演の題 論語の益者三友損者三友

一、講師 副提學 李容植

一、敷演員 李鼎煥 權寧瑀 李光鍾

一、聴講者 百八十六人

### 講演の要旨

李 容 植

經義の講演に先ち本院の趣旨を説明せむ總督閣下

天皇陛下儒を崇め道を重むせさせ給ふ聖意を奉體し政務多端の今日本院を成均館の舊址に設け文廟の享祀を敬奉し講士を置きて經學を講せしめ毎月之か講演を催し以て儒風を振起し習俗の敦厚を期せしめらる吾道再興り彝倫復明なるへし民生の幸何ものか之に過きむ而して茲に初て講演を催すこととなり此の第一回に於て特に本問題を擧けたるは挽近青年快遊逸樂を以て交遊の道となし殆ど習をなさむとす大提學之を慨き交友に關する經義を講し之に遵はむ

とせるに依る

孔子曰 益者三友、損者三友、友直、友諒、友多聞、益矣、友便辟、友善柔、友便佞、損矣。孔子の片言隻辭金石の訓ならざるなし殊に友道に關する教は銘肝遵奉を要す友道の大切なる小にしては一身一家の榮辱存亡大にしては世道群生の治亂安危亦之に係ること多しと云ふへし豈居常交遊の道を慎まざるへけむや

本文に見ゆる直とは正直なり諒とは眞實なり多聞とは博學の謂なり親む所直なれば善を勸め惡を戒む譬ふれば麻の田に於ける蓬の扶けすして自ら生すること直なるか如し親む所其實なれば自から欺かす人に偽らす仰て天に恥ちす俯て地に忤ちす親む所多聞なれば事に應し物に接するに彼の長を採るこれ三益なり

本文に見ゆる便辟とは不正直なり善柔とは媚悅なり便佞とは能辨の謂なり親む所不正直なれば己の見を是とし其の過を隱して退く所あらむも進む所なかるへし親む所迎合媚悅なれば意思強固ならず猶豫不斷百の誤ありて一の成就なかるへし親む所能辨なれば言を能くすと雖行之に供はす甚しきは身を持する放蕩父母の養をも顧みざるに至るへしこれ三損なり

論語に又曰く善人と共に居るや芝蘭の室に入れるか如く久しくして其の香を聞かざるは之に化したるなり惡人と居るや鮑魚の肆に入れるか如く久しくして其臭を知らざるは之に化したるなりとは意蓋し善友たり惡友たるとを問はす一度交れは之に化して其の善惡を辨へざるに至るを云ふなり豈交友の道を慎まざるへけむや夫益を好み損を惡むは人情の常なり然れども直言耳に逆ひ良藥口に苦しとの譬の如く益友君子の嚴正なるを避け損友小人の迎合媚悅に親むか如きは惜むへしと云はざるへからず



本章益者三友損者三友の次に益者三樂損者三樂の章あり之本章と相表裏をなすもの並讀すれば本章の意義其の精細を盡すを得へし諸君よ善惡自ら擇ふにあり損益自ら取る所による夫れ各勉めよ古語に云はすや其の親む所を見れば其の人を知ると

李 鼎 煥

朋友なるは人類の外になきものなり人類の天地と共に三才をなし萬物に靈たるは倫常の道ある所以にして朋友は實に五倫の一をなし彼の金木水火土に於ける土の定位なくしてよく五行の首たるか如く朋友亦五倫の末位にありて尤重きをなすは同類相愛するの徳なればなるへし交友の道豈重しとせさらん孔子の朋友に關する訓は固より一端にあらざるも其の重なるものを擧ぐれば曰く泛く衆を愛せよと朋友に關する大體の訓をなし又曰く己に如かざるものを友とする勿れと友を得るの方針を教へ又曰く久しくして之を敬へと即ち友を得たる後は長に之れを敬ふへしとて日常友に接するの心得を諭されたり聖人の訓豈嚴正諄切ならずや而して尙本問題に見ゆる益者三友損者三友の損益に各三様の條理を付して以て萬世學者擇友の指針をなさしむ如斯正邪の道昭かなれば慎みて其の正に遵はざるへからず即ち必ず審諦剛直の友に交りて相切磋せは璞玉瑚璉をなすべく必ず忠誠樸實の友に交りて相淬勵せは鈍鋳鏤錙をなすべく必らず宏學博識の友に交りて相磨礱せは塵鏡も寶光を顯はさむ斯くせば三益三損の教に副ひたりと云ふへし

權 寧 瑤

孔子は生れなからに知るの大聖を以て尙仔仔として善を人に取り我徳を進められたり而して友とせらるる所尊卑を擇はるるなし下に問ふを恥ちさるの聖德大度夫如何そやこの大徳を以

て門人を訓へられたる體て天下後世の訓とはなりしなり

今此の三益三損の訓に就て考ふるに直とは正眞なり即ち直友に交りて我直を増し諒とは眞實なり即ち諒友に交りて我眞實を増し多聞とは博學のことなり即ち多聞の友に交りて我智を増せとのことにして恰も大山も土壤より其の大を成し河海も細流を受けて其の深きをなすなどに似たり而して此の多聞の友は直友諒友よりも重し生れなからに知るの資を以てするも尙見聞を廣めすは固陋を免れさらむ孔子も太廟に入りて毎事を問ふと見ゆたり

若友直友諒友多聞の三益に反する便辟善柔便佞を友とせは兼ねて期待する多聞の補ひを得ざるのみならず反て天性固有の直と諒との美德をも傷くに至らむこれ所謂三損なり而して今世の人を友とするに於てのみならず古人を友とするに於ても聖賢を學ひ經書を講ずると然らざるに依りて亦この三益三損あるへし願くは會せる諸君子よ相率ゐて孔子の門に入らむ

李 光 鍾

余薄識を以て講席に參與せるは光榮の至なり本問題の意義に就ては諸講士反復餘す所なければ更に贅言を要せざるへし古語に曰く其の人を知らされは就て其友を見よ友賢なれば其の人賢なり友惡なれば其の人惡なり又曰く師たるに易く友たるに難しと交友の道如斯重く之に關する訓亦多大なり

説く者論語の己に如かざるものを友とするなかれとの句を難して曰く人皆己に如かざるものを友とせさらむか皆獨夫たらむと豈如斯理あらむこれ畢竟書の意を誤解せるに坐するのみ思ふに便辟なる即ち曲りて癖ある友は徒に他を排して己を責むるの德なきも反て直と見倣され善柔なる即ち迎合する友は交り易くして反て諒と見倣され便佞なる即ち能辨なる友は却つて

多聞なる友と見做さる本問題の友直友諒友多聞の三益と友便辟友善柔友便佞の三損とは如斯互に誤り易し今日青年ややもすれば損友を持つ蓋偶然なりと云ふへからす故に聖人この三益三損の訓あり後人審慎之に遵はさるへからす而して特に考を要するは損益云云は決して物品の上にあらず孔子曰く齊景公馬千駟あり死するの日民之を稱へす伯夷叔齊首陽山に餓死するも民今に到りて尙之れを稱ふと見ゆる如く皆道德の上にあることなり

呂圭亨 贈寫しして聽來に  
配付せしもの

友なる者は衆人信を以て交り仁を輔くるもの父子君臣夫婦長幼と共に五倫の一をなす其の重きこと如斯古人嘗て友より善を取りて之を行へと訓へられたるも愚思ふに他に求めず先己に求むるを急務なりとす即ち本問題中三益の正直慈諒多聞の如きも自ら勉め學ひて之を充し温ねて之を知らは皆我に備はらむ故に友に求むるより先己に求めて三益に就き三損を去る可なり然らば聖人の訓は不可なりや否否敢てせざる所なり孔子は生れて知るの大聖を以て尊卑を擇はすして之に友とせられ或は之に説き或は之より聞く之聖人の高明なる所にして此の意を以て訓へられたるなるも今人にして聖人を學ふもの徒らに形體に泥み精神を沒却してよくこの訓に副ふ能はされは友より求むるを後にして先己を修め己に求むるを急務なりとする所以なり

#### 閉會の辭

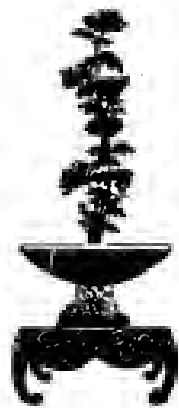
司成 李 人 植

余は聽講の所感を述ふへし

熟熟此の世を見るに懸直の多き實に驚歎に堪ゆ見よ外交家は之を以て手段とし軍略家又然り彼の項羽は四十萬の軍を四百萬と號したる孫臋の竈を滅して二萬となしたる少きを多しとし

多きを少しとするこれ皆正しきにあらず商業家には之を以て資本の如く利用せむとする者あり

宗教には如何と余宗教の眼識あるにあらずるも嘗て朝鮮古來の佛書を見しにこれはく釋迦如來露處默坐六年にて觀性したるか時に鵠は頭髮に巢を構へ蘆は生えて膝を穿つなど今日生理學上にあり得へからざる大懸直あり然とも只此の倫理を基とする孔子の訓には寸毫の偽なく日用萬事之を躬行せざるへからざることのみ若倫に亂れ理に悖らむか曷むそ社會に舉頭すへけむや孔子の言は皆服膺せざるへからざるものなり今日三損三益の訓諸講士の美談又銘肝して實踐せられむことを望む終りに炎天遠來の諸彦に多謝す



# 調査資料

## 輸移出入品包装に関する調査

### 四十五 琺瑯引湯沸 (Enamelled Kettles)

包装の説明 摘要

包装の形状	椭圆形
包装の強弱	弱
包装の種類	竹籠
外装の方法	籠は竹の肉及外皮を以て造れり
外装の材料	割竹及藁縄
内容の方法	籠の内部に藁を布き此の中に湯沸二箇宛藁を以て結束したるものを結合せたり而して籠に藁縄を掛さす
内容の材料	藁
内容の積	25" X 25" X 25" = 25立方呎
包装と運搬上の便否	本品は一包装内に於ける数量一定せざるを以て通關上不便なり
重量と運搬上の便否	八十八斤
風袋の重量	過重ならざるを以て運搬上不便なし
正味の重量	三十斤
包装内容品箇數	五十八斤
抜荷の状況及其豫防方法	六十箇
包装の標記(記號又は番號)	包装不完全なる爲め抜荷の憂あり之を豫防するに籠の目を細密にするにあり
荷札其他標記に関する事	荷受者出荷者の氏名を木札に認めたるものを結び付けり
船車運賃の標準呼稱(單位)	汽船は才、汽車は斤扱
貨物の主たる製產地	大阪
包装に要する費用	二十五錢内外

調査資料

### 四十六 胴張ストーブ (Iron Stoves)

包装の説明 摘要

包装の形状	切斷したる角錐形をなす
包装の強弱	適當
包装の種類	木製枠
外装の方法	四側及上下側に幅八分の三吋厚四分の三吋の板を釘付にしたる枠にて縦八箇所横二箇所を各二條の藁製中繩にて縛る
外装の材料	木板、釘及藁縄
内容の材料	藁
内容の積	26" X 21 1/2" X 18" = 5.8立方呎
包装と運搬上の便否	至便
重量と運搬上の便否	四十五斤
風袋の重量	過重ならざるを以て運搬上至便なり
正味の重量	五斤
包装と取引上の關係	四十斤
船車運賃の標準呼稱(單位)	一箇を以て取引上の單位とす
貨物の主たる製產地	汽船は才、汽車は斤扱
包装に要する費用	大阪 十五錢乃至二十錢

二五

## 四十七 金庫 (Sales)

包装の説明 摘

包装の形状 長方形

包装の強弱 強

外装の種類及方法

蓋蓋にて全部を包被したる上を厚一吋幅五吋乃至八吋の杉板を上下横に於て他の板にて釘付にせる木製枠を兩側に嵌め之を上下側各二箇所に以て同様の板にて釘付し其上を幾條となく蓋蓋を以て縦横に縛む

外装の材料

藁筵、板、釘及藁繩

總容積

38" X 27" X 26" = 1.5 立方呎

重量と運搬上の便否

其の形状大なるに従つて其重量増加するを以て過重の爲め不便を感ず

總重量

四百十斤

風袋の重量

六十斤

正味の重量

三百五十斤

船車運賃の標準呼稱(単位)

汽船は才、汽車は斤扱とす

貨物の主たる製産地

大阪、東京

包装に要する費用

六十錢乃至七十錢

要

## 四十八 洋燈傘 (Glass lamp shades)

包装の説明 摘

包装の形状 圓筒形

包装の強弱 弱

外装の種類

割竹製の籠

外装の方法

竹の内皮を以て目荒く作りたる竹籠にして之れを藁及蓋にて結束したるものなり

外装の材料

割竹、繩及藁

内装の方法

蓋を敷きたる上に一枚宛收め又各傘の間にも蓋を嵌り

危険豫防方法

籠の外部に直徑三吋位に籠の長さ等しき蓋把を五箇所に結束し以て他物の抵抗を防ぎたり

總容積

直徑十六吋、長二十七吋半此立積は二立方呎

包装と運搬及通關上の便否

數量一定せるを以て通關上便なり

總重量

二十九斤

重量と運搬上の便否

輕量なるを以て運搬上不便なし

風袋の重量

九斤

正味の重量

二十斤

包装内容品數量

二打半入

抜荷の状況及其の豫防方法

包装不完全なるを以て抜荷の憂あり之れを防止するに竹籠の目を密にするにあり

包装の標記

荷受人及荷出人の氏名を記したる荷札を附せり

船車運賃の標準呼稱

汽船は才、汽車は斤扱とす

貨物の主たる製産地

大阪

包装に要する費用

十錢内外

要

## 平安南北及黃海三道採金狀況

當地方即ち平安南北兩道並に黃海道の一部より昨年度に於て產出せる金地金の總額は第七項に表示する如く六百七十八萬七千七百六十七圓の巨額に達せり然るに其の採掘精煉に關する目下の状態を見るに外國人の經營に係るものを除くの外即ち主として朝鮮人の企業に成るものに在りては採掘及精煉の

種別	四十五年大正元年	四十四年	四十三年
移出金地金			
數量	一三三、四七〇	一〇六、二〇八	六三、六八二
價額	三、五九一、二四五	三、三三五、九五五	一、八四三、八〇九

前表中明治四十二年の全部並に四十三年の大部分は釜山税關に於て移出手續をなし其の他は悉く平壤税關出張所に於て其の手續を爲したるものにして全部内地へ輸送し大阪造幣局へ買上げられたるものに係る今前表に基き其の増減の事由を記述すれば左の如し

平壤に於ける客年の金地金移出高は前表に示す如く三百五十九萬一千四百四十五圓の巨額に達し之を同年朝鮮全體に於ける移出總額九百十四萬一千二百九十七圓に對比すれば實に其の全額の三分の一以上を占む又昨年の移出額を以て一昨四十四年の移出額に對比すれば二十六萬五千九百九十圓を増し同しく四十三年に對比すれば百七十四萬七千三百三十六圓を増し更

方法極めて幼稚にして貴重なる金分の幾割を徒に漏逸しつつあるは斯業の發展上並に國家經濟上看過すべからざる事柄と認めらる

### (一) 平壤市場經由移出金地金

明治四十二年以降大正元年に至る平壤移出金地金の數量價額を掲げ其の比較増減を表示すれば

年	四十五年大正元年	四十四年	四十三年
數量	一三三、四七〇	一〇六、二〇八	六三、六八二
價額	三、五九一、二四五	三、三三五、九五五	一、八四三、八〇九

に四十二年に對比するときは實に二百七十六萬四千九百四十圓の増加を來せるものとす斯く僅に三年間に四倍餘の増加を來したる事實は地方經濟上體に注目し値する現象たるへし其の原因は種種あるへしと雖主として(一)往時にありては採金業なるものは徒に失費のみ多くして收利少く他の農工其の他の産業に比し利益遙に少き爲一般企業家に閑却せられ他に恰好の職業なき者のみ已を得ず之に従事するの傾向なりしか近年に及び第六項に記述するか如く採掘精煉方法の改良進歩に依り採收純分の量増加し從て他業よりは收利多く且有望なる事業の一となりたる爲之か從業者の數非常に増加したり(二)古來本業の資金は「徳大」と稱する一種の受負業者より現金を以

て給與せられ而して之か償還方法は採取金塊を以て精算せらるるの慣例にして其の間に在りて「徳大」は法外の高利を收め爲に採金者の利益は極めて薄く恰も「徳大」の指揮の下に驅使せらるる一種の労働者に過ぎざるか如き有様なりしを以て斯業に活氣乏しく發展進歩を認むる能はざりしか併合後新政の布かるるに及び各地金融機關整備し經濟界一般の傾向に従ひ事業家より徳大に支拂ふ利率も數年前よりは大に低下せられ事業經營の利便甚しく増加したる等に基くものと認めらる

## (二) 貿易經濟と金地金との關係

金地金と輸移出入貨物其の他との經濟貿易關係を明ならしむる爲先當地方全體即ち平安南北兩道及黃海道の一部に於ける輸移出入貨物の經路及各地商勢力の分野並其の經濟關係等を記述せむに平安北道は金の採掘を以て立ち南道の大部及黃海道は米雜穀の產出を以て生命となすに依り彼上各地は金の全部米穀の大部を内外に輸移出し其の賣渡代金を以て各種輸入貨物を購買するの狀態にあり而して其の輸移出入經路は地理的及經濟的關係により穀類は主として鎮南浦を經由し金は平壤を根據として輸移出せられ其の交易物たる輸移入貨物に至りては金融其の他の經濟關係に依り大部分は平壤を通して行はるるの現狀なり即ち當地方貿易の全部は平壤鎮南浦兩地貿易業者の手に依り處理せらるると雖兩者各其の本分を異にし平壤は金の移出並に百貨の輸移入を司り鎮南浦は米、大豆、

雜穀、鐵等の農、礦產物の輸移出を以て立脚地となす可き自然の運命を有するものと云ふへし

以上の理由に依り平壤は有名なる米穀產地の中央に位置するにも拘らず其の輸移出貨物は都て鎮南浦に輸送せられ平壤税關出張所に於ける一般商品の輸移出統計の數字は連年極めて低位にあるも反之輸移入貨物に至りては金地金との關係よりして年年偉大なる増加發達を來す所以なり今之を昨年に於ける一般貨物の輸移出入統計に見るに輸移出貨物の價額は三十七萬二千二百十五圓にして輸移入は三百二十二萬五千六百五十一圓を示し結局二百八十五萬三千四百三十六圓の輸移入超過となれり

是に由りて之を觀れば平壤貿易は甚しき輸移入超過を告げ又年年之と同一の傾向を有するに依り人或は當地經濟上の基礎に對し危懼の念を挾むなさを保せずと雖是移出金地金の價額を別途計算と爲すかために起る疑念にして若之を貨物貿易額に加算し出入貿易の權衡を考查するときは經濟上の根柢は其の反對に非常に強固なるを認むるを得へし今之に關する數字を擧ぐれば客年中當地より移出せる金地金は三百五十九萬一千四百四十五圓にして此内一般經濟に關係少きもの即ち外國人の經營に成る京城鐵山會社の遼安鐵山產金價額九十四萬三千七十七圓を除きたる殘額二百六十四萬八千六十八圓は主として朝鮮人礦業者の所得金となり之に普通商品の輸移出價額三



十七萬二千二百十五圓を加へたる三百二萬二百八十三圓は平壤市場と經濟關係を有する各地の收入となりたるものなり故に之を同年度輸入貨物總額三百二十二萬五千六百五十一圓より控除するときは結局僅に二十萬五千三百六十八圓の輸入超過に過ぎず尙他稅關經由當地より輸出せる米穀其の他の價額を其の出貨額に算入するときは寧ろ反對に大なる輸出超過を現出すべきは推定するに難からず以て當地貿易經濟の地盤如何に鞏固なるやを知るに足る可く是偏に莫大なる金地金の産出に起因するものたるは毫も疑を存するの餘地なし

### (三) 產地

専門家の觀察に依れば平安南北兩道及黃海道的大部分は悉く金鑛地と稱するも不可なき程豊富なる鑛脈を有すとの事なるを以て當地方に於ける産金は實に無盡藏と稱するも不可なく朝鮮に於ける各種産業中採金業は將來最有望なるものと謂はざる可らず而して目下盛に採掘せらるる地方は平安南道に在りては价川、殷山、順安、平安北道は昌城、朔州、龜城、宣川、郭山、博川、雲山、泰川、寧邊の各地、黃海道にては遂安、松禾等其の主なるものとす

### (四) 採金業者

巨額の資本を投し組織の完備せる工場を構へ大規模の採掘精煉に従事するは雲山金鑛に於ける東洋鑛業合資會社遂安金山の京城鑛業會社の二者にして共に英米人の企業に係り最著名

なり内地人にして本業を經營するは順安に於ける淺野總一郎を措ては目下他に著しきものなし近來安川敬一郎、古川虎之助等の鑛業家は昌城、龜城等に有望なる鑛區を得既に採掘に著手せるを以て一兩年後には完全なる設備の下に採掘を爲すに至らむ是朝鮮開發上最も悦ふべき事柄と謂ふへし

### (五) 鑛種

金鑛には砂金、石金の二種あり砂金は土砂中に混雜存在する粒狀の金塊にして石金は岩石中に微分子となりて含有せらるる金分なり順安、松禾の兩地は砂金のみにして价川、殷山、遂安は砂石の兩鑛を産出し昌城、朔州、龜城、宣川、郭山、博川、雲山、泰川、寧邊は石金のみとす

### (六) 採掘及精煉方法

大規模の鑛業に従事するは前記外國人經營の雲山、遂安の兩鑛のみにして順安に於ける淺野鑛山も又相當の設備を有す其の他大多數の鮮人經營鑛區に在りては手掘同様の採掘を爲し精煉方法も亦極めて幼稚なるものなり而して砂金の採取は敢て繁雜なる手数を要せず掘鑿土砂を其の儘水流を利用し洗除法に依り金塊を採取するに過ぎざるを以て爰に之か詳説を略し以下鮮人の石金採取及精煉の方法並に其の變遷を述ふへし往時に在りては合金豊富なる鑛脈を發見するときは爭ふて其の富鑛部を亂採し毫も永遠の計畫を考慮せざりし爲鑛利を損すること甚しきものありしも近來鮮鑛業者の思想の進歩と共に

に鑛床の調査、採掘、精煉の方法等に關し専門技術家の意見を求むる等多少の注意を拂ふに至り殊に精煉法は從來單に不完全なる混汞法にのみ依りたるも近來漸次青化法を併用するに至り従て其の收金率を増加すること顯著なるものありて悦ぶべき現象なりと雖も而も未だ科學思想幼稚にして各種鑛石の種類に依り搗鑛精煉の方法に變化を生じ鑛尾泥鑛の處理に異同を來すか如き其の應用の知識を缺くか爲管に合金の漏逸を免かれざるのみならず往往にして其の施設に齟齬を來し却て意外の損失を招くか如きことありて指導改良を要すべき點甚だ多し

加之硫化鑛に至りては鮮人は勿論外國人内地人と雖朝鮮にては精煉を爲す能はず内地人經營のものは鑛石の儘内地精煉所に輸送し外人も亦其の本國に輸送しつつあるは惜むべき事に屬す又結氷期に入りては朝鮮にて精煉し得る鑛石と雖も作業困難なる爲態内地に輸送せざる可らざる等現時に於ける當地方の精煉業は舊時に比し幾分の進歩は認め得らるるも之を専門技術上より觀察するときには設備極めて不完全にして貴重なる金分の漏出すること少からず事業經營上不經濟なるは寔に遺憾とする所なり

### (七) 産 額

曩に第一項に表示せる金地金の數量價額は平壤市場を經由して内地に移出せるもののみに係り當地方全體の産額にあらさ

るを以て之に産地より直接輸送せられ他税關にて移出手續を爲せしもの即ち東洋鑛業合資會社の經營に成る雲山金鑛産出の分を加算するときには平安南北及黃海三道の金産額を知ると得へし今之を表示すれば左の如し

種 別	四十五年 大正元年	四十四年	四十二年	四十五年大正元 年引上増減額	四十四年大正元 年引上増減額
雲 山	數量 一七〇、五七五 價額 三、一九六、六三三	數量 一五二、五三三 價額 三、二六六、七〇〇	數量 一四八、九八八 價額 二、八二七、六六四	(+) 一、六六、九三三 (+) 三〇〇、二三八	(+) 三、八三八、九八八 (+) 一、〇八、四九六
遼 安	數量 二二六、八三三 價額 九、三〇七、三七七	數量 二〇九、二九〇 價額 八、九七九、二五五	數量 一八八、三三三 價額 八、〇六六、六七七	(+) 一、八八、五三三 (+) 一、五五、五三三	(+) 一、八八、五三三 (+) 一、五五、五三三
其 他	數量 七〇、二六三 價額 二、六八八、〇六八	數量 六八、三三三 價額 二、六八八、〇〇〇	數量 六八、三三三 價額 一、八四三、八〇九	(+) 一、八八、五三三 (+) 一、八八、五三三	(+) 一、八八、五三三 (+) 一、八八、五三三
計	數量 四六七、六七一 價額 一六、一五二、〇七三	數量 四二九、一五六 價額 一五、二二二、四〇一	數量 四〇五、六四四 價額 一三、七二〇、三六〇	(+) 三八、五一五 (+) 二、四三一、七一一	(+) 三八、五一五 (+) 二、四三一、七一一

右の如く客年當地方三道に於ける金地金産出高は合計六百七十八萬七千七百六十七圓に達し之を朝鮮全體の同年度移出總額九百十四萬一千二百九十七圓に對比するときには實に其の三分の二以上を占むるの盛況を示し我朝鮮の經濟關係に於ける一大重要事實と謂はざるへからず

次に前表中雲山遼安兩鑛山産出金の賣却代金は直に外國會社の收入と爲るに依り當地方貿易經濟とは特殊の關係を有せざれども表中「其他」の金額二百六十四萬八千餘圓の大部分は輸移入貨物購買の資に充てらるるものなるか故に特に注目を要するものとす

(八) 出廻並に移出状況

前項に表示せる金地金の内雲山産出の分を除くの外は一旦悉く平壤に集中したる上鐵道便に依り内地に移出せられ大阪造幣局に買上げらるるものなり而して當地仲繼の内遂安産は朝鮮銀行平壤支店に於て會社よりの依託により運送並に造幣局への納付手續を爲し其の他の地金は鑛主又は仲買人の手に依り同銀行支店若は鮮人十數名の共同營業たる平安分析所に賣渡し兩買受所は之を内地に移出し造幣局へ賣渡すものとす

今以上の順序を詳説すれば各地方に於て精煉せる金地金及砂金は地方仲買人或は鑛主自ら携帶來壤し直接若は平壤市内仲買人を介し朝鮮銀行平壤支店又は平安分析所に就き其の賣買を商議す兩買受所に於ては提供せられたる現品の一少部分を分析して含有純金分を鑑定し純分一匁に付四圓八十錢の割にて買受け更に各品種別として溶解し一定の鑄型に注ぎ長方形の金塊となし平壤税關出張所に就き移出手續をなし汽車便にて大阪へ輸送し純分一匁に付五圓の割を以て造幣局に賣渡すものなり而して當地に出廻る鮮人精煉の石金は曩に第六項に述べたる如く精煉方法不完全なる爲亞鉛其の他の不純物の含有多し

尙平壤に於ける金塊仲買商は鮮人十五名あり何れも當地有力なる商人に係り第二項に述べたるか如く金の對貨たる輸移入貨物の仲買業を兼營す今昨年度に於ける兩買入所の移出額を

表示すれば左の如し

店 別	數	單 價
朝鮮銀行平壤支店振込金續分	二七、六六五	九四三、〇七七
同 店 買 收 高	三三、五七四	九三九、八〇七
平 安 分 析 所 買 收 高	六、二二一	一、七〇八、二六二
合 計	二二、四七〇	三、五九一、一四九

(鎮南浦税關長報告)

## 輕便「タオル」織試織成績

此の裝置は朝鮮總督府工業傳習所技手井野勇太郎の創案に成るものにして別紙圖面の如き構造を存し考案の要部は「ルーブリッド」に歪板を作用させ而して此の歪板は三角框、鉤、「スプリングハンマー」等の働により歪板軸は三分の一廻つゝ廻轉せられ以て緯絲三本打込む毎に四、五分の間隙を作り又之を打込む作用をなす

此の裝置は何れの織機にても自動巻取器を具ふるものには容易に取付くことを得るものにして其の費用は約五圓にて足る

本機を以て生徒實習用として始めて試織せしめしに運轉至て輕く不熟練なる者も一日(六時間)十二、三枚の製織を得たり若之を營業的に經營せむには右の三倍以上の製産力を出す事

は容易にして綿絲一玉を以て七十五枚乃至八十枚を織成し得へし

之に要する原料代綿絲一玉金三圓九十錢染料藥品其の他下拵費八十錢内外合計四圓七十錢にして之を七十五枚に分ては一枚に付六錢餘の元價なり

該品の市價は卸相場にて一枚に付九錢の品位に相當するを以て一枚に付二錢七、八厘の手間賃となる割合なれば生徒の練習製織としても一日約三十錢の收益あり

タオルの最近三箇年の輸移入額は左の如くにして斯の製織業は將來有望と認めらる

明治四十三年

六四、六五、八

同 四十四年

九七、〇二、四

大正元年

一三六、六五四

### 圖面の解説

本機を使用するには普通の手織機(ボタン付)と異なることなり先第一圖(ネ)なる腰掛板に腰を掛け左手にて(ソ)なる「スレーカップ」を握り右手には(ラ)なる溝車に掛けたる引手を持ち次に兩足にて(ッ)なる踏木を踏み普通「ボタン」にて織る如き調子を以て織れば可なり

緯絲三本毎に間隙を作り又之を織込む作用は(ハ)なる鉤によりて三分の一廻つつ廻轉せらるる歪板(イ)か(ヘ)なる箴框後部に作用し箴をして杆摺に緊著し或は遊離せしめ以て打込みに差違を生せしむるものなり(ホ)は(ロ)なる三角框の一邊を壓して一廻毎に之を維持する作用をなす

次に環絲を織り出さる場合には(ハ)なる鉤を外部に外して(ロ)なる框に作用せしめされは可なり

(リ)は滑轉子にして杆により箴框後部中央に取付けらる之は箴か後方に在る時即ち杆か運動し居る間に(ヌ)なる平彈條に壓上げられ箴をして杆摺に緊著すべき作用をなさしむ而して箴打ちの時は(ヌ)と(リ)は相離して箴框は歪板に接觸す此の時歪板の短き半徑の部分に接すれば箴は後進して前に打込みたる緯絲と四、五分の間隙を作る

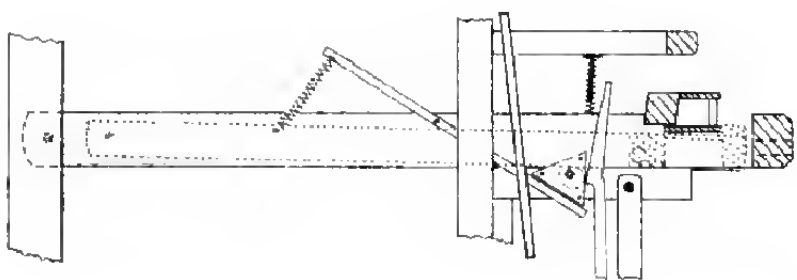
彈條(エ)は此の時箴框を後方に突きて一定の間隙を作るべき補助作用をなす

箴框は如此歪板の短き半徑の部分に二回接觸し次に歪板の最も長き半徑の部分に接觸す即ち箴か杆摺に緊著して前進し以て前に作れる間隙を一時に打込む此の際環絲は豫め(ル)なる張弛器により弛むべく適當に裝置され一齊に環となり布面に突出するものなり

第一圖は箴か杆摺に緊著したる時即ち前に作れる間隙を織込む位置を示し第二圖は其の次の打込みを示す此の際箴框は歪板の最短半徑の部分に接觸し従て箴は杆摺より四、五分の間隙を作りて其のまま前進し以て箴打をなす此の故に前に打込みたる緯絲と四、五分の間隙を作る而して其の次の打込みにも亦右の如く箴框は歪板の最短半徑の部分に接觸前進し普通の打込み作用をなし亞に第一圖に示す如く歪板の最長半徑の部分に接觸し箴に接觸前進し以て前に作れる間隙を一時に打込むものなり

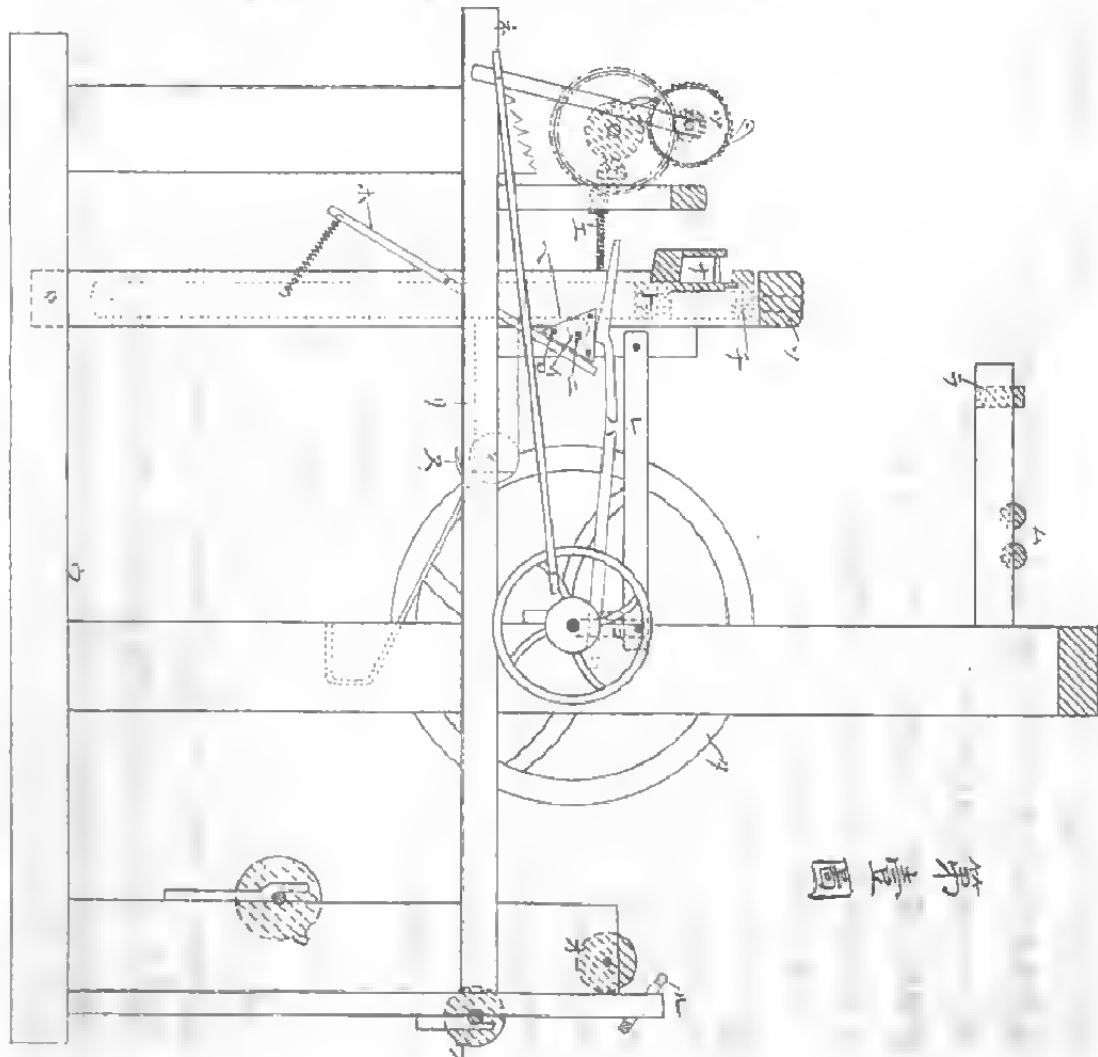
# 輕便才織機側面圖

第貳圖



- 一 角 板
- 二 軸
- 三 鋼
- 四 鐵 板
- 五 鐵 板
- 六 鐵 板
- 七 鐵 板
- 八 鐵 板
- 九 鐵 板
- 十 鐵 板
- 十一 鐵 板
- 十二 鐵 板
- 十三 鐵 板
- 十四 鐵 板
- 十五 鐵 板
- 十六 鐵 板
- 十七 鐵 板
- 十八 鐵 板
- 十九 鐵 板
- 二十 鐵 板
- 二十一 鐵 板
- 二十二 鐵 板
- 二十三 鐵 板
- 二十四 鐵 板
- 二十五 鐵 板
- 二十六 鐵 板
- 二十七 鐵 板
- 二十八 鐵 板
- 二十九 鐵 板
- 三十 鐵 板
- 三十一 鐵 板
- 三十二 鐵 板
- 三十三 鐵 板
- 三十四 鐵 板
- 三十五 鐵 板
- 三十六 鐵 板
- 三十七 鐵 板
- 三十八 鐵 板
- 三十九 鐵 板
- 四十 鐵 板
- 四十一 鐵 板
- 四十二 鐵 板
- 四十三 鐵 板
- 四十四 鐵 板
- 四十五 鐵 板
- 四十六 鐵 板
- 四十七 鐵 板
- 四十八 鐵 板
- 四十九 鐵 板
- 五十 鐵 板
- 五十一 鐵 板
- 五十二 鐵 板
- 五十三 鐵 板
- 五十四 鐵 板
- 五十五 鐵 板
- 五十六 鐵 板
- 五十七 鐵 板
- 五十八 鐵 板
- 五十九 鐵 板
- 六十 鐵 板
- 六十一 鐵 板
- 六十二 鐵 板
- 六十三 鐵 板
- 六十四 鐵 板
- 六十五 鐵 板
- 六十六 鐵 板
- 六十七 鐵 板
- 六十八 鐵 板
- 六十九 鐵 板
- 七十 鐵 板
- 七十一 鐵 板
- 七十二 鐵 板
- 七十三 鐵 板
- 七十四 鐵 板
- 七十五 鐵 板
- 七十六 鐵 板
- 七十七 鐵 板
- 七十八 鐵 板
- 七十九 鐵 板
- 八十 鐵 板
- 八十一 鐵 板
- 八十二 鐵 板
- 八十三 鐵 板
- 八十四 鐵 板
- 八十五 鐵 板
- 八十六 鐵 板
- 八十七 鐵 板
- 八十八 鐵 板
- 八十九 鐵 板
- 九十 鐵 板
- 九十一 鐵 板
- 九十二 鐵 板
- 九十三 鐵 板
- 九十四 鐵 板
- 九十五 鐵 板
- 九十六 鐵 板
- 九十七 鐵 板
- 九十八 鐵 板
- 九十九 鐵 板
- 一百 鐵 板

第壹圖





# 玉珠貝赤貝調査

## 第一 調査の目的及方法

明治四十四年秋期麗水灣に於て玉珠貝、赤貝の濃棲地帯發見せられし以來漸次世間に喧傳せられ該漁業に著眼するもの多きを加へたるを以て此の際に於て漁場の維持法を講ぜすむは漁場枯渇の虞あるを以て其の蕃殖狀態を審にし相當保護取締方法を説くるの要あり而して其の漁場區域は恰も本道と慶尙南道との境界にあるを以て兩道技術員の立會調査を爲すこととし調査には漁船一隻を備上げ玉珠貝搔及貝桁打瀬の兩漁具を使用し漁場樞要の箇所就き部分的に其の海理並蕃殖狀態を調査せり

## 第二 漁場の廣袤

玉珠貝の最密棲する箇所は本道と慶尙南道との境界に當る麗水半島及突山本島の東岸と慶尙南道所管の南海島の南西岸を以て劃する海圖の所謂麗水海灣にして其の地域北は麗水半島瓦洞の南方岬端より南海島西湖洞に至る一線南は突山島大端岬より南海島天王山(標高一、一二三呎)に至る一線東側は西湖洞沖合半海里の點、螺峯突角沖合四分の一海里の點及以里山を正南に距る海岸沖合一海里五分の三の點を連結する線、西側は瓦洞南方岬端沖合五分の三海里の點、梧桐島の沖合(正東)五分の三海里の點及天王山より突山島大端岬に至る一線

と同島巨摩角より南海島の西南海岸に存する標高一、四二二呎の山嶽を見通す一線との交叉點を連結する線とす之を矩形となし地積を測れば南北八海里東西二海里即ち十六平方海里に及ぶ

以上濃密區域の周邊は亞濃帶に屬し其の内南海島の南方沖合に位する方面最廣濶にして其の棲息濃度は西より東するに従ひ稀薄となるものの如く又瓦洞と西湖洞との連結線以北郡及南海島の南西に位する亞濃帶には一年生乃至三四年生の稚貝蕃殖するもの甚多し而して潮流に従ひ分布するものの如し(亞濃帶に屬する地積を測定するに三十六平方海里に互る(圖參)赤貝の棲息區域は玉珠貝に比し遙に廣濶にして南海島雲興洞沿海より起り彌助群島、頭尾島、七里島、世尊島を経て安東の北東端に達し之より北上して麗水半島の東岸洛浦角に及ぶ其の内最濃厚なる箇所は南海島の西側沿海一海里以内及半島より螺峯に至る一線以南の地域附近とす但し玉珠貝の密棲する處には赤貝棲息するもの殆ど之なく玉珠貝の稀薄となるに従ひ赤貝の蕃殖多きを加ふるか如し

## 第三 漁場の海理

海底急激なる凹凸なく一般に平坦にして桁網類の使用に適す而して東岸(麗水半島、突山本島方面)より西岸(南海島方面)に向ひて傾斜す水深は麗水海峽方面に在ては六七尋(海圖の記以下同し)を最淺とし中央に至るに従ひ漸次深を増し九尋乃至十尋(六尺)を最淺とし中央に至るに従ひ漸次深を増し九尋乃至十尋

至十尋なり南海島沿岸に近き箇處は十四五尋に達す養殖地帯の最北端即ち瓦洞より西湖洞に至る一線以北の部分は大に深を増し十六七尋乃至十八尋に達す麗水海峽以南東即ち大端角より以里山に至る一線よりの沖合は十尋乃至十二尋より起り東南に遠さかるに従ひ漸次深を増し小致島附近は十四五尋老嫗島附近は十五六尋白島附近は十九尋乃至二十尋七里島附近は二十二三尋乃至二十六七尋に達す

海底土質は一帯に暗灰色の軟泥にして渡瀬附近に於ては一部分に大豆大の砂礫を混する處あり又南海島の南方沖合は麗水海峽地帯に比較し一般に泥質軟きを認む

養殖地帯に於ては大なる島嶼岩礁なきも小なるものにありては麗水港の東口沖合に於ける梧桐島、南海島南方沖合に於ける小致島、老嫗島、白島及麗水海峽中の渡瀬五萬里沖合に於ける標高十九呎の岩礁牛岩、羊岩等點在するものあるを以て四周の山脈と共に漁場山見法を行ふ目標と爲すに便す沿岸の地質は片麻岩より形成せらる（農商務省農事試験場調査朝鮮土性圖に依る）

山嶽は標高一、五〇〇乃至二、五〇〇呎内外のもの漁場の周邊に峙つもの多し孰れも密林を有せず

漁場には大なる河川の開口するものなきも蟾津江の排水は本漁場に及ぼす影響少からざるべきを認む

潮流の方向は麗水海峽内に在ては満潮は北し干潮は南す但し麗水港東口部に於ては満潮は同港水道に向て流入し干潮流は

之に反す又南海島の南部に於ては満潮は偏西し干潮は偏東す潮流の速度は急激ならず最急なる時にして一時間二哩を超へず小潮時に於ける流勢は甚だ遅緩なり潮水は甚しく混濁せず本漁場には赤潮（一名苦潮）の來襲するは稀なるか如し而して玉跳貝及赤貝等の老成貝群棲するものあるを看ればよし赤潮の來襲することあるも水深深きと潮水の流通良しきとに由り海底棲息の貝に被害の及ぶもの少なきものと推定せらる

波浪は東より南を経て南西に至る迄の方位の強風には高浪を生ずれども北及西風は陸に遮きられ高浪起らず故に本漁場は冬季間の出漁に安全なり

潮升 潮升は大潮時に於て三尋内外

風向 十月より三月迄は北西風及西風卓越し又往往北東風を交ゆ四月及九月の兩月は風向極めて區區なれども概ね偏東風多し五月より八月迄は南風最多にして東南風之に次ぐ雨雪霧 四月より降雨頻多となり七月に及て梅雨期に入り十日以上の降雨連續することあり霧は四月頃より始り六七月に至て頻多となる降雪少し

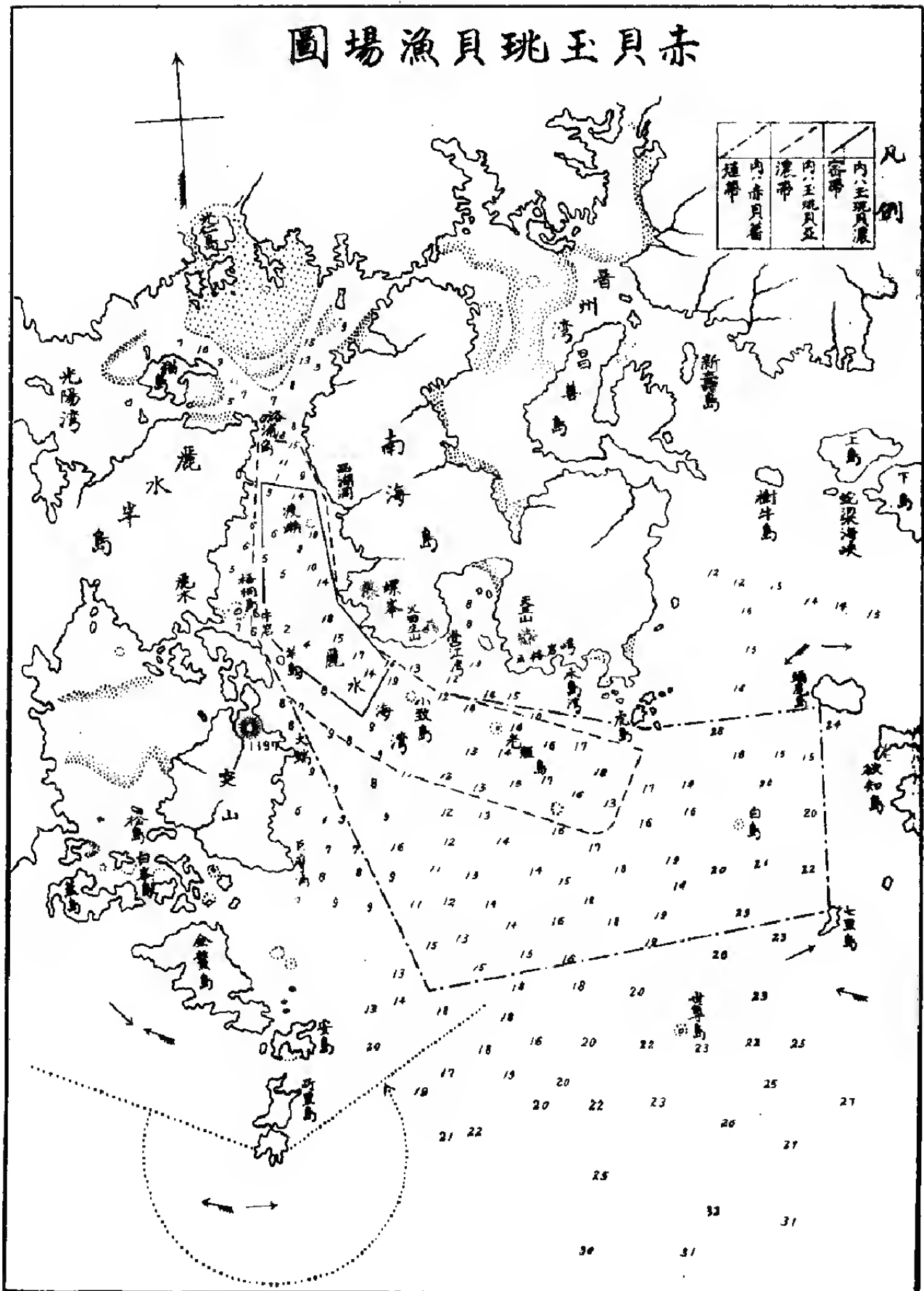
#### 第四 漁場に於ける他の漁業

玉跳貝、赤貝の養殖區域内には他種の漁業を営むもの極めて少し前年度に於ける状態次の如し

一手繰網 五十隻主として鮮人の營業なり漁期四月中旬より五月上旬まで烏賊魚漁五月中旬より九月下旬までは鰯魚漁



赤貝玉珧貝漁場圖





冬季間は天候静穏なる日のみ出漁す

二 鯛延縄 主として鮮人の漁業とす出漁船數約十隻漁期は四月中旬より七月まで及十、十一の兩月とし四月中旬より五月上旬迄は黒鯛漁其の以後は鯛漁とす

三 太刀魚、石首魚釣 主として鮮人の漁業とす出漁船數約四十隻漁期は夏秋の候なり

四 鮫鰯網 昨年より著手せられたるものにして主として内地人營業とす出漁船數は鰻鮫鰯網十三隻荒目鮫鰯網五隻漁期は前者は四月中後者は七八の兩月漁場は前者は洛浦附近後者は螺峯岬角附近なり共に漁場は廣潤ならず多數の同漁船を容る餘地なし

玉珧貝の密棲する箇所に於ては漁具を毀損せらるること甚しきを以て延縄漁及底部に達する各種の網具は其の區域内に於て操業することを避く

#### 第五 玉珧貝、赤貝の生態

##### (イ) 赤貝

#### 一 動物學上の分類記載

學名 *Arca inflata* Reev.

殻斜卵形 薄し 膨る 兩瓣不等に近し 上方(前後背縁)に於ては輕き角あり下方(前後腹縁)に於ては丸き兩側を有す帶白色 角は暗褐色の表皮を有す鱗を以て被はる(放射)肋間を有す放射肋多數 四〇 平滑なり 韌帶面狭きに近し 斜な

調査資料

り 兩殼頂突出す、少しく近し

二 習性 水温三十四度に達すれば殻を開き感覺を失ふ氣温は零度以下四度に於て二時間堪ゆることを得比重は一、〇〇一にては死す一、〇一五にては煩悶の狀を呈す一、〇二〇にては變化を見す

赤貝の運動に就き或る研究者の説に依れば赤貝を普通の棲息狀態(軟泥内)に置き其の體軀の上部に壓石を施したるに漸く一週間の後に其の壓石下より移轉し得たりと云ふ即ち運動は極めて遲緩なるを知るに足る貝絲は狹短なり

三 食餌 胃中を検するに各種の動植物を攝取せるを見る

四 生長度 現在蕃殖するものに就き見るに七八年の老貝は體長三寸五分二年生は體長一寸内外なり

五 蕃殖狀態 赤貝の蕃殖狀態に就ては部分的に調査したるに止まり詳細の調査を遂げず且其の調査用器具も適當なるものを得ず加ふるに調査期日に餘裕なかりしため數字的に之を掲ぐることはさるも梧桐島より南海島螺峯に至る一線以南に於ては玉珧貝の棲息數より多きを知り而して其の蕃殖區域に就ては從來此の方面に操業せし貝桁網、打瀬網(魚類捕獲用)漁業者等の實驗を参照し尙今世尊島、白島、頭毛島、彌助群島内の古島を連結したる線内に於て數箇所實査せし處に依り判斷すれば尙其の沖合に在ても蕃殖するを疑はす現在操業しつつある貝桁打瀬に就き取調ふるに梧桐島沖合に於ては赤貝

と玉珧貝と等分に捕採し尙沖合に去れば漸次赤貝の捕採率を増加す

(ロ) 玉珧貝

玉珧貝に就きては未だ學者の專門的研究を爲せしものなきを以て學術上の分類記載をなすこと能はず近來玉珧貝を三種に分類するとの説あれども麗水海灣産は何れの種類に屬するやを知らず外殼に轉なき種類なり

玉珧貝生長度

(大正二年五月七日調)

年齢	一年生	二年生	三年生	四年生	五年生	六年生	七年生	八年生	九年生
體部									
長	二九〇	六二〇	六七〇	七二〇	七九〇	八七〇	九二〇	一〇〇〇	一〇〇二
高	一二五	三三〇	三三〇	四二〇	四二〇	四七〇	四八〇	五二〇	五四〇
幅	〇・四二	一・〇〇	一・二〇	一・五〇	一・六〇	一・八〇	一九〇	一九〇	一九〇

備考 六年生以上のものにありては年輪明瞭を缺き且殼の大きに著しき差あるを認めざるに至る

或日春藤一郎氏は體長一尺二寸體高六寸肉柱の重量六十匁の老貝を獲たりと

現在蕃殖せる状況を視るに濃密帯にあるものは七年乃至九年生のもの最多にして幼貝は極めて稀に之を見る之恐らくは成貝の密棲に由り幼貝の生息地積を奪はれ或は其の食餌となりて發育を遂げ能はざるに依るものならむ亞濃密帯に於ては一年生乃至四年生のもの多く又往往六七年生のものも混棲するもの少からず試に玉珧貝の蕃殖数を算定せしに約二十四億八千萬と推定せられたり其の算出の基礎は即ち次の如し

濃密帯に棲息する八、九年生の大なるものの玉珧貝の平均體

高五寸體幅二寸三分の相乘積一・五平方寸を二分したる數五、七五平方寸を以て貝一箇の平面體積とし(玉珧貝は菱形なれば體高と體幅の相乘積を二分せば平面體積を得る勘定なり)其の平面體積の三倍を以て貝一箇の棲息に要する地積と看做し(動物學上貝類は平面體積の三倍の地積あれば棲息し得るものとせらる)其の地積一七・二五平方寸を以て一坪の面積を除し其の得たる數二〇八の三分の一を以て一坪に現在する蕃殖數と假定し即ち約七十箇棲息するものと認む此の一坪七十箇の棲息ありと認むる濃密帯は漁場の廣袤の章に掲げしか如く十六平方哩に互るを以て此の坪數一六、四二九、五〇四に七十箇を乗する時は十一億五千六萬五千二百八十箇を得但し濃密帯の内最濃厚部に在ては殆ど空席を認めざる迄に蕃殖し居りて之等の場所に於ては少くも二百八箇の生息する事實を認む又貝搔漁具を以て漁場數箇處に就き實査の結果に徴するも海底二尺三寸(貝搔漁具の幅員なり)縱六七寸乃至一尺を搔き起すときは七八箇乃至十二箇(稀には十五六箇)の玉珧貝を捕採するの狀態なり之を以て推測するも一坪百六十箇以上の棲息地積廣さを知る

尙空席なき迄に密棲し居ることは玉珧貝の殼か不正形を呈するもの多數なるを以て知るへし此の現象たるや其の棲息箇所に於ては殼殼相摩し他のものと密接蕃殖する結果自然に殼の不正形を呈するに至りたるものとす

亞濃帯の繁殖數は濃密帯の蕃殖數の半即ち一坪當三十五箇と看做し其の區域三十七平方海里に乘する時は其の數十三億二千九百七十六萬二千九百八十箇となる之に濃密帯に於ける蕃殖數を加算すれば二十四億七千九百七十二萬八千二百六十箇となる

産卵期 玉珧貝及赤貝の産卵期に付ては從來正確なる研究を遂けたるものなきも短時日間の調査に依り實檢する處に依れば成熟に近き生殖素を認め得たると同時に分化の著しく後れたるものをも認めたるに依り推測するに兩貝の産卵期は比較的長期に亙るものの如く而して恐らくは七八月の候を以て盛期なるものの如く察せらる

肉柱の重量 現在漁獲のものに就き取調ふるに濃密帯に於けるものは一箇の肉柱重量平均十六匁にして粗帶に於けるものは同平均十八九匁あり之粗帶に棲息するものは營養狀態良好なるに由るものとす

附記 殼に有棘の玉珧貝の内柱には白色を呈する筋肉部なきも無棘玉珧貝の肉柱には白色を呈する筋肉か一部分に存在す此のものは變敗し易しと云ふ

分布 内地に於ける玉珧貝の產地として知り得たるものは岡山縣兒島灣及其の沖合の瀬、肥前有明海、柳川沖合、同大村灣内鈴田沖合、阿波東海岸の一部伊勢灣、東京灣、木更津沖合、能登七尾灣内等にして本道管内には麗水海灣の外荒島郡

駐在塚田水産教師の復命に依れば康津郡灣に繁殖し又三年前に愛知縣水産試験船が偶然發見せし處に依れば古群山列島の北方沖合に於て打瀬網使用中玉珧貝の密棲する處に行き當り網裾を之に曳掛け漁船は爲めに進航停止せしことあり其際曳網を手繰るに頑として動かさざりければ船員一同は必定網具の岩礁に纏絡せしものならむと思込み百方苦慮して重き袋網を曳き揚げ檢するに豈計らん玉珧貝の充満し居らむとは依之觀之該方面の蕃殖も頗る濃厚なるを知るに足る

本道沿海は玉珧貝の棲息に適するならむと推定せらるる幾多の内灣を存するを以て周到に之か探檢を爲さむか以上判明せし以外にも尙他に棲息地域を發見することあるへし

## 第六 現在の漁業狀態

### (1) 沿革

明治四十四年四月以來愛知縣水産試験場技手小川濟氏は同場試験船三五丸に乘組み南鮮に於ける移住漁村建設の基礎と爲すへき目的を以て亞沖性貝類漁場調査に當り幾多の辛酸を嘗め探究精査の末漸く同年十月に至り南海島附近に於て玉珧貝及赤貝の群棲するを發見し爾後本漁場の開拓に主力を傾注し四十五年度の事業として繼續施行中遇岡山養貝合資會社の春藤一郎氏は大正元年十月南鮮視察に際し調査の結果本漁業の有望なるに著眼し翌二年一月に至て兒島郡八濱の營業者七隻を引率し來て前記小川技手の率ゐる貝桁打瀬漁船九隻と共に

提繫して捕採に従事せしめ漁獲物の處理販賣上に關しては兩人協力して各方面に照會し之か開拓に盡粹せしか其の結果は赤貝は比較的販路狹隘にして需用少きことを確めたれば今や主として玉珧貝の漁獲を講し其の獲たるものは前記會社が創設したる罐詰工場に於て買收し製造し居れり

### (ロ) 漁具

麗水海灣に於て玉珧貝、赤貝の漁業に使用しつつあるものは岡山縣兒島郡八濱地方に於て用ふる玉珧貝搔及愛知縣地方に用ふる貝桁打瀬の二漁具あり

#### 一 玉珧貝搔

構造 本漁具は大別して柄部と爬牙部に分たる爬牙部は幅二尺三寸の鐵臺に間隔二寸を保ち鷲爪形に内方に彎曲する長九寸の爬牙十二本を植う又爬爪の後背部には粗目の魚甲形の金網を附し捕採物を支ふるの用を爲さしむ

柄部は無理正理真直の桹材を用ひ厚さ一寸幅一寸二分長五尋乃至三尋半許に製したる細長の竿なり之を漁場の水深に應し三本乃至五本を繼ぎ合せ(麻絲にて結び付く)其の尖端に爬牙部を附し使用するものとす(漁具圖參照)

使用法 肩五尺長二十四五尺内外の小形漁船一隻に漁夫二名乗組み漁場に達すれば一人の作業者は舳部に立ち先水深風向潮流の速度を計り之に應じて相當の長さに桹柄を繼ぎ合せ次に其の尖端に爬牙部を添へ海底に投下し潮上より潮下に向て搔き漁獲物の有無を探り爬牙に觸るれば直に爬牙を泥中に深

く搔込み貝絲を切斷し貝を抜き取りたる頃を計り桹柄を手繰り金網に留まりたる漁獲物を收む他の一人は此間始終操機航を取り船體を相當の方向に保たしむ

本漁具は風浪潮流の急激なる時若は風向と潮流の方向甚しく相反する際には使用困難なり又現在の使用法に依れば水深拾尋以上の處に於ては使用不可能なり

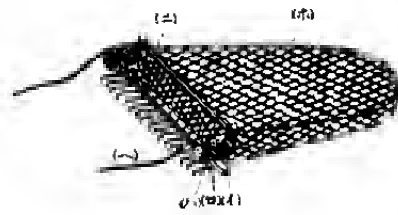
本年度に本漁業に従事せしもの七隻あり總て八濱の漁夫とす一作業に要する時間は約五分間にして天候靜穩且潮流急激ならず使用上好都合なる日には一日八十回内外の作業を爲し得れども風潮順ならざる日には作業困難にして使用の回數を減す

本漁具の使用には相當熟練を要すれども多大の時日を要することなし

漁獲高 一回の作業にて五六箇乃至十二箇を得一日の漁獲は二三百箇より四五百箇(多きは六七百箇)あり出漁日數は約十五日位にして一箇月の平均漁獲高は約六千箇に上る玉珧貝一箇の價は一錢なれば六千箇にして六十圓に當る漁夫二人が一箇月間の雜用を十圓と看做し其殘金五十圓を折半せば漁夫一人一箇月當二十五圓となる

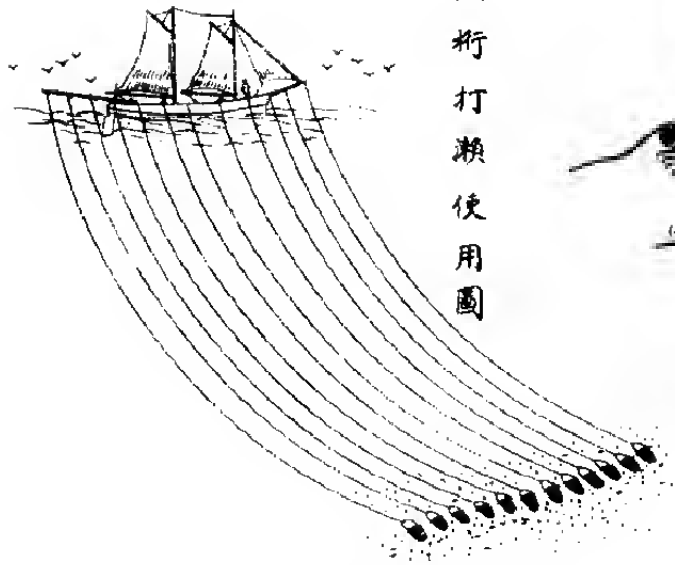
漁業資本 漁船一隻五十圓漁具は爬牙部四圓五十錢桹柄一本一圓五十錢五本分七圓五十錢計十二圓船具十二圓合計七十四圓外に糧食雜費旅費(内地往復)に少許の流動資本を要す

貝打瀬圖

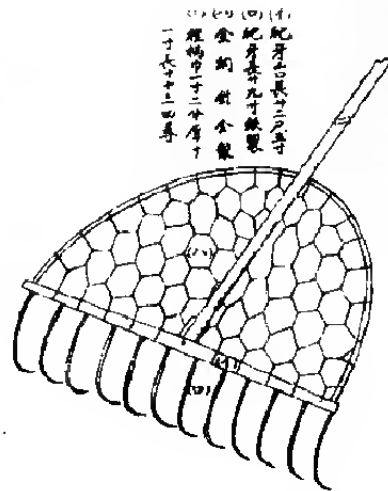


- (1) 口部 一寸五分
- (2) 此部 長一寸五分
- (3) 一寸五分 五寸
- (4) 一寸五分 五寸
- (5) 一寸五分 五寸
- (6) 一寸五分 五寸
- (7) 一寸五分 五寸
- (8) 一寸五分 五寸
- (9) 一寸五分 五寸
- (10) 一寸五分 五寸

貝打瀬使用圖

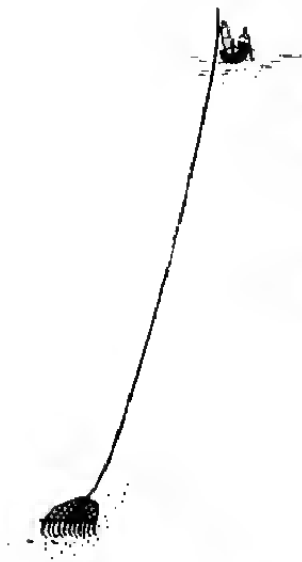


玉珧貝撿ノ圖

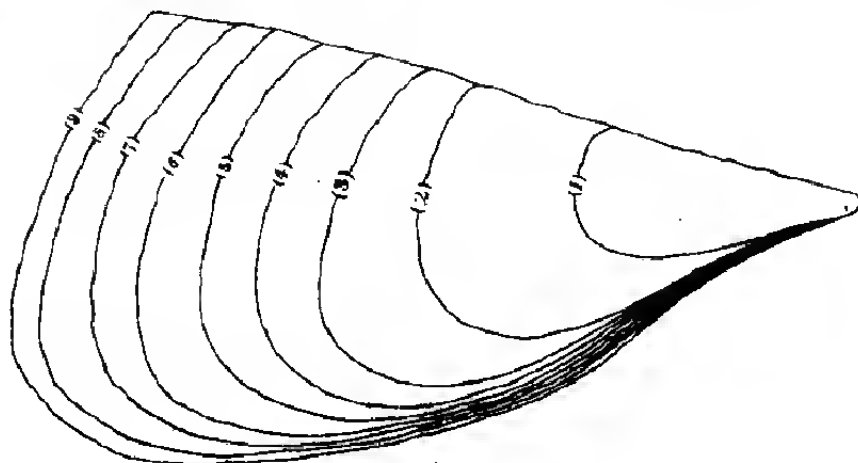


- (1) 口部 長一寸五分
- (2) 此部 長一寸五分
- (3) 一寸五分 五寸
- (4) 一寸五分 五寸
- (5) 一寸五分 五寸
- (6) 一寸五分 五寸
- (7) 一寸五分 五寸
- (8) 一寸五分 五寸
- (9) 一寸五分 五寸
- (10) 一寸五分 五寸

玉珧貝撿使用ノ圖



圖度長生「ギライタ」生年一至九年







漁獲物の處理及價格 玉跳貝搔漁船七隻は總て岡山養貝合資會社の仕込を受け渡來せしものなれば漁獲物は同會社に賣込むの約定となり居れり相場は刺身の貝柱百匁に付六錢特とす玉跳貝肉柱一箇の重量は十六匁内外なれば一箇の價約一錢に相當す

本漁業者は歸港の後剥身となすの煩雜を避くると速搬上簡捷を期するか爲めに豫め出漁する際に於て鮮人一名を雇ひ漁船に乗込せしめ置き玉跳貝を從て獲れば從て剥身せしめ殼は直に其場に於て放棄する方法を採り居れり此の漁場に於て刺殻を投棄することは海底に棲息する玉跳貝を掩塞し大に其蕃殖を沮害するの虞あるを以て力めて之を避けしむるを要す

肉柱を除去したる體肉は最初は剥身の加勢をなしたる鮮人に無償にて付與せしか近來之か購入者あるときは四斗樽一杯二十錢に賣却せらるるに至れり

本漁具の得失 本漁具は多資を要せず使用法簡易にして而も漁獲は比較的多きを以て現在使用の漁具中利便なるものと稱し得へし唯惜むらくは本漁具は使用水深に限度あり十尋以上を越ゆること能はされは本漁場内に於て本漁具は其の使用に適する範圍は其の一小部分に過ぎず然れども本漁具は其の使用中途一海底の模様を知覺し行動するものなれば漁場に於ける玉跳貝を損傷せしむること少なくして殆ど其全部を周到に捕採し得るに依り一は以て蕃殖上より一は以て漁場に於ける棲息數に對する捕採率より觀察し貝桁打瀬に比し優越するこ

と數等なるを以て小漁民に對しては大に獎勵すべきものと信ず

## 二 貝桁打瀬

構造 桁枠幅五尺五寸高九寸あり下方樞臺には間隔一寸八分宛を距てて鐵爬牙二十五本を植へ桁の背後には麻絲若は針金にて製したる粗目の袋網長さ三尋のものを附す枠の左右前方には沈子用として重量五貫匁内外の椎實形の花崗石各一箇を結附す爬牙の先端を下方に向て彎曲せしめたるは幾多研究を遂けたる末の工夫なり

曳網は麻製三子撚徑六分にして長は水深の約二倍を延長す

(漁具圖参照)

使用法 漁船肩幅一丈乃至一丈三尺(船丈は肩幅の約五倍強あり)の愛知型打瀬漁船に漁夫四名乗組み漁場適當の箇處に到達せば先船を潮流に横へ帆を張り流しつつ最初は舳艫兩末端に引曳すへき貝桁より始め順次船體中央部に取付へきものを海中に投し網具の紊亂又は袋網が纏絡せざる様注意して曳網を延へ終る一漁船使用の貝桁數は漁船肩幅一丈のものにありては九箇乃至十箇同一丈三尺のものにありては十二箇乃至十五箇内外とし風力及潮流速度の強弱に依り其數を加減するものとす全部の貝桁を投下し終れば主として風力に依り船を潮下に流す其の流速速度は一時間に一海里半乃至二海里弱とす作業中絶えず曳網に觸れ試み掻き工合を検し海底土質の硬軟水深の變化、風力潮流の強弱等に鑑み或は曳網を伸縮し或

は展帆を加減し以て船の流し工合と漁具の掻き工合を終始調節す

本漁具の装置中最呼吸を要する點は杵桁に股網を取附くる工合なり其の調子如何に由り引曳に際し杵桁の俯仰を生し爬牙の效力に多大の影響を及すを以て特に細心の注意を要す

貝桁引曳中は沈子と股網の取附方と引曳方との關係により爬牙の尖端は泥中に隠顯出沒して貝を袋網に掻き込むの裝置となせり故に引曳に際し爬牙は泥中に潛入して貝を掻き起し漁具の進行中爬牙の俯仰跳躍運動によりて背面にある網中に收納す

打瀬時間は漁場の廣狹風力潮流の適否等に依り一定せざるも普通二三時間引曳し後引揚く而して引揚には船内に備へたる齒輪滑車に依る

貝桁引曳には反動あるを良とす故に少しく波浪起伏し船體動搖ある日に漁獲豐なり亦同一日の引曳に於ても反動なき舷部に取付けられたる貝桁には漁獲少く船體外に張出されたる支柱に支持せらるるものは動搖激しきを以て漁獲多きを示す本漁具の使用は専ら風力に依るものなれば無風の際は絶対に操縦不可能なり左れば本漁法は風多き十一月より翌三月に至る季節を以て使用の好季とし夏春の候は風多きため使用意の如くならず出漁日數は一箇月平均十五日内外ならむ

漁獲高 出漁一日の漁獲高は玉珠貝六七百箇乃至二千箇一箇

月間の漁獲高平均約一萬五六千箇其價百五十圓内外  
本漁具は廣濶なる區域を引曳するものなれば玉珠貝と共に赤貝も亦混獲せられ亞濃帶に於ては兩者相半し或は赤貝の捕獲數却て多きことあり

赤貝の販路に就ては内鮮人各地主要の市場に向て試賣せしも購買力なき地に在ては高價ならず高率の運賃荷造費等を差引かは結局餘す處なく又二三千箇位の購買力ある朝鮮内の都邑に於ては比較的高價に售賣せらるるも如何せむ巨額の漁獲物を捌くに由なく斯くて漁船の根據地たる麗水港に於ては赤貝一箇の平均相場は四厘弱に低落せり

漁業經濟 先固定資本として漁船(肩一丈)七百五十圓漁具は貝桁一箇四圓五十錢曳網一張分四圓計八圓五十錢十六箇分百三十六圓及流動資本として漁夫前貸金其の他糧食雜費等に百六十圓總計千〇六十六圓を要す

漁獲高分配法は全漁獲高の十分の四を資本主に對する配當とし殘額十分の六より食費を差引たる殘を乗組船員間に等分す即ち全漁獲高を百五十圓漁夫の食費を二十五圓と假定すれば資本主の受くる處は六十圓漁夫一名の配當額は十六圓二十五錢となる而して本漁業には資本主にして船頭を兼ね經營するもの多し

本漁具と玉珠貝搔どの優劣 貝桁打瀬は風帆力に依り漁具を引曳するものなれば漁夫は勞力を要すること少きも一方に於

ては機械か本位なるか故に多額の資本を要し且多資を投したる割合には漁獲十分ならず尙漁獲高分配法に關連し漁夫の收得も亦比較的多からざるか如し左に本漁具と玉跳貝搔の兩者に就き優劣得失を對照すへし (一) 貝桁打瀬は多資を要し機械か本位なれば漁夫は勞力を要すること少きも玉跳貝搔は小資本にて足り之れか使用は技術本位にして勞働激し (二) 貝桁打瀬は深處に在ても能く使用し得るを以て漁場の全面に互り活動し得るも玉跳貝搔は水深十尋以上の處に於ては使用困難なれば其の適應する漁場區域狹隘なり (三) 貝桁打瀬は風帆力に依り長區域を長時間引曳せされは相當の漁獲を爲し能はす即ち之か操業には廣き區域を必要とすれども玉跳貝搔漁は舷舷相摩し舳舻相啣み操業し得るに依り等一面積の漁場に於ては後者は前者より數十倍の漁船を收容し得へし (四) 貝桁打瀬は風ある日に非されは操業絶對的に不可能なれども玉跳貝搔は靜穩の日に好み又少しく風浪ある日に在ても操業上甚しき支障なし要するに冬期間は前者の出漁日數多かるべく春夏の候は後者の出漁日數多かるへし (五) 玉跳貝搔は之を投下して海底を探れば逐一其の模様を判知し得るに依り老成員の棲息なきを認むる時は直に他に移り無益に漁場を攪拌することは決して之れなきを以て蕃殖上障礙少きも貝桁打瀬に在ては之に反するを以て蕃殖上に及ぼす障礙甚し (六) 玉跳貝搔漁法に依れば目的物を損傷せしむること少くして殆ど

其の全部のものを周到に捕獲し得れども貝桁打瀬漁法に依れば目的物を毀損せしむること劇しくして漁獲率少し  
説明貝桁打瀬の漁獲高を實驗するに一里間の長距離を引曳して一箇の貝桁に二百五十箇内外の漁獲あるを普通とす而して貝桁の幅員五尺五寸あれば一里間を引曳したりとせば其の爬搔地積は將に千九百八十坪となる即ち斯く廣き地積を爬搔して僅に二百五十箇内外を獲るに過ぎず若玉跳貝搔漁法を以てせば二百五十箇位は僅に數坪の捕撈にて之を充すを得へし  
之を要するに貝桁打瀬は資本を要すること多く其の漁法は廣汎なる區域を攪亂し貝類を損傷せしむること激甚にして捕撈率は極めて低きに依り漁場の經理と保護蕃殖上より論すれば大に排斥すべきものにして玉跳貝搔は之に反し漁法簡易に多資を要せず所謂勞役本位なれば鮮人等に模倣せしむるに最適應し其の漁獲高も比較的少からず且目的物を損傷せしむるの程度低く捕撈率に於ても前者に優ること數等なれば大に之を推奨するの價值あり唯此の漁具に於て最遺憾とするは使用水深に限度あり漁場一帯に使用し能はざる點にあるを以て他に有效卓越の漁法案出せられざる間は遺憾ながら兩漁具を兼用せしむる外なからむ蓋し兩漁具を併用するに就ては漁場の力に應じ各漁法の出漁船數を相當制限する必要あるへし

#### 第七 續詰製造狀況

前にも屢述へたるか如く玉珧貝漁船の根據地たる麗水港の東側鍾浦に地を相し鐘詰工場を起したるは社員春藤氏の主唱に依り岡山養貝合資會社の事業にして一日二十兩(二兩四打入)を製造するの設備を整へ二日より開始せしに五月初旬に至る迄の製造高は一千兩に達せり製造は全部玉珧貝のみにして其の法玉珧貝の肉柱のみを採り醬油味噌等の溶液にて味付を爲し煮上げ重量六十匁の肉柱を一罐に詰め少許の味付汁を盛り封鎖す一罐に要する貝柱の原料は百十匁乃至百二十匁なりと云ふ

昨年度始て本漁業を開始せし當時は漁獲物の販路閉塞して始末に窮せり此の窮狀を目撃したる春藤氏は主として漁業興振の趣旨に依り該鐘詰業を創始し漁獲物の一手引受に任したるものにして製品の販路に就ては當初より其の取引先を確定し居らざりしものの如く今猶小許の卸小賣を營む外未だ大取引先を定めず製了品の全部を貯藏しつつあり然とも製品試食者の多くは美味なりとして好評し續續嗜食者現はるる狀況なれば本品の販路に關しては決して憂慮すへきことなきを信ず會社に於ては赤貝のポイル鐘詰製法に就き目下研究中なりと云ふ若本事業成立せむか漁場には濃密なる棲息物あるを知悉するも是迄販路閉塞の爲め捕採することなく空しく放棄の狀態にありしもの忽ち勢價を顯し本漁場の廣販に貢獻する處鮮少なからざるへし

## 第八 漁場沿海の漁村浦

將來本漁場の經理を企劃する上に於て其の沿岸漁村浦の狀態を調査し置く要あるを認めたれば左に之を掲ぐ

## 一 突山本島東海岸に於ける漁村浦(巨巖角より麗水對岸に至る)

部落名	總戸數	漁業者戸數	漁船數	漁業種類	別
小栗里	二五	二〇	七隻	延繩二隻一本釣二隻手繰網二隻舉網二隻	
大栗里	三二	二〇	二	一本釣一隻手繰網一隻	
鳳林里	四五	三〇	五	一本釣三隻手繰網二隻	
竹園里	一五六	二五	四	一本釣二隻手繰網二隻	
昇月里	二〇	五	一		
徳谷里	二九	二	一		
瑞基洞	六五	二〇	一		
常田里	二三	二五	五	一本釣二隻手繰網三隻	
桂洞	二〇	五	三	一本釣二隻手繰網一隻	
月岩洞	三〇	五	三	延繩二隻手繰網一隻	
細管里	一九	一〇	三	延繩二隻手繰網一隻	
右斗里	八八	五五	一〇	延繩三隻一本釣四隻手繰網三隻	
計	六六一	二二二	四三	延繩九隻一本釣十六隻手繰網十四隻舉網二隻手繰網一隻	

備考 漁業戸數に比し漁船數少きは或は共同にて漁船を所有し或は他人に雇はれ又は徒涉漁業(海藻貝類捕採等)なすもの多き由る漁業種別は二三種の營業をなすものにありては其の主なるものを掲げたり

## 二 麗水半島東海岸

部落名	戸數人口	漁業者戸數	漁船數	漁業種別
部内里	二二三			
萬中里	七三三	二	一	不詳
同里	五五			
同里	四九九	二	一	同
三島里	八二二	一〇	二	同

双風面  
毛沙里

四八  
一〇九

三六

四 同

計

二七五  
一四八三

五〇

八 同

備考 漁業種別は主として手延網一本釣なり漁船少き理由は突山本島と

同一なり

### 第九 漁場に於ける漁船収容力

麗水海灣に於ける玉珧貝赤貝漁場内には年々幾千の漁船を容れ捕撈に従事せしめ得る力あるか本問題の解決は其の漁場の廣袤棲息物の濃度漁場の海理蕃殖上に及ぼす漁具漁法の適否及漁具の捕撈率等に依り定まるものなれば今日より俄に斷定し難きは勿論なりと雖現に使用しつゝある八濱式玉珧貝撈漁具を以て漁撈に當るものとなし尙次の如く假定せは

一 沖合に位する亞濃帶區は水深深くして玉珧撈漁具の使用に適せざるものとし漁場の區域に算入せず

二 濃密帶區三十六平方海里の内同漁具を使用し得る區域即ち水深十尋以内の部分と四分の一と假定せは此の地積四百十萬七千三百七十坪となり一坪當七十箇の玉珧貝蕃殖せりと見做せば其の數は二億八千七百五十一萬六千三百二十箇となる

(第五章) 玉珧貝蕃殖數算定の部に付參照)

三 前項の蕃殖數の内同漁具にて實際捕獲する數を其三分の一と見做すときは其數九千五百八十三萬八千七百七十三箇となる

四 同漁船が一箇年中九月より翌四月迄七箇月間稼業し而し

調査資料

て一箇月平均五千箇の漁獲を爲すものと假定せば一漁船一箇年間の漁獲數は三萬五千箇となる

五 三項の捕撈數を十箇年に分割捕撈するものと假定せば一箇年當は九百五十八萬三千八百七十七箇となる

六 前項の數を第四項の漁獲數を以て除するときには二百七十三隻強となる

即ち前記の假定に依れば本漁場中の一部分に過ぎざる箇所に於てすら玉珧貝撈漁船二百七十隻強を容るるに足るものと推定せらる

水深十尋以上の箇處に於て適應する貝桁漁具に就ては短時日の調査に過ぎされは未だ斷案を下すへき的確なる材料を有せず故に該漁船は幾何を限度とし收容せは枯渴せしむることなくして漁場を維持し得へきや判斷に苦しむも要するに該漁具は漁場を荒廢せしむる程度激甚なれば漁場の廣潤なる割合には多數の漁船を容ること能はざるは敢て疑なき處なり然とも該漁船の收容力査定には尙幾多の詳細なる調査に俟たざる可からず

### 第十 玉珧貝赤貝の命數如何

玉珧貝及赤貝は幾年間の壽命を保つものなるや之を審にするは本漁業經理上極めて重要且差掛りたる問題なりと信す何となれば本漁場に濃棲する成貝には七八年生乃至十年生のもの多く稀には十一二年(以上主として玉珧貝を指す)とも見るへ

き老員の棲息することは前章に述べたるか如し而して玉珠貝が十年生以後期年ならすして斃死するものならむには徒に持久して捕獲するの愚なるを知るべく又尙長期間生存するものならは大に輪番採捕等の方法を講し徐徐に漁場維持の計畫を廻らすの必要あるへし

常識を以て判断するも粗に蕃殖するものは營養狀態適良にして天壽を全ふし得へきも本漁場密棲帯に於けるか如く殼殼相接衝し寸地を餘さざるまでに密棲するものにありては生存競争の結果早斃を免れざるもの多きに至らむ本漁場は幸にも亦潮來襲の被害少きか如く認めらるるを以て天災一朝にして貝類を全滅せしむるか如き被害を蒙ること之なからむも其の棲息地帯の狀態如何に依り壽命に長短あるに於ては豫め之に處する道を講ずるの必要あり即ち本問題は漁場の維持畫策上先決問題として専門學者の研究を煩されんことを望む

(全羅南道報告)

## 道路改修工事概況

(大正二年六月末調)

### ○平壤―元山線

平安南道平壤より江東、破邑、陽德を経て咸鏡南道元山に至る

道路幅員四間 改修豫定距離五十五里

目下平壤 元山兩方面より起工著手中にして全線に亘る著手距離三十四里二

十一町 著手距離に對し約六歩通りの成工にして全線大正五年三月竣功の豫定

### (平壤方面)

平壤、破邑附近間(二十八里)目下著手距離十六里三十五町 著手距離に對し約七歩二厘成功したり

### (元山方面)

元山、破邑附近間(二十七里)目下著手距離十七里二十二町 著手距離に對し約四歩八厘成工したり

### ○京城―元山線

京畿道京城より江原道を経て咸鏡南道元山に至る現在道路局部改修道路幅員二間乃至四間 局部改修距離三十里

元山方面より淮陽附近に至る間局部二十一里著手中 著手距離に對し約四歩六厘の成工にして全線大正三年三月竣功の豫定

### ○安州―滿浦鎮線

平安南道安州より平安北道熙川、江界等を経て滿浦鎮に至る道路幅員三間 改修豫定距離八十里十八町

安州方面より起工し目下著手距離二十五里三十町 著手距離に對し約五歩八厘の成工にして全線大正五年三月竣功の豫定

### ○晉州―尙州線

慶尙南道晉州より居昌、熊陽及慶尙北道知禮、金泉等を経て尙州に至る道路幅員三間 改修豫定距離四十四里

目下晉州、尙州兩方面より起工全線に亘り著手中約六歩八厘の成工にして全線大正三年四月竣功の豫定

### ○順天―全州線

全羅南道順天より全羅北道南原、任實等を経て全州に至る道路幅員三間 改修豫定距離三十二里

目下順天、全州兩方面より起工全線に亘り著手中約九歩二厘の成工にして全線大正三年三月竣功の豫定

○利川||長湖院線

京畿道利川より嶺南を経て忠清北道界長湖院に至る  
道路幅員四間 改修予定距離七里十八町  
利川方面より起工目下全線に及び著手距離約九歩八厘の成工にして全線大正二年八月竣功の豫定

○利川||江陵線

京畿道利川より驪州及江原道原州||安興等を経て江陵に至る  
道路幅員三間 改修予定距離四十八里十八町  
利川方面より起工目下著手距離十四里十三町 著手距離全部竣功殘餘起工準備中に屬し全線大正五年三月竣功の豫定

○城津||惠山鎮線

咸鏡北道城津より咸鏡南道銅店||甲山等を経て惠山鎮に至る  
道路幅員三間 改修予定距離四十里  
目下城津及銅店兩方面より起工著手中にして全線に互る著手距離二十四里二十八町 著手距離に對し約三歩五厘の成工にして全線大正五年三月竣功の豫定

(城津方面)

城津||銅店間(十八里)目下著手距離十一里十三町 著手距離に對し約一步九厘成工したり

(銅店方面)

銅店||惠山鎮間(二十二里)目下著手距離十三里十五町 著手距離に對し約五歩一厘成工したり

○雄基||慶興線

咸鏡北道雄基より嶺底を経て慶興に至る  
道路幅員四間 改修予定距離九里  
雄基方面より起工し目下著手距離九里二十町 著手距離に對し約四歩三厘の成工にして全線大正三年六月竣功の豫定

調査資料

○京城||利川線

京畿道京城より往十里||昆地嶺を経て利川に至る  
道路幅員四間 改修予定距離十二里十八町  
目下京城及利川兩方面より起工著手中にして全線に互る著手距離八里三十三町 著手距離に對し約六歩四厘の成工にして全線大正四年三月竣功の豫定

(京城方面)

京城||酒幕里間(六里)目下著手距離二里十三町 著手距離に對し約六歩二厘成工したり

(利川方面)

利川||酒幕里間(六里十八町)目下著手距離六里二十町 著手距離に對し約六歩五厘成工したり

○公州||論山線

忠清南道公州より營城を経て論山に至る  
道路幅員四間 改修予定距離十里  
目下全線に互り著手中 土工は全部竣功し橋梁其の他路面仕上工事著手中に屬し全工事に對し約七歩六厘の成工にして全線大正三年三月竣功の豫定

○忠州||陰城線

忠清北道忠州より五里村を経て陰城に至る  
道路幅員三間 改修予定距離六里十八町  
忠州方面より起工し目下著手距離五里七町 著手距離に對し約二歩八厘の成工にして全線大正三年三月竣功の豫定

○會寧||行營線

咸鏡北道會寧より行營に至る  
道路幅員四間 改修予定距離六里十八町  
會寧方面より起工し目下全線に互り著手中約六厘通りの竣功にして全線大正三年六月竣功の豫定



## ○河東院田線

慶尚南道河東より横浦場を経て院田に至る  
 道路幅員三間 改修予定距離七里  
 院田方面より起工し目下全線に亘り著手中 著手後日尚淺く未だ歩通りを計  
 上するに至らず全線大正三年三月竣工の豫定

## ○北青城津線

咸鏡南道北青より利原端川を経て咸鏡北道城津に至る  
 道路幅員四間 改修予定距離三十五里  
 城津方面より起工目下著手距離一里二十四町 著手後日尚淺く未だ歩通りを  
 計上するに至らず全線大正五年三月竣工の豫定

## ○京城市街線

(一) 南大門より光化門に至る大平町通  
 道路幅員十五間 改修延長五百五十五間  
 目下著手中約八歩通りの成工にして全線大正二年八月竣工の豫定  
 (二) 南大門通より大平町通に至る羽衣町通  
 道路幅員十二間 改修延長二百五十間  
 目下著手中約一歩七厘の成工にして全線大正二年十月竣工の豫定

## ○茂山嶺線

咸鏡北道清津一會寧間の一部茂山嶺既成道路局部改修  
 道路幅員二間七分五厘 局部改修距離一里二十八町  
 目下著手中日尚淺く未だ歩通を計上するに至らず全部大正二年十一月竣工の  
 豫定

著手中の路線にして既に竣工全通せるもの左の如し

## ○清津會寧線

咸鏡北道清津より會寧を経て會寧に至る  
 道路幅員四間 改修距離二十里三十町

## ○清州陰城線

忠清北道清州より陰城に至る  
 道路幅員三間 改修距離十里二十二町

## ○海州載寧線

黃海道海州より新酒幕を経て載寧に至る  
 道路幅員三間 改修距離十三里三十町

## ○沙里院載寧線

黃海道沙里院より載寧に至る既成道路局部補修  
 道路幅員三間 局部補修距離二里十五町

## ○京城市街線

(一) 南大門通より永樂町二丁目に至る黃金町通  
 道路幅員十二間 改修延長三百三十七間  
 (二) 黃金町通東部青寧橋より光熙門間  
 道路幅員十二間 改修延長五百七十六間

## 鐵道運輸概況

(六月分)

## 旅客

## 旅客及小手荷物運輸の概況

本月は前月に引續き天候概して良好にして、炎熱漸く加はり  
 農家繁忙の季節に當り、旅客小手荷物の輸送其の影響を蒙り  
 しと雖、各年度に比し良好なる成績を挙げたり、即客車收入  
 概算額二十五萬六千四百九圓を計上し、前月に比し五萬五千  
 百七十三圓(一割七分七厘一毛)を減したるも前年同月に比し



二萬六千八百七十五圓を増加せり、而して湖南、京元兩線の三萬五千九百四十九圓を除きたる京釜、京義兩線の二十二萬四百六十圓を前年同月分に比すれば八千四百三十二圓の増加なり今乗車人員及乗車賃金を示せば

種別	月別	京釜線	京義線	京元線	湖南線	合計
乗車人員	本月分	一七、三八八人	二〇、三九五	一八、八〇〇人	三、五九二	三、八二四五
	前月分	一七、二六四	二〇、三六二	一八、三〇九	三、八四三	四、〇六三〇
	前年同月分	一七、二五六	九、九八一	七、五八五	二、九三二	二、九七、七六三
乗車賃金	本月分	一、〇、〇三〇	八〇、一〇一	一〇、九九九	二、〇、〇三三	二、四、一三三
	前月分	一、五、六二五	九、七一六	一、三、七四二	二、四、六七七	二、九、一七九
	前年同月分	一、〇、〇六五	六、一五七	一、八八一	一、四、六四三	二、八、一六五

にして、京釜、京義兩線に於ける取扱高は前年同月に比し人員八千六百六人(三分二厘)、賃金八千四百九十九圓(四分二厘)を増加し、前月分に對し人員六萬六千七百七十四人、賃金四萬三千二百三十七圓(二割七分二厘)を減少せり

小手荷物に在りては有貨手荷物斤量十三萬九千四百七十七斤、賃金三千十五圓を算し、小荷物扱鮮魚四十四萬七千九百九十五斤、賃金五千九百八十七圓を計上し、小手荷物總斤量七十二萬六千七百八十斤、賃金一萬二千六百九十七圓にして、之を前年同月分に比較するに二十二萬五千六百十五斤、四千五百七十四圓の増加を示せり、而して小荷物中の主要品は鮮魚、貨幣及地金、食料品、金物、藥品、衣類等なり

旅客小手荷物輸送に關し施設したる事項

調査資料

一 入場券發賣中に金堤を追加し六月十日より之を施行せり

二 貴族院議員一行八名本月十五日より二十三日迄全線乗車に付、専用車を増結し、臨時旅客列車を運轉し、專屬列車給仕を乗務せしめて之を輸送をなせり

三 本月中官用證及各種割引證を以て乗車せる人員左の如し

一 鐵道乘車證に依る軍人軍屬割引	二千二百二十四人
一 警察官割引	百九十三人
一 軍人家族及従者割引	五十九人
一 東洋拓殖會社移民割引	六人
一 濟生院割引	二人
一 赤十字社割引	二人
一 學校職員生徒割引	一人
計	四千三百三十三人

#### 連帶運輸成績

(△印は減を示す)

種別	局	本月分	前月分	増減	本年分	前年同月分	増減
鐵道院連帶	客	二、七二四	二、八五八	△一三四	一、四二二	一、四四九	△二七
	貨	二、九一五	三、二七三	△三五八	六、六三二	一、四、九七五	△八、三六三
	小手荷物	二、三〇九	一、九七三	△三三六	一、九三四	二、〇七六	△一四二
安東及同線經由	客	五七八	六六〇	△八二	四八五	六〇二	△一一七
	貨	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	小手荷物	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
大連經由	客	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	貨	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	小手荷物	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
大阪商船會社	客	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	貨	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	小手荷物	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
朝鮮瓦斯電氣會社連帶	客	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	貨	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇
	小手荷物	一、五八八	一、六六〇	△七二	一、六六〇	一、六六〇	〇

## 貨物

## 一 貨物運輸概況

本月中の貨物發送數量及貨車收入は別表の如く、數量十一萬八百七噸、收入二十五萬七千三百五十圓を計上し、前月に比し數量二千五百四十八噸（二分四厘）、收入七百三十七圓（四厘）を増加し、前年同月に比し數量二萬四百二十四噸（二割三分九厘）、收入六萬三千三百十三圓（三割六厘）を増加せり而して此の内局用品及工事請負人材料を除き比較するときは數量五萬三千四百八十六噸、收入二十三萬九千九百三十八圓にして、前月に比し數量一萬七千七百六十三噸（二割四分九厘）、收入三百五十三圓（二厘）を減し、前年同月に比し數量千七百十八噸（三分三厘）、收入六萬三千九百十五圓（三割八分）の増加を示せり、更に營業一哩平均收入（局用品及工事請負人材料を除く）に就き比較すれば左の如し

種別	京釜線	京義線	京元線	湖南線	全線合計
本月分	四四四・四五	一七三・三六	一三三・五三	一七〇・九四	二七〇・〇四
前月分	四二七・四七	二六・五三	八六・四一	二二・八八	二七五・一九
比較増減	一六・九八	四六・八三	四七・一二	四八・〇六	五・一五
増減率	〇・四〇	一・七四	〇・五二	三・九二	〇・一九
前年同月分	三三・四〇	一五九・六八	一八九・二	六四・五四	二二八・六二
比較増減	一一・〇五	一二・六八	二二・六一	二〇・四〇	五・四二
増減率	三三・一	〇・七九	五九・五二	一六・四九	二・三五

本月は農繁の爲、市況一般に不振にして千噸以上を發送した

る貨物中、前月より増加せしは僅に木材、石材、煉瓦等にして、米は内地移入税撤廢期日接迫の爲、月末に至り内地市場への仕向盛況を極めしも、之れ數箇月來蓄積せられたる海港地在米の移出せられたるものにして、原產地よりの送出は捗捗しからず、且外國米の需要減退したるに依り前月より千五百四十二噸（一割五分三厘）、前年同月より十三噸（二厘）を減少せり、大豆は前年同月に比するときは五百二十三噸（七割五分一厘）を増加せるも原產地漸次品薄を告げ、雜穀は滿洲粟か前月迄の入荷多量にして荷問の姿あると、一方新麥の出廻ある爲、孰れも數量減退し鹽、石炭、薪等亦出荷不況を呈し其の他、其、金屬器類、金巾、酒等の日用諸雜貨の取引が農繁に伴ふ購買力の減退に依り、閑散なりし等は前記の成績を挙げし主因なり

本月中の主要貨物發送噸數及之と前年同月並前月分との比較を示せば左の如し

品名	本月中發送噸數	前月比較	前年同月比較
米	八五九九	一九四一	一三
大豆	一八四	六四	三三
雜穀	一二二九	八八七	五三三
穀類	三六三六	五三七九	二〇二六
麵粉	三三八	六二〇	一一八
鮮魚	二四四	二〇一	一三
鹽干魚	一四二四	二八八	三三四

明太魚	海草	鹽	砂	野	生	味	醬	食料	酒類	直	藥品及藥材	金	綿	紡績	結	絹布及絹絲	紙類	煖	石	薪	木	陶器	金屬器類	家具類	繩、吹、箔	肥料	牛皮
七三〇	三三二	一一五〇	二六四	一〇八	一〇七	四七	二四五	六三六	六三〇	五三七	三四五	二二七	二〇七	五二〇	一三	二	五〇一	八六	三四八	八八六	六八〇	二八三	一四六四	五四一	四一〇	六〇二	一六五
一	三七	一五〇	二六四	一〇八	一〇七	四七	一五	一	一	一	一	一	一	一五四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六三	六二	五六六	二九	四八	九二	一八八	一	一九三	四六四	六九八	二九	五三二	二二〇	一	九	七	五八八	一八五	三二二	六〇四	九	二六	七七〇	二四	四六	四五四	七五
一六三	六二	五六六	六七	四八	三	五	五	一	一	一	一	一	二七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一五	一	一	六三	七四	一三九	一	二四	一	七三	二三	一	一五	二二	九〇	一	一	一	一	一	一	一	一

牛、及	黒	石	木	石	煉	瓦	土	石	セメント	釘及亜鉛板	竹	軍用品	二貨物に關し施設したる事項	一	二	三	四
一	二八九	一四二七〇	六五三一	四二五七	一三三三	二六八	八四	三七	二八二	二九五	二八二	二四六	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	二 本月中左配各驛と大貨物の連帶運送を開始したり	三 本月一日限り東海道本線神奈川停車場と一車積貨物の連帶取扱を廢止したり但し場合に依り到着に限り取扱をなす	四 本月中運賃割引の必要を認め運送特約したるもの長期(黒鉛、染料)、短期九件(石材、韓紙、葉蓑、綿布、綿絲等)なり
一	二八九	一四二七〇	六五三一	四二五七	一三三三	二六八	八四	三七	二八二	二九五	二八二	二四六	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	二 本月中左配各驛と大貨物の連帶運送を開始したり	三 本月一日限り東海道本線神奈川停車場と一車積貨物の連帶取扱を廢止したり但し場合に依り到着に限り取扱をなす	四 本月中運賃割引の必要を認め運送特約したるもの長期(黒鉛、染料)、短期九件(石材、韓紙、葉蓑、綿布、綿絲等)なり
一	二八九	一四二七〇	六五三一	四二五七	一三三三	二六八	八四	三七	二八二	二九五	二八二	二四六	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	二 本月中左配各驛と大貨物の連帶運送を開始したり	三 本月一日限り東海道本線神奈川停車場と一車積貨物の連帶取扱を廢止したり但し場合に依り到着に限り取扱をなす	四 本月中運賃割引の必要を認め運送特約したるもの長期(黒鉛、染料)、短期九件(石材、韓紙、葉蓑、綿布、綿絲等)なり
一	二八九	一四二七〇	六五三一	四二五七	一三三三	二六八	八四	三七	二八二	二九五	二八二	二四六	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	二 本月中左配各驛と大貨物の連帶運送を開始したり	三 本月一日限り東海道本線神奈川停車場と一車積貨物の連帶取扱を廢止したり但し場合に依り到着に限り取扱をなす	四 本月中運賃割引の必要を認め運送特約したるもの長期(黒鉛、染料)、短期九件(石材、韓紙、葉蓑、綿布、綿絲等)なり
一	二八九	一四二七〇	六五三一	四二五七	一三三三	二六八	八四	三七	二八二	二九五	二八二	二四六	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	一 本月三日より龍山驛發煉瓦にして、麻浦煉瓦工場引込線に於て取扱に限り積込の請求に應ずることとしたり	二 本月中左配各驛と大貨物の連帶運送を開始したり	三 本月一日限り東海道本線神奈川停車場と一車積貨物の連帶取扱を廢止したり但し場合に依り到着に限り取扱をなす	四 本月中運賃割引の必要を認め運送特約したるもの長期(黒鉛、染料)、短期九件(石材、韓紙、葉蓑、綿布、綿絲等)なり

調査資料

大貨物取扱数量及貨車收入概算

發送噸數										貨車收入			
本月分	前月分	比較増減	増減率	前年同月分	比較増減	増減率	合計	京釜線	京義線	京元線	湖南線	合計	
京釜線 五四、一九〇	京義線 三二、七三四	京元線 一一、八四八	湖南線 一三、〇四五	合計 一〇八、〇七	京釜線 一五七、九五六	京義線 六五、六四〇	京元線 一〇、一五二	湖南線 二六、〇三二	合計 二五七、五五〇				
六二、八四六	三三、〇九八	五、一九四	八、二二	一〇八、三三九	一五四、八一	八、二七三	六〇〇八	一三、四〇一	二五、六六三				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
八、六五六	三、七四	六、六五四	四、九四	二、五四八	三、四七五	一七、〇八三	四、一四四	一〇、二〇一	七、三七				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
・三八	・〇二	・二八	・六、〇六	・〇二四	・〇三三	・二、〇六	・六、八〇	・七、六一	・〇〇四				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
三九、九三九	三八、五九四	四、六八	一〇、三八二	八、九三八三	一二、二〇〇	六、八八五二	六、六五	六、三三〇	一九七、〇三七				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
一四、二五一	六、八七〇	一、二八〇	二、六六三	二、四二四	三、六七五六	三、二二二	九、四八七	一七、二八二	六〇、三二三				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
・五七	・二八	二、四三六	・二九七	・三九	・三〇三	・〇四七	一四、二六六	二、七三四	・三〇六				
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				

大貨物取扱数量及貨車收入概算 (局用品及工事請負人材料を除く)

發 送 噸 數									
本 月 分	前 月 分	比 較 増 減	増 減 率	前 年 同 月 分	比 較 増 減	増 減 率	貨 車 最 大	入	合 計
京釜線 二五、〇三三	京義線 二五、九六一	京元線 一七、四六六	湖南線 七、六	合計 五三、四八六	京釜線 一四、一三七六	京義線 六、二三七七	京元線 七、九七七	湖南線 二〇、一八八	合計 二三、二九一
三三、〇八五	二七、六六一	四、四〇〇	七、一〇三	七、二四九	一三、五九七九	七、八三六四	五、二五四	二、六九四	二三、二九一
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
七、〇五二	一、六七〇	二、六五四	六、三八七	一、七七六三	五、三九七	一、五、九八七	二、七四三	七、四九四	三、五三三
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
・三〇	・〇六〇	・六、〇三	八、九九	・二四九	・四、〇〇	・二〇四	・五、三二	・五、九〇	・〇〇二
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
二五、一八九	二四、八九六	二、六三	一、四二〇	五、二七八	一〇、五四二〇	五、七七八九	三、六七	四、四四七	一、六八、〇三三
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
一、五六	一、〇九五	一、四八三	七、〇四	・七、一八	三、五九五六	四、五八八	七、六三〇	一、五、七四二	六、三、九五
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
・〇〇六	・〇四四	五、六三九	・四九七	・〇三三	・三四〇	・〇七九	二、〇七九	三、五四〇	・三八〇
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

有賃局用品發送噸數及賃金概算

發 送 噸 數										貨 金									
本 月 分	前 月 分	比 較 増 減	同 年 同 月 分	比 較 増 減	京 釜 線	京 義 線	京 元 線	湖 南 線	合 計	京 釜 線	京 義 線	京 元 線	湖 南 線	合 計					
二八、二五一	二七、八五六	三九五	一三、五〇五	一四、七四六	△	四、八四二	七、六四二	九、八四一	五三、五七六	一五、八八五	二、八五一	二、〇一三	二、二三四	二二、九七三					
二七、八五六	四、二二一	六三二	九、九七〇	五、二一八	△	二七四	二、六四二	一〇、一八	三三、三五九	一三、三八一	三、九九九	五、六一	七、〇七	一八、六四八					
△	九、三六八	七九	八、九六二	八、七九	△	八八三	七、九	八、八三三	一九、二二七	二、五〇四	一、一四八	一、四五二	一、五一七	四、三三五					
△	八、九六二	八、七九	二〇、六〇	二、〇六〇	△	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇	二、〇六〇					

有貨請負人材料發送噸數及貨金概算

發	送	噸	貨	金	(△印江減)
本月分	前月分	比較増減	前年同月分	比較増減	
京釜線 九〇六	二九〇五	△一九九九	二二四五	△三三九	
京義線 八九一	二二六	△六五	三七八	△二八三七	
京元線 四六〇	五〇〇	△六〇	一二六	△三三四	
湖南線 二四八八	〇	△二四八八	〇	△二四八八	
合計 四七四五	三六五一	△一〇九四	五〇九九	△三五一	
京釜線 六九五	五二二	△四四三	一〇九四	△三九九	
京義線 四二二	三六〇	△五二	三八五八	△三四四六	
京元線 二四二	一九三	△五二	二六二	△二二〇	
湖南線 二一九〇	〇	△二一九〇	〇	△二一九〇	
合計 二四三九	五六七四	△五二四	五二四	△二七五	

連帶大貨物發著數量概算

(△印江減)

鐵道院

種	別	斤	噸	車	速達便	計
送出	本月分	前年同月分	比較増減	本月分	前年同月分	比較増減
六六・二	三〇三	九五八	△六五五	一・三〇三	三三	△一〇二四・二
四五・〇	二四七五	二四七五	〇	九五	三八六四	△六九一
一四九・三	一九六四	一九六四	〇	一四九	三四五六三	△一三六〇・一
比較増減	△一五〇・九	五二	五二	五四	三六〇・一	

日本郵船會社

種 別	到者			送出		
	比較増減	本月分	前年同月分	比較増減	本月分	前年同月分
斤				〇・一	〇・一	
噸						
車						
計				〇・一	〇・一	

調査資料

大阪商船會社

種別	斤	噸	噸	車	計	
送出	本月分	前年同月分	比較増減	本月分	前年同月分	比較増減
	〇・一	〇・一	〇・九	一・五	一・〇	一四・一
到着	本月分	前年同月分	比較増減	本月分	前年同月分	比較増減
	二・五	二・五	二・五	三・三	三・三	三四・五
	二・五	二・五	二・五	三・三	三・三	三四・五

朝鮮郵船會社

種別		斤	噸	車	計
到着	草梁經由	六七	〇・七	二八	二・七三
	群山經由	一〇	〇・一	二八	三・九〇
	仁川經由	三〇	〇・三	二八	二・七三
	鎮南浦經由	一〇	〇・一	二八	二・七三
	計	一一三	一・一	一一三	一一・三
送出	草梁經由	六七	〇・七	二八	二・七三
	群山經由	一〇	〇・一	二八	三・九〇
	仁川經由	三〇	〇・三	二八	二・七三
	鎮南浦經由	一〇	〇・一	二八	二・七三
	計	一一三	一・一	一一三	一一・三



第八號三防隧道(延長千五百五十一呎)

側壁疊築六十六呎に達す

第九號三防隧道(延長五百三十四呎六)

側壁及拱疊築完成せり

### 國師堂Ⅱ洗浦間(六哩)

土工工事六分七厘通り、橋梁工事四分八厘通り、隧道工事は左の通りにして總體を通して六分七厘通り成り

第一號三防隧道(延長千九百八十八呎九)

側壁疊築(南口)四百九十呎、(北口)二百九十呎、拱疊築(南口)三百三十呎に達す

第二號三防隧道(延長四百五十四呎)

側壁疊築三百三十呎、拱疊築九十呎に達す

第三號三防隧道(延長四百六十五呎三)

側壁疊築四百四十一呎、拱疊築四百三十八呎に達す

第四號三防隧道(延長五百五十八呎四)

側壁疊築二十呎に達す

第五號三防隧道(延長千五百五十一呎)

側壁疊築(南口)三十呎、拱疊築(北口)二百九十呎、(南口)三十呎に達す

第六號三防隧道(延長千八百八十八呎)

側壁疊築(北口)百八十呎に達す

第七號三防隧道(延長八百九十四呎三)

側壁疊築三百八十六呎、拱疊築三百三十呎に達す

### 軌道敷設並建築列車運轉

元山起點二十五哩五分(龍池院停車場附近)に達す

### 營業開始豫定期

高山龍池院間は本年十月下旬營業開始の豫定なり

### 湖南線建設工事

〔大田方面〕

調査資料

### 土工、橋梁及隧道工事

#### 井邑Ⅱ四街里間(十一哩一分)

土工工事九分通り、橋梁工事九分二厘通り、隧道工事は左の通りにして總體を通して約九分通り成り

第二道嶺隧道(延長三千二百二呎)

側壁疊築(南口)五百四十五呎、(北口)千六百八十三呎、拱疊築(南口)三百八十九呎、(北口)九百七十八呎に達す

### 群山引込線路新設工事

全部竣功せり

### 軌道敷設並建築列車運轉

井邑起點七哩六分(軍令里附近)に達す

〔木浦方面〕

### 土工及橋梁工事

#### 羅州Ⅱ林谷間(十六哩九分)

全部竣功せり

#### 林谷Ⅱ四街里間(十五哩五分)

土工工事九分通り、橋梁工事八分通りにして總體を通して八分七厘通り成り

### 軌道敷設及建築列車運轉

木浦起點五十三哩三分(林谷停車場を距る約一哩大田寄)に達す

### 營業開始豫定期

羅州松汀里間は本年十月上旬營業開始の豫定なり

### 京釜線改築工事

### 第二漢江舊橋梁軀體工及前後築堤工事

總體を通して七分四厘通り成り

## 第二漢江舊橋梁橋脚第四、第五、第九號基礎改良工事

總體を通して八分通り成工せり

## 同橋梁鋼桁架設工事

總體を通して二分二厘通り成工せり

## 京義線支線建設工事

## 博川支線新設工事

土工工事七分通りにして橋梁流橋工事は未だ歩通りを計上するに至らず、總體を通して三分通り成工せり

## 旅館新築工事

## 京城鐵道旅館新築工事

目下本館用諸材料蒐集中なり

## 遞信事業概況

(七月分)

## 第一 通信

## 一 通信機關

(イ)郵便局所の移轉 新築中の廳舎落成に伴ひ京城永樂町郵便所は七月七日より京城黃金町三丁目、松田郵便局は七月五日より文川郡明孝面北九味里に、又石岩郵便所は七月三十一日より順安郡龍興面北二洞に移轉せり

(ロ)電信取扱所の設置 湖南線中木浦及鶴橋兩停車場附近は近時地況の發展と共に乗降客亦漸次増加せるを以て公衆電

報取扱開始の必要を認め七月一日より前記停車場に公衆電信取扱所を設置せり

## 二 郵便

(イ)遞送 遞送に關する改良施設としては七月一日より湖南線(木浦方面)羅州迄延長したるに伴ひ木浦羅州間遞送回數を上下各二回つちに増回し且關係の陸路遞送線路に改正を加へ從來水路便のみに依り遞送しつつありし木浦方面發着の通常郵便物は井邑より長城羅州經由遞送に改め又七月十日京元線福溪迄延長開通と同時に同線に郵便吏員を乗務せしめ車中郵便物の區分を取扱はしむることとし且元山への遞送聯絡は金化淮陽方面經由を廢し福溪より洗浦を経て龍池院に直通せしめ咸鏡南北道に達する通常郵便物は内地來のものとも主として本線に依り遞送することに改めたるを以て何れも多大の速達を見るに至れり其の他金泉尙州間晉州泗川間等の遞送を馬車送改定し遞送の速達を期せり

(ロ)集配 集配に關する改良施設としては湖南線京元線鐵道便の延長に伴ひ沿線局所の市内集配回數集配時刻等を改定せるの外一般の改良として京城市内南大門局の小包郵便配達を通常郵便配達と分離し各別に配達することとし公州局市内配達區畫を増加し何れも配達上の速達を計れり其の他本月中郵便區畫を相互組替たるもの般栗外十八局所集配區畫を改正せるもの安城外二十七局所市外地中集配郵便物多



き地の配達回数を増加せるもの南平外九局所にして其の他  
集配方法及時刻等を改定せるもの二十六局所あり  
(ハ)印刷したる無封書狀及市内特別取扱の無封書狀に添附し  
得べき物件 印刷したる無封の書狀(運送状保險申込書の類を含む)及市内特  
別取扱の無封書狀には從來何等の物件をも添附するを得さ  
るの規定なりしか七月十五日以後は返信用に充つる爲封筒  
通常集書若は相當料金の郵便切手を貼附したる私製葉書に  
差出人の宿所氏名又は返信文を印刷したるもの一枚を限り  
添附し得ることとなり該郵便物發受者の利便を圖れり  
(ニ)印刷物(第三種郵便物に非ざるもの)に添附し得べき物件 從來印刷物には  
其の發行者に於て其の記事に關する物品にして其の印刷物  
の重量を超過せざるものに限り綴附又は貼附することを得  
るの規定なりしも七月十五日以後は印刷物の差出人は注文  
用に充つる爲自己の宿所氏名を印刷したる封筒一枚をも添  
附し得ることとなり印刷物差出人の利便を圖れり

### 三 電信電話

- 一 電報配達區畫の改正 鶴橋電信取扱所は設置と同時に  
附近地域に達する電報の配達をも取扱ふこととせし結果  
木浦及咸平郵便局の電信區畫に對し夫夫組替を爲せり
- 二 停車場揭示電報の揭示を取扱ふ停車場の追加 木浦及  
鶴橋兩停車場に於て公衆電報の取扱を開始すると共に停  
車場揭示電報の揭示をも取扱ふこととせり

三 外國無線電報に關する改正 倫敦國際無線電信會議に  
於て決議せる國際無線電信條約同附屬業務規則公布の結  
果外國無線電報規則を改正し七月一日より實施せり其の  
改正の要項凡左の如し

無線電報の時間外受付は外國電報と同様至急私報以上の  
ものに限ること

帝國海岸局の媒介に依り且帝國電信機關に依り帝國、滿  
洲又は船舶に發著する無線電報に對しては普通電報料を  
課せざること但し至急私報に對しては一語に付十錢を課  
す

陸地發船舶宛無線電報の發信人は其の電報が一箇又は二  
箇の船舶局の中繼に依り傳送せられむことを請求したる  
場合其の中繼料を中繼船舶局に支拂ふ爲發信局に豫納す  
るを要し其の金額は中繼一回に付電報か十語以内なると  
きは一圓六十錢十一語以上なるときは一語毎に十六錢の  
割合を以て計算納付すべきこと

四 電報通數及料金 六月中取扱に係る電報通數及料金並  
前年同月分との比較左の如し

內國電報發信數十七萬七千九百〇六通同著信數十七萬三  
千五百八十七通外國電報發信數五百十三通同著信數一千  
〇七十八通此の總料金四萬九千四百七十七圓六十四錢に  
して之を前年同月分に比較するに內國電報發信數に於て

四分一厘同著信數に於て三分六厘料金に於ても三分六厘を何れも減少し外國電報發信數に於ては一割五分同著信數に於て三割六分五厘を増加せり

五 電信電話工事 本年度電信事務開始計畫局所中寧越郵便所電信創設工事は七月七日竣成八月一日より本事務の取扱を開始の筈又同上惠山鎮新架坡鎮間惠山鎮寶泰洞間市外電話線新設工事の内惠山鎮寶泰洞間は七月十二日竣成通信を開始せり

## 第二 爲替貯金

一 土耳其國と爲替直接交換 從來土耳其其どの爲替交換は羅馬約定に依る四五國の媒介に依りたりしも大正二年七月一日より同國は羅馬約定に加入し直接交換を爲すこととなれり

二 郵便爲替金及取立金 本年六月中に於ける郵便爲替金の受拂高は振出口數十一萬四千四百十四、金額二百四十六萬三千八百六圓、拂渡口數七萬三千四百十七、金額二百一萬七千八百七十三圓にして之を前年同月分に比すれば振出渡口數に於て七步九厘、同金額に於て四步二厘、又拂渡口數に於て一割七厘、同金額に於て二歩を何れも増加せり

又同月中に於ける郵便取立金の受拂高は受入口數三萬三千五百十八、金額四十六萬二千二百四十九圓、拂渡口數二萬三千三百十、金額二十七萬三千五十一圓にして之を前年同月分に

比すれば受入口數に於て五步八厘、同金額に於て二割一步四厘、又拂渡口數に於て三割三分、同金額に於て四割三步七厘を何れも増加せり

三 郵便貯金 本年六月末日に於ける郵便貯金現在高は内地人預入者十四萬七千六百五十三人預入金額四百六十萬二千二百五十一圓、朝鮮人預入者三十五萬六千八百三十二人預入金額八十三萬九千九百三十二圓にして之を前年同月末に比すれば内地人預入人員に於て一割三步一厘、同預入金額に於て七步七厘、又朝鮮人預入人員に於て十七割三步、同預入金額に於て五割三步八厘を何れも増加せり

四 郵便振替貯金 本年六月中に於ける郵便振替貯金の受拂高は口座受入口數一萬四千七百十、金額百五十五萬四百二十三圓、拂出口數一萬二千四百八十六、金額百五十萬六千八百四十七圓にして之を前年同月分に比すれば口座受入口數に於て六割三步四厘、同金額に於て二割八步、又口座拂出口數に於て四割六步二厘、同金額に於て六割一步を何れも増加せり

又同月末口座加入者は千五百六人、同現在預金額は二十八萬千八百五十二圓にして之を前年同月末に比すれば人員に於て五割七步、同現在預金額に於て一割六步四厘を何れも増加せり

## 第三 國庫金受拂

本年六月中に於ける國庫金の取扱高は歳入金口數一萬六千三

十六、金額四十五萬千七百七十四圓、歳出金口數一萬千五百九十六、金額六十二萬千四百四十四圓にして之を前年同月分に比すれば歳入金口數に於て二割五歩三厘、同金額に於て一割一歩六厘を何れも増加せるも歳出金口數に於て四歩七厘、同金額に於て一割三歩六厘を何れも減少せり

#### 第四 遞信局收入

大正二年六月中に於ける遞信局收入左の如し

郵便電信及電話收入		印紙收入	
本年度	本月分	本年度	本月分
本月迄累計	一九四、五六三、〇一五	本年度	一五、五七八、二四三
前年度	本月分	前年度	本月分
本月迄累計	七九七、四六五、九一〇	本年度	三八三、一六〇、八六五
前年度	本月分	前年度	本月分
本月迄累計	一七九、六七〇、二四九	本年度	一〇〇、六五七、九六八
前年度	本月分	前年度	本月分
本月迄累計	七七八、三七〇、五八〇	本年度	六九四、一〇七、七二〇
前年度	本月分	前年度	本月分
本月迄累計	八二	本年度	一四八
前年度	本月分	前年度	本月分
本月迄累計	八〇	本年度	三〇二

#### 第五 海事

一 制規 鴨綠江航路を航行する船舶に對し左の如く注意を與へたり

- イ 本航路は大潮或は増水の場合特に重期出水の際には沙堆の伸縮又は變位極りなきこと
- ロ 入港の船舶は紅色浮標を右舷に、黑色浮標を左舷に保ち尙潮流急激なるときは浮標より浮標に至る一線を保持し其の以外に偏移せざる様航行すること
- ハ 本航路中門自附近より上流安東縣に至る水路は頗る狹隘なるのみならず

調査資料

最低潮時の水深六呎以下の箇所あるを以て半潮時以上に非されは航行甚だ困難なること

ニ 本航路を航行せむとする船舶の喫水は左に掲ぐるものを越はざるを可とすること

- (一) 安東縣に至る間 高潮時に於て十呎
- (二) 龍巖浦に至る間 同 十五呎
- (三) 第三號浮標より多 低潮時に於て十五呎

ホ 本航路に於ける龍巖浦鋪地は水路變遷の結果頗る狹隘なるのみならず潮流急激にして船舶の碇泊不可能なるを以て此の附近に於て碇泊せむとするものは斗流浦の西側以北及黃草坪の東側以南間に於て深所を選び他船の航行を妨げざる様碇泊すること

ヘ 本航路の浮標は毎年結氷中一時之を撤去し解氷後に至り漸次之を碇置するものなること

ト 本航路の浮標は沙堆の位置及水深の變更に伴ひ隨時之を増減變更する場合あること

チ 毎年解氷後碇置し又は沙堆の伸縮移動に伴ひ變更する標識に付ては新に増減したるもの又は著しく位置等の變更したるものに限り之を告示すること

リ 本航路に於て水路の變遷を望む者は船舶關係者又は船長より電報其の方法を以て出入港の確定期日及到着すべき水道名を二日以前に朝鮮總督府遞信局龍巖浦出張所に申出て之を依頼すること

二 船舶 大正二年六月末に於ける朝鮮在籍登簿船舶現在數左の如し

種別	船數	總噸數	登簿噸數
二十噸以上五十噸未満	三〇	九三〇、五九	四七三、〇五
五十噸以上百噸未満	二五	一、〇七三、八五	六一一、二八
百噸以上二百噸未満	九	一、四八六、五四	八八二、七七
二百噸以上三百噸未満	六	一、三二七、二八	八六七、一

五七

調査資料

種別	船数	總噸數	登録噸數
三百噸以上四百噸未満	一	三九、一八四	二四、二九四
五百噸以上六百噸未満	一	五七、一三五	三五、四八六
六百噸以上七百噸未満	一	六九、一八四	三七、三九九
七百噸以上八百噸未満	三	二、二五〇・五九	一、三九五・三六
八百噸以上九百噸未満	三	二、四三〇・三八	一、四四一・二二
千噸以上	二	二、二八一・六	一、二八七・八八
合計	七一	一三、三八三・三三	七、八七九・五六

種別	船数	積石數
二百石以上三百石未満	一五	三、四〇四・五
三百石以上四百石未満	三	一、〇五〇
四百石以上五百石未満	一	四二・五
五百石以上	二	一、〇七一
合計	二二	五、九五〇

三、命令航路 七月中命令航路に關し認可したる重なる事項左の如し

大同江命令航路八月中寄航順序及定期發着日時の件

(受命者鎮南浦汽船合資會社)

四 航路標識 七月中に於ける航路標識の異動左の如し

五八

浮標

水道名	名稱	位置	構造及色
本流	第二十八號	龍巖浦の前面に横延したる洲の西側	紅鐵道圓錐形
同	第三十號	龍巖浦の前面に横延したる洲の西側北端	同
同	第三十二號	黃草坪の北東方津筋の東側	同
同	番外	黃草坪の北東方水道の中央に横延したる沙洲の東側	鐵道圓錐形

水面高	水深	概方	位置	異動
四尺	一尋	(大低潮時)	龍巖山暴風標は南五三度東 安子山(二九三呎)は北一二度三〇分西	撤去
同	同	同	龍巖山暴風標は南六一度東 安子山(二九三呎)は北七度三〇分西	新設
同	同	同	龍巖山暴風標は南一度西 龍化山△は南八七度東	位置變更
同	四分の三	同	龍巖山暴風標は南一七度西 安子山(二九三呎)は北七五度西	新設

水道名	名稱	位置	構造及色
西水道	趙子流	趙子流南東の懸上	木造にして三角形目標を載き高一丈七尺白、黒
同	同	同	同
同	趙子流の北東方	同	同

概方	位置	異動
(磁針)	小寺山頂は南八八度三〇分西 馬島△は南一八度西 小寺山頂は北八六度三〇分西 馬島△は南一八度三〇分西 昌巖は南六八度東 馬島△は南二一度西	撤去 新設 同

干満地の東側中央を示す  
堤側に近接する水路を示す

安子山(二九三呎)は北八度東 長山(五四九呎)は北七九度三〇分西	紅、白色導標を一線に保ち 航行すへきを示す	同
龍化山(二九三呎)は北六二度三〇分東	白、紅、白色導標を一線に 保ち航行すへきを示す	同
龍化山(二九三呎)は北七七度三〇分東	黄草坪の南東端を示す	同
龍化山(二九三呎)は北七八度三〇分東		撤去
龍化山(二九三呎)は北七九度三〇分西	紅、白色導標を一線に保ち 航行すへきを示す	新設
龍化山(二九三呎)は北八三度四〇分西	紅、白色導標を一線に保ち 航行すへきを示す	同

## 如し

國	籍	出船の部		入船の部	
		船數	總噸數	船數	總噸數
日	本	五	六六四七	五	六六四七
英	吉	一	一五七七	一	一五七七
計		六	八三四	六	八三四

— 使用認可證下付

朝鮮瓦斯電氣株式會社届出釜山絶影島間落成海底電線路に對し七月十一日附にて使用認可證を下付せり

日韓瓦斯電氣株式會社京城支店届出鐘路分岐點に於ける軌道變更に伴ふ落成電氣工作物に對し七月二日附にて使用認可證を下付せり

大邱電氣株式會社届出瓦斯機關据付落成電氣工作物に對し七

五九

月三日附にて使用認可證を下付せり  
清州電氣株式會社より電氣工事落成届出により検査の上七月  
十六日附にて假使用認可證を下付せり

大倉喜八郎より外國に注文せる機械器具の一部延著の爲七月一日より本年九月末日迄電氣工事落成期限延期方申請せるに  
より七月十六日附にて之を認可せり

### 三 工事施行認可

日韓瓦斯電氣株式會社より京城支店に於ける電氣鐵道黃金町線終點より蠡島停車場前に至る間に軌道敷設に伴ふ電氣工事施行方申請せるに依り七月二十六日附にて之を認可せり

#### 四 電燈料金並電氣供給條件設定認可

鎮南浦電氣株式會社より電燈料金並電氣供給條件設定方申請せしに依り七月十六日附にて之を認可せり主なる料金左の如し

## 六〇

- 群山電氣株式會社より電燈料金並電氣供給條件設定方申請せるに依り七月三十一日附にて之を認可せり主なる料金左の如し

一	工事費	屋內取付工費一燈一圓
二	器具損料	一燈一箇月十錢
三	定額燃料金	
	燭光別	炭素織
	五燭光	金屬織
	十燭光	一・八〇〇
	十六燭光	一・一〇〇
	廿二燭光	一・四〇〇
	五十燭光	一・三〇〇
		二・七〇〇
		二・五〇〇
		三・五〇〇
四	總工費	一・キロワット一時に付二十五錢

(大正元年度末現在)

Digitized by Google

城	開	春	會	義	水	江	清	公	晉	光	成	羅	鎮	清	全	新	大	鎮	馬	木
津	城	川	寧	州	原	景	州	州	州	州	興	南	海	津	州	州	田	浦	山	浦
五	六	六	六	六	七	七	八	九	九	九	一〇	二	二	二	二	一	二	二	二	二
六八七	二〇四	二三八	二五八	二五二	二六〇	二六〇	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五	二五五
三六	六〇	四二	四〇	五二	四六	五六	五五	五〇	六七	六〇	五三	六七	三三	四五	五六	五〇	八〇	五七	四五	五四
二二三	二二七	一五九	一四〇	一〇七	一九五	二〇八	一八七	一七三	二四四	二二四	二二二	三六七	四七一	一五五	二七八	一七二	二八四	二二〇	一七七	二二五
一	八	〇	八	〇	三	五	一	一	八	二	一	〇	〇	〇	八	三	〇	二	〇	一
三二〇五	四〇、六三八	八、八三三	三、四六二	五、三三八	一、八六四	三、二四七	二、六八三	二、四〇四	五、五五三	九、六〇〇	五、二〇一	五、一四五	二、八七四	八、二〇三	一、八三〇	二、五七六	一、九三〇	六、七二四	二、二二七	六、六〇九
六〇〇〇	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	二、三三〇	八、四三〇	一、九二〇	九、八五〇	一、〇三〇	三、四四三	六、一〇〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇
三、二〇五〇	五、〇七九七	一、一〇四	一、一〇四	六、五三五	四、六八三	一、一〇八六	五、二〇一〇	五、一四一〇	一、四八四三	二、七三四〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇	一、五七八六〇
一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	三	一	二
六一	三二	六三	二五	八四	二六	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

## 六二

[illegible]

備考一 加入者數人口及戶數は大正二年三月末現在に於て

二 人口及戸数は當該局郵便區市内に係るものにして加入區域ト一致せざるも其の差は僅少ニシ



## 羅州郡の面指導狀況

全羅南道羅州郡に於ては面事務の改善刷新を計る爲左の方法を實行しつつあり

一 面書記見習生 面書記見習生の施設は優良なる面書記を養成する目的を以て創めたるものにして普通學校の卒業生又は面書記にして志望あり且將來發達の見込あるものより選出して六箇月間模範面たる郡廳所在地の東部面、西部面、新村面の共同面事務所に於て事務を見習はしめ見習期間を終了せるものは他面の書記に採用せしむるの計畫なり

二 面職員の講習 面職員の講習は春秋二回に面書記を中心として開催するものにして講習科目は統計に關する事項、面經費に關する事項、農作に關する事項、副業其の他に關する事項等に就き細目に亙りて講習す

三 面事務の巡回講習 面事務を實地に就き査閲指導し其の効果を大ならしめむか爲面事務の査閲を爲したるときは面事務處理成績表を作成して各面事務の改善に資することとし既に第二回の成績を發表せり其の結果を見るに第一回に順位甲に屬するもの二面乙に屬するもの六面丙に屬するもの四面丁に屬するもの七面戊に屬するもの四面なりしに第二回には甲に屬するもの四面乙に屬するもの十二面丙に屬するもの一面丁に屬するもの四面戊に屬するもの一面とな

れり又面職員をして事務に習熟せしむるか爲面事務の巡回講習規程を設け前記の査閲指導と共に鮮人郡書記をして其の任に當らしめ既に各面に涉りて二回の巡回講習を了せり

### 面事務巡回講習規程

- 第一條 面事務ノ改善進捗ヲ期待シ實地講習ノ爲郡ニ面事務巡回教師ヲ置ク
- 第二條 巡回講師ハ郡書記ヲ以テ之ヲ行ハシム但シ臨時職員ヲ以テ代ラシムルコトヲ得
- 第三條 巡回講師ハ面事務所ニ出張シ左記事項ニ付實地ノ講習ヲナスモノトス
  - 一 文書ノ處理ニ關スル一切ノ事項
  - 二 統計ニ關スル事項
  - 三 職員ノ規律等ニ關スル事項
  - 四 勸業、教育、衛生、土木及不動産證明ニ關スル事項
  - 五 租稅公課及會計ニ關スル事項
  - 六 前各項ノ外臨時事務及執務上參考ナルヘキ事項ノ説明指導
  - 七 法規、法令ニ關スル説明
  - 八 日常必要ナル國語
- 第四條 講習員ハ面職員及見習生トシテ面事務ニ従事スルモノトス
- 第五條 一箇所講習ノ期間ハ二日乃至三日間トス但シ特ニ必要ヲ認メタル場合ハ臨時之ヲ延長スルコトヲ得
- 第六條 巡回講師出張中間延長ノ必要ヲ認メタル時ハ事由ヲ具シ郡守ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 講習ノ場所
- 二 講習月日
- 三 講習生氏名
- 四 講習科目及其ノ狀況
- 第七條 巡回講師ハ出張中ハ行政事務ニ關シ重要又ハ特殊ト認ムル事項アリ

タルトキハ急遽郡守ニ報告スルコト

第八條 巡回講師講習ノ爲出振ヲ命セラレタルトキハ巡回日割ヲ定メ關係面長ニ通知スルコト

## 龜浦購買販賣組合の設立

慶尙南道金海郡大上面大下面德道面及釜山府左耳面内の果樹栽培業者に於て肥料其の他必要の資料を共同購買し並其の生産せる果物を共同販賣せむか爲標記の組合を設け七月四日道長官の認可を得たり其の組合定款左の如し

### 龜浦購買販賣組合定款

#### 第一章 總則

第一條 本組合ハ左ノ事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

一 農業ニ必要ナル物品ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト

二 組合ノ委託ヲ受ケ其ノ生産シタル農産物ヲ販賣スルコト

第二條 本組合ハ其ノ名稱ヲ龜浦購買販賣組合トス

第三條 本組合ノ區域ハ慶尙南道金海郡大上面大下面德道面及釜山府左耳面トス

第四條 本組合ノ事務所ハ之ヲ釜山府左耳面龜浦洞ニ置ク

第五條 組合員タルモノハ本組合ノ區域内に住居シ又ハ園地ヲ所有シ且ツ獨立ノ生計ヲ營ムモノニ限ル

第六條 組合財産ニ對スル組合員ノ權利義務ハ積立金ニ付テハ納入シタル歩合金額其ノ他ノ財産ニ付テハ拂込済出資額ニ應スルモノトス

第二章 出資及準備金

第七條 出資一口ノ金額ハ金二十圓トシ一人三十口以上ヲ所有スルコトヲ得サルモノトス

第八條 出資第一回拂込金額ハ一口ニ付金五圓トス

第二回後ハ出資各口ニ付毎年三月末金五圓以上宛拂込ムモノトス

第九條 組合員出資ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其ノ拂込ムヘキ金額ノ百分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴收ス

第十條 準備金ノ額ハ出資總額ト同額トシ其ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ三分ノ一以上ヲ積立ツルモノトス

但シ其ノ額ハ拂込済出資額ノ十分ノ一ヲ超エルコトヲ得ス

第十一條 加入金過怠金及第五十二條ニ依リ一部ノ拂戻ヲ爲シタル持分ノ剩餘ハ之ヲ準備金ニ繰入ルモノトス

第十二條 剩餘金力準備金ニ積立ヘキ金額及組合員ニ配當スヘキ金額ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ積立金トシ損失填補ニ充ツルモノトス

#### 第三章 組合ノ機關

第十三條 本組合ニ理事三名監事二名ヲ置キ組合員總會ニ於テ組合員中ヨリ選舉ス

理事ノ内一名ヲ専務理事トス

第十四條 理事ノ任期ハ二箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

補缺選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第十五條 辭任其ノ他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ通常總會ヲ俟ツコト能ハサル場合ニ限り臨時總會ニ於テ補缺選舉ヲ爲スモノトス

第十六條 總會ハ通常總會、臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 理事力必要ト認メタルトキ

二 監事力必要ト認メタルトキ

三 總組合員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ示シテ請求アリタルトキ

第十七條 總會ノ招集ハ少クモ五日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第十八條 總會ハ總組合員ノ二分ノ一以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

總會ノ決議ハ出席シタル組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス  
但シ理事、監事ノ解任、定款ノ變更、除名、解散及合併ノ決議ハ四分ノ三以  
上ノ同意アルコトヲ要ス

第十九條 總會ノ議長ハ事務理事之ニ當ル事務理事事故アルトキハ他ノ理事ノ  
一人之ニ代ル  
但シ總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席組合員中ヨリ之ヲ互選スルコトヲ  
得

第二十條 總會ノ決議録ハ理事之ヲ作り議長及監事之ニ記名捺印スルコトヲ要  
ス

第二十一條 理事ハ組合ヲ代表シ組合事務ヲ總理ス

第二十二條 監事ハ組合ニ於テ取扱フ事務ノ適否及金錢出納ヲ検査監付ス

第二十三條 専務理事ハ有給職トシ其ノ他ノ理事及監事ハ名譽職トス

理事及監事ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第二十四條 本組合ニ支配人壹名ヲ置キ總會ノ承認ヲ經テ理事之ヲ任免ス

支配人ハ理事ノ指揮ヲ受ケ購買及販賣ノ業務ニ任スルモノトス

第二十五條 本組合ニ事務員若干名ヲ置キ理事之ヲ任免ス

事務員ハ理事又ハ支配人ノ指揮ヲ受ケ雜務ニ従事ス

#### 第四章 事業ノ執行

第二十六條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル  
第二十七條 組合ニ餘裕金アルトキハ總會ノ承認ヲ經タル銀行ニ預ケ入ルモノ  
トス

第二十八條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ  
得ス  
一 不動産ノ取得讓渡及其ノ他ノ處分  
二 訴訟行爲  
三 起債

第二十九條 事業執行ニ關スル細則ハ總會ノ承認ヲ經テ理事之ヲ定ム

#### 購買ノ部

第三十條 本組合ハ組合員ノ注文ニ應ジ總會ノ決議ヲ經タル物品ヲ便宜購買ス  
ルモノトス

#### 調査資料

第三十一條 組合員ニ賣却スル物品ノ代價ハ市價ヲ標準トナシ理事之ヲ定ム  
第三十二條 本組合ハ必要アルトキハ組合員ニ注文物品ノ見積代金ヲ前納セシ  
ムルコトヲ得

第三十三條 組合員組合ヨリ物品引渡通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ引取  
リ之ト同時ニ其ノ代金ヲ支拂フコトヲ要ス

#### 販賣ノ部

第三十四條 本組合ニ於テ販賣スル物品ハ組合員ノ生産又ハ加工シタル農産物  
ニ限ルモノトス

第三十五條 組合員ハ本組合區域以外ノ地ニ於テ組合ニ委託セスシテ前條ノ物  
品ヲ賣却スルコトヲ得ス  
但シ理事ノ承諾ヲ得タル場合又ハ消費者ニ對シ直接小賣ヲ行フモノハ此限リ  
ニアラス

第三十六條 理事又ハ支配人ハ適宜ノ時期ニ於テ各組合員ノ生産物ニ付報告ヲ  
徴シ又ハ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 組合員ハ其ノ賣却セントスル物品ニ付代價又ハ賣却ノ時期ヲ指定  
スルコトヲ得ス

第三十八條 本組合ハ組合員ニ拂渡スヘキ物品ノ代金ニ付總會ノ定メタル歩合  
金ヲ收納ス

第三十九條 組合ハ其ノ受託品ヲ賣却シタルトキハ速カニ其ノ數量價格ヲ荷主  
ヘ通知スルコトヲ要ス

第四十條 組合員ハ前條ノ通知書ヲ接受シタルトキハ何時ニテモ代金ノ拂渡ヲ  
請求スルコトヲ得

第四十一條 受取物品中組合ニ於テ調製、偽裝其ノ他特殊ノ勞費ヲ加ヘタルモ  
ノニ付テハ別ニ賣費ヲ徴シ代金計算ノ際之ヲ差引モノトス

第四十二條 組合ニ委託スル物品ハ總會ノ規定ニ定ムルトコロニ從ヒ荷  
造ヲ行フモノトス

前項荷造規定ハ總會ノ承認ヲ經テ理事之ヲ定ム  
第四十三條 物品受引後天災又ハ荷造ノ不完全ヨリ起ル損害及ヒ物品ノ性質上  
當然來ルヘキ損害ハ荷主ノ負擔トス

第五條 剩餘金分配及損失填補  
第四十四條 剩餘金ハ準備金ニ積立シヘキ金額ヲ扣除シタル後ニアラサレハ之

調査資料

ナ組合員ニ配當スルコトヲ得ス

前項配當ハ各組合員ノ持分ニ應シ年費割以下トシ總會ノ承認ヲ經テ理事之ヲ定ム

第四十五條 損失填補ハ先ツ積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス

第六章 加入及脱退

第四十六條 新タニ組合員タラントスルモノハ申込書ニ加入金ヲ添ヘ理事ニ差出スコトヲ要ス

理事力監事ノ同意ヲ得テ前項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨加入者ニ通知シ出資第一回拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 第一年度ノ加入金ハ壹口ニ付金貳拾錢トシ以後ハ毎年通常總會ニ於テ組合財産ノ増減ニ應シ其ノ額ヲ定ム

第四十八條 組合員持分ヲ譲渡サントスルトキハ理事ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス持分ノ譲受人組合員ニ非サルモノナルトキハ加入金及出資ノ拂込ヲ爲サシメサルノ外第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 組合員脱退セントスルトキハ少クモ其ノ事業年度末六箇月前ニ其ノ旨理事ニ報告スルコトヲ要ス

第五十條 死亡ニヨリ脱退シタル組合員ノ相続人カ直ニ加入ノ手續ヲ爲シタルトキハ組合ハ被相続人ニ對スル持分ノ拂戻計算ヲ爲サシメテ之ヲ被相続人ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノト看做ス此ノ場合ニ於テ加入金ヲ差出スコトヲ要セス

第五十一條 組合員左ノ事由ノ一ニ當ルトキハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ除名ス

一 出資ノ拂込ヲ怠リ期限後一箇月以内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキ

二 自己ノ生産シタルモノニ非サル物品ノ販賣ヲ委託シタルトキ

三 第三十五條ノ規定ニ違背シテ物品ヲ賣却シタルトキ

四 組合ノ事業ヲ妨クルノ所爲アリタルトキ

五 犯罪其ノ他ノ所爲ニヨリ信用ヲ失ヒタルトキ

第五十二條 組合員脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻又ハ債務ノ辦済方法左ノ如シ

- 一 其ノ持分カ拂込済出資額ニ滿タサルトキハ其ノ剩宛ヲ拂戻スモノトス
- 二 其ノ持分カ拂込済出資額ヲ超ユルトキハ其ノ拂込済出資額ヲ限り拂戻ス

モノトス

但シ死亡禁治產其ノ他總會ニ於テ止ムコトヲ得サルモノト認メタル事由ニヨリ脱退シタル組合員ニハ其ノ持分ノ全部ヲ拂戻スモノトス

三 組合ノ債務カ其ノ財産ヲ超過セルトキハ拂込済出資額ニ應シ其ノ差額ヲ剩宛テ之ヲ徴收スルモノトス

第七章 解散

第五十三條 本組合解散シタルトキハ理事其ノ清算人トナル

第八章 附則

第五十四條 第三十五條ノ規定ハ其ノ適用ノ範圍ヲ釜山府、釜山港ニ限り組合生産物ノ増加ニ伴ヒ漸次之ヲ擴大スルモノトス

南鮮植物採取目錄 (承前完)

Urticaceae 蕁麻科

*Achradia japonica*, Maxim. やまのみず 南山

*Boehmeria bioba*, Wedd. らせりたさう 漢天島

" *spicata*, Thunb. こおのそ 御真山

" *tricuspidata*, (Hance) Makino. おのそ 京城

*Urtica angustifolia*. Moraceae 桑科 御真山

*Cudrania triloba*, Hance. はりくわ 南山 漢天島

\* *Ficus erecta*, Thunb. V. Sieboldii, (Miq) King. はせいのわびわ 同

" *foveolata*, Wall. いたびわづら 同

*Hemulus japonicus*, Sieb. et Zucc. かなむぐら 南原

*Morus alba*, L. くらわ 光陵 御真山

Chloranthaceae 金粟科

*Chloranthus japonicus*, Sieb. しせりしづわ 光陵

Ulmaceae 榆科

*Abelicea hirta*, (Thunb.) Schneid.

けやき 京城 智異山 濟州島

*Celtis sinensis*, Pers.

ねのき 京城 智異山 同

*Bungena*, Pl.

ねぞねのき 光陵 同

*Thunus montana*, Willd.

あつに 光陵 同

*parvifolius*, Jacq.

あきになれ 同 濟州島

Fagaceae 殼斗科

*Castanea sativa*, Mill. V. *pubinervis* (Hassk.) Makino.

しなぐり 京城

*Pasania cuspidata*, Persl.

し 濟州島

*Quercus acuta*, Thunb.

あかかし 同

*aliena*, Bl.

ならかしわ 同

*glaucofilica*, Bl.

こな 光陵 智異山 同

*glauca*, Thunb.

あかし 同

*stepophylla*, (Bl.) Makino.

うらじろかし 同

*crispula*, Bl. V. *mandshurica*, Koide.

わうちいみつなら 光陵

*grosseserrata*, Bl.

みつなら 智州島

*mongolica*, Fisch.

もんごりなら 智異山

*serrata*, Thunb.

くねぎ 京城

*V. chinensis*, Miq.

あべまき 光陵

*Betulaceae* 樺木科

*Alnus incana*, Will. V. *silvatica*, Spach.

やまはらのき 智異山

*japonica*, Sieb. et Zucc.

はらのき 光陵

*Betula chinensis*, Maxim.

えぞのだけかんば 智異山 同

*Erusani*, Chaz.

えぞのだけかんば 同

*Schmidtii*, Regel.

えぞのだけかんば 同

*Ulmaceae* 榆科

*Carpinus cordata*, Bl.

さわしは 光陵

*laxiflora*, Bl.

あかしで 智異山

*velensis*, Maxim.

いおしで 光陵 同

*Corylus heterophylla*, Fisch.

はしはみ 光陵 同

*mandshurica*, Maxim.

おにはしはみ 光陵 智異山

*rostrata*, Ait.

つのはしはみ 同

*Salicaceae* 楊柳科

*Populus alba*, L.

ぎんざろ 南山

*suaveolens*, Fisch.

ざろのき 濟州島

*Salix babylonica*, L.

したれやなぎ 京城

*glandulosa*, C. Secm.

まるばやなぎ 智異山 濟州島

*purpurea*, L.

こりやなぎ 京城

*Thunbergiana*, Bl.

たねわやなぎ 南山

*Juglandaceae* 胡桃科

*Juglans mandshurica*, Maxim.

まんしゆくるろ 京城

*Platanus sibirica*, Sieb. et Zucc.

のぐろ 巨濟島

*Piperaceae* 胡椒科

*Piper koto-kataura*, Sieb. et Zucc.

ふうとうかつら 濟州島

*Saururus*

さんげしやう 濟州島

*Orchidaceae* 蘭科

*Angraecum falcatum*, Benth. et Hook.

ふうらん 濟州島

*Velutanthura longibracteata*, Bl.

ささばざらん 光陵

*Cypripedium macranthum*, Sw.

あつもとりさう 北溪山

*Dendrobium monile*, Thunb.

せきこく 濟州島

<i>Epipactis gigantea</i> , Dougl.	すずらん	北漢山	
<i>Gastrodia elata</i> , Bl.	おにのやぶら	光陵	
<i>Gymnadenia Conopsea</i> , R. Br.	ていかたちざり		濟州島
” <i>eucibacea</i> , L. C. Rehb.	みゆまもちづり	智異山	
” <i>gracilis</i> , Miq.	ひならん	南山	北漢山
<i>Goodyera repens</i> , R. Br.	しゆずらん		智異山
<i>Habenaria linearifolia</i> , Maxim.			濟州島
<i>Liparis auriculata</i> , Bl.	くもきりさう	光陵	同
” <i>kraemerii</i> , Fret Sév.	じやうばちさう	同	
<i>Myrmecodia japonica</i> , Rolfe	ありさなしらん		濟州島
* <i>Oreoclis patens</i> , Lindl.	こけいらん	光陵	
<i>Platanthera chlorantha</i> , Cuslt.	いぞちざり	同	
<i>Pogonia japonica</i> , Reich.	さきさう	北漢山	智異山
<i>Spiranthes australis</i> , Lindl.	れじばな	光陵	濟州島
Iridaceae 鳶尾科			
<i>Blancandachinenensis</i> , L.	ひあふぎ		濟州島
<i>Frits ensata</i> , Thunb. V. <i>chinensis</i> , Maxim.	れじあやめ	南漢山	同
” <i>minuta</i> , Fr. et Sév.	さんかきつ	同	北漢山
” <i>Rossi</i> , Baker.	たれゆはさう	同	冠嶽
” <i>sibirica</i> , L. V. <i>orientalis</i> , Jaber.	あやめ	同	同
Dioscoreaceae 薯蕷科			
<i>Dioscorea japonica</i> , Thunb.	やまのいも	南漢山	
” <i>nipponica</i> , Makino.	うちわさこ	同	
” <i>quinqueloba</i> , Thunb.	さくばさこ		徳山
” <i>septemloba</i> , Thunb.	もみぢさこ		濟州島
Liliaceae 百合科			
<i>Allium japonicum</i> , Regel.	やまらつきやう	北漢山	
<i>Asparagus Schobertianus</i> , Kunth.	くさすきやうづね	光陵	

* <i>Chionographis lutea</i> , (Thunb.) Baill.	しらいささう		濟州島
<i>Clintonia ulensis</i> , Thunb. et May.	つばめなも	光陵	同
<i>Convallaria majalis</i> , L.	きろかけさう	北漢山	
<i>Diosporum smilacinaum</i> , A. Gr.	ちごゆり	南山	濟州島
” <i>viridescens</i> , (Max) Nakai	すりまちごゆり	同	
<i>Homocallis Dumortieri</i> , Morr.		同	
” <i>flava</i> , L.		光陵	
” <i>minor</i> , Mill.	ゆうすげ		金州
<i>Idoloniopsis japonica</i> , (Thunb.) Maxim.	しやうじやうばち	北漢山	
<i>Hosta minor</i> , (Baker). Nakai.	いわぎぼうし		智異山
<i>Idium amabile</i> , Palib.	こまゆり	北漢山	同
” <i>callosum</i> , Siebl. et Zucc.	はるかたゆり		濟州島
” <i>Masonii</i> , Leich.	てふれんくるまゆり	光陵	智異山
” <i>tigrinum</i> , Andz.	おにゆり	北漢山	馬山
<i>Liriope granulifolia</i> , L.	やぶらん		馬山
<i>Liriope graminifolia</i> , L. V. <i>Koreana</i> , (Pallid) Nakai.			馬山
<i>Lloydia serotina</i> , Reich.	ちしまあまな		濟州島
<i>Maianthemum Convallaria</i> , Wigger.	まわづるさう		同
<i>Paris quadrifolia</i> , L. V. <i>obovata</i> , Regel.	くるまげつくばらさう		智異山
<i>Polygonatum giganteum</i> , Diels. V. <i>Thunbergii</i> , Maxim.	なるこゆり	東城	
” <i>inflatum</i> , Kom.		光陵	
” <i>officinale</i> , Al.	あまさこ	同	南漢山
<i>Sella chinensis</i> , Benth.	つるば		酒川 濟州島

<i>Smilacina japonica</i> , A. Gray.	ゆきざし	光陵	
" <i>yedensis</i> , Fitch.	おほばゆきざし		濟州島
<i>Smilax chin.</i> L.	さるざりいばら	南山	同
" <i>herbacea</i> , L. V. <i>nipponica</i> , Maxim.	しほで	同	
<i>Smilax Oldhami</i> , Miq.	たしほで	冠嶽	濟州島
" <i>Sieboldii</i> , Miq.	やまがしゆ		
<i>Symplocos foetida</i> , Salisb.	さぜんさう	南漢山	濟州島
③ <i>Tofieldia Fauriei</i> , Lévl. et Vent.			濟州島
<i>Trillium obovatum</i> , Fursch. しるばなのねいさう		智異山	同
*△ <i>Tricyrtis dilatata</i> , Nakai.		光陵	
<i>Vertum Maximowiczii</i> , Baker. あなやきさう		智異山	濟州島
" <i>Lobelianum</i> , Bernh.		智異山	
Juncaceae 燈心草科.			
<i>Juncus alatus</i> , Presl. Sar.	はなびさしやう	任實	
" <i>diastrophanthus</i> , Buch.	ひろばのわうわいさきしやう	南原	
<i>Juncus effusus</i> , L. V. <i>decipiens</i> , Buch.		全州	
" <i>prismatocarpus</i> , R. Br. V. <i>Leschenaultii</i> , Buch.	はいわらかひさきしやう		濟州島
Pontederiaceae 雨久花科			
<i>Monocoria Korsakowii</i> , Regel. et Maack.	かつあなひ		濟州島
" <i>vaginalis</i> , Presl, V. <i>plantaginina</i> , Solms-Laub.	こなぎ	任實	
Commelinaceae 鴨跖草科			
<i>Commelina communis</i> , L.	くゆくさ	立石	
" " <i>V. angustifolia</i> , Nakai.		京城	
<i>Polka japonica</i> , Horst.	やぶめうわ		濟州島
Araceae 天南星科			
<i>Arisema amurense</i> , Maxim.	ひろばのてんなんしやう	光陵	南漢山

濟州島

<i>Arisema japonicum</i> , Bl.	てんなんしやう	光陵	南漢山
<i>Pinnellia ternata</i> , (Thunb.) Breit. わらすびしやう		京城	
Lemnaceae 浮萍科			
<i>Spirodella polyrrhiza</i> , Schneid.	うきくさ	同	
Eriocaulaceae 慈郎草科			
<i>Eriocaulon Sieboldianum</i> , Sieb. et Zucc.	ほしくさ	智異山	
" <i>nipponicum</i> , Maxim. しるばなのひげ		北漢山	
Cyperaceae 莎草科			
<i>Bulbostylis barbata</i> , Kunth.	はたがや	京城	
" <i>capillaris</i> , Kunth. V. <i>trifida</i> , C. B. Clark.	いさばなびてんつき		濟州島
<i>Carex arenicola</i> , Fr. et Schmidt. くろあすけ		同	
" <i>breviculata</i> , R. Br. V. <i>Royleana</i> , Kük. f. <i>longearistata</i> , Kük.	あなすけ	同	
" <i>cerrua</i> , Boott.	あざなるこすけ	同	
" <i>japonica</i> , Thunb.	ひこくさ	同	
" <i>neurocarpa</i> , Maxim.	かこしわや	同	
" <i>Maackii</i> , Maxim.	やわみすけ	同	
" <i>siderosticta</i> , Hance.	たがれさう		濟州島
<i>Cyperus diformis</i> , L.	たまわやつり	智州	
" <i>flavus</i> , Retz.	ひめわやつり	同	
" <i>exaltatus</i> , Ketz.	あんべらわやつり	立石	
<i>Cyperus Iria</i> , L.	こごめわやつり	智州	
" <i>truncatus</i> , Turcz.	うしくさ	北漢山	
<i>Eleocharis japonica</i> , Allg.	はり	馬山	
" <i>plantaginea</i> , R. Br.	くろへわ	南原	
" <i>tetragyna</i> , Nees.	しわく	任實	
<i>Limbristylis diphylla</i> , Vahl.	くろてんつき	京城	
" <i>millicca</i> , Vahl.	ひてりこ	智州	
" <i>subulispicata</i> , Nees. et Mey.	やま	馬山	

京城

<i>Kyllingia brevifolia</i> , Rott.	ひ ろ く ぐ	巨濟島
<i>Lipocarpha microcephala</i> , Kunth.	ひんじつやつり	徳山
<i>Pycnus globosus</i> , Reich, V. strictus, C. B. Clark.	めあせつやつり	佐賀
<i>Rhynchospora Franchetii</i> , C. B. Clark.	ひんじつやつり	巨濟島
<i>Scirpus erectus</i> , Poir.	ほ た る お	巨濟島
” <i>eriphorum</i> , L.	まつやさすき	光陵
” <i>mucronatus</i> , L.	ひんがれい	光陵
” <i>maritimus</i> , L.	うきやわら	光陵
” <i>triqueter</i> , L.	さんわくお	徳山
(Gramineae 禾本科)		
<i>Agropyrum semicostatum</i> , Nees, せもじくさ	みやまねわら	巨濟島
* <i>Agrostis canina</i> , L.	みやまねわら	巨濟島
” <i>perennans</i> , Tuck.	やまねわら	巨濟島
<i>Alopecurus fulvus</i> , L.	すずめのてつじ	同
<i>Anulropogon Naritus</i> , L. V. Geringii, Hack.	なわらわ	同
<i>Arrundinella anomala</i> , Steud.	さだしげ	同
<i>Avena fatua</i> , L.	ちやのき	巨濟島
<i>Beckmannia eruciformis</i> , Host.	みのこあ	同
<i>Calamagrostis Elygosa</i> , Rott. V. densiflora, Ledeb.	やまあわ	巨濟島
” <i>sachalinensis</i> , Fr. Schmidt.	こいのわら	巨濟島
<i>Dierbena japonica</i> , Fr. et Sav.	たつのひげ	同
<i>Eragrostis japonica</i> , Thunb.	こいのわら	巨濟島
” <i>pilosa</i> , Beauv.	わら	巨濟島
<i>Festuca ovina</i> , L.	うしのひげ	同
” <i>parvigluma</i> , Steud.	さだしげ	同

巨濟島

<i>Imperata drundiaceae</i> , Cyr.	ち の や	同
<i>Ischaemum Sieboldii</i> , Miq.	ち の は し	同
<i>Miscanthus sinensis</i> , Anders.	す ん き	巨濟島
<i>Muehlenbergia japonica</i> , Steud.	れすろわ	巨濟島
<i>Oplismenus Bernanni</i> , Beauv.	ちりあざ	巨濟島
* <i>Panicum sanguinale</i> , L.	こめひじわ	巨濟島
” <i>”</i> , V. ciliare, Desll.	め ひ じ わ	光陵
” <i>crugalli</i> , L. V. submuticum, Mey.	ひ び え	光陵
” <i>indicum</i> , L.	はいねあり	同
<i>Paspalum Thunbergii</i> , Kth.	すずめのひえ	同
<i>Pennisetum japonicum</i> , Trin.	ちわらしば	同
<i>Roettelia compressa</i> , L. V. japonica, Hack.	うしのしつべい	同
<i>Sporobolus elongatus</i> , R. Br.	あぶらすき	同
<i>Setaria viridis</i> , Beauv.	れすろのな	同
<i>Sesuvium portulacastrum</i> , L.	えのころくさ	同
<i>Thunbergia Forskallii</i> , Hack. V. japonica, Hack.	れまわら	同
<i>Zizania aquatica</i> , L.	めわら	同
<i>Hydrilla verticillata</i> , Caep.	く る も	同
<i>Ottelia alismoides</i> , (L) Pers. f. oryzetrum, Kom.	”	同
” <i>”</i> , (L) Pers. f. lacustris, Kom.	”	同
<i>Alisma plantago</i> , L. V. angustifolium, Kunth.	”	同
<i>Sagittaria pygmaea</i> , Miq.	うりわ	同
” <i>marginifolia</i> , L.	なもたわ	同

巨濟島



Polamogetonaceae 眼子菜科

*Potamogeton hybridus*, Michx. ? さいのひるむしろ

” *javanicus*, Hassk.

” *natus*, L.

” *oxyphyllus*, Miqu.

*Zosteria marina*, L.

Najasaceae 茨藻科

*Najas minor*, All.

Typhaceae 香蒲科

*Typha orientalis*, Presl.

Ginkgoaceae 公孫樹科

△ *Ginkgo biloba*, L. (銀杏)

Taxaceae 一位科

*Cephalotaxus drupacea*, Sieb. et Zucc.

Pinaceae 松科

*Taxus cuspidata*, Piliq.

Abies holophylla, Maxim.

△ ” *nephrolepis*, Maxim.

*Juniperus chinensis*, L.

Pinus Bungeana, Zucc. (栽培)

△ ” *densiflora*, Sieb. et Zucc.

” *funebria*, Kom.

” *koraensis*, Sieb. et Zucc.

” *Thunbergii*, Parl.

Sellaginellaceae 槐栢科

\* *Sellaginella caulescens*, Spring.

” *involvans*, Spring.

Lyco-podiaceae 石松科

*Lyco-podium chinensis*, H. Christ.

” *clavatum*, L.

” *serratum*, Thunb.

*Equisetum arvense*, L.

” *rauosissimum*, Desf.

*Marsilia quadrifolia*, L.

*Salvinia natans*, (L.) Allim.

*Osmunda regalis*, L.

*Lygodium japonicum*, (Thunb.) Sweet.

*Asplenium Trichomanes*, L.

△ *Athyrium acrostichoides*, Diels

*Athyrium Filix-femina*, (Bernh) Rott.

*Athyrium nipponicum*, (Metz) Hance.

” *yokoscense* (Fr. et Sav.) Makino

\* *Cyclopholus lingua*, (Thunb) Desv.

△ ” *petiolosus*, (H. Christ.)

ひめすざらん 濟州島

ひわいげのわづら 同

さうげひば 智異山 同

Equisetaceae 木賊科

すざな 京城

いねさくさ 同

Marsiliaceae 蘋科

でんじさう 京城 酒川

Salvinaceae 槐葉蘋科

さんしやうも 酒川

Osmundaceae 蕨科

でんまい 京城

Schizaceae 薄金砂科

かにくさ 徳山 濟州島

Polypodiaceae 水龍骨科

ちゆせんした 南山

光陵

めした 同

智異山

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

*Davallia bullata*, Wall. し の ぶ 北海道 濟州島

*Diplazium Conlilii*, Fr. et Sav. はそはみぞした 光 陵

*Diplazium japonicum*, Thunb. V. 智異山  
*Conlilii*, (Fr. et Sav.) Makino. はそはしけした

*Drymoglossum carnosum*, (Vahl) T. Sm. B. 濟州島  
*microphyllum*, (Presl) Nakai. まあつた

*Dryopteris callopsis*, (Fr. et Sav.) C. Christ. 智異山  
なんたいした

*Filix-mas*, (L.) Schott. かやまのて 同 濟州島

*Ilacoida*, (Bl.) O. Kuntz. 同

*Miqueliana*, (Maxim.) C. Christ. 南山

*Matteucia orientalis*, (Hook) Trev. 南山  
ならいした

*Microlepia pilosella*, (Hook.) H. Christ. 立石  
いねかんそく

*Microlepia pilosella*, (Hook.) H. Christ. 光 陵  
いねした

*Wulfenii*, Moore. わうれんいた 同 徳 山

*Onoclea sensibilis*, L. こうやわらび 京 城

*Polypodium koreanis*, H. Christ. 智異山  
みやまのきしのだ

*hastatum*, Thunb. みつでうらばし 濟州島

*lineare*, Thunb. のきしのだ 同

*Polystichum falsatum*, (L.) Diels. おにやぶそてつ 同

*triplicatum*, (Kuntz.) Presl. 智異山  
しゆもくした

*Peridium squillunum*, Kuhn. わらび 光 陵

*Pteris cretica*, L. おははねのもささう 濟州島

*Woodia nandahurienis*, Hook. ふくろした 光 陵 徳 山

*polystichoides*, Bat. V. Veltchii, Ilance. 智異山

*Trielomantes radicans*, Swartz. はいばらごけ 濟州島

*Illyriophyllaceae* 苦忍科

(東京植物園新築後編纂部)



○第二回林務主任會議

第二回各道及警務廳林務主任會議は七月二十日より本府會議室に於て開會、總督の訓示、農商工部長官の指示及内務部長官、警務總長の注意あり又農商工部、内務部、警務總監部提出に係る諸問題に對する答申を終へ二十六日より京城苗圃、慶熙宮苗圃、京城附近造林地及仁川に於けるニセアカシヤ林等を視察し實地に就き打合を爲し二十九日閉會せり

○夏季講習會情況

公立普通學校、公立實業學校及私立學校に奉職する内地人教員百二十八名を京城に召集し朝鮮教育に關して講習を受けしめたり

(一) 開會 講習會は本年七月十五日を以て京城高等普通學校附設臨時教員養成所

に於て開會同二十四日閉會せり開會當日は山縣政務總監左の告辭を朗讀し宇佐美内務部長官は教育者の特に注意すべき事項に關し左の訓示を與へたり

山縣政務總監告辭

講習員諸子、炎熱の候多敷講習員諸子と相見ざるを得るを欣ぶ、諸子は多年朝鮮教育に従事し其の成績亦見るべきものあり本官は是れを多とす然りと雖教育の事たる一朝一夕にして其の効果を求め得るものにあらず深慮遠謀研鑽攻究を要すべき事項一にして止まらず是れ特に諸子をして講習を受けしむる所以なり諸子克く勉勵研修其の目的を達し一度任に歸らば堅忍不拔の精神を以て其の職に盡し宜しく奉公の至誠を究うることな期すべし

茲に講習會を開催するに當り一言以て諸子に除く

大正二年七月十五日

政務總監 山縣伊三郎

宇佐美内務部長官訓示要領

公立普通學校内地人教員夏季講習會を開會するに當り多數の講習員諸子と相見はて一場の訓示をなすを得るは本官の欣快とする所なり、諸子の多數は既に一度講習會に出席して朝鮮教育の方針並に教授訓練上の注意等に關して聽講したる者なれば茲に改めて之に言及するの要なきか如きも此の會合に於て更に一言平素所感の一端を述へ諸子の注意を新にせむとす

一 朝鮮教育の方針漸次了解せられ教授訓練の成績亦次第に見るべきものあるか如し

諸種の報告に依るも實地視察者の復命に依るも諸子が能く本府教育の方針を體し熱心なる經營と周到なる注意とを以て諸種の困難を戰ひつつ能く朝鮮教育の實際に當り其の成績見るべきものあるか如し本官は諸子の勢を多とするものなり然れども教育の事たる一朝一夕にして其の効果を收得すべきものにあらず殊に歴史を異にし風習を同うせざる朝鮮の民衆を啓發して忠良なる我帝國の同胞として渾然一體たらしむるは尙前途遠達にして諸子の責務重大なるものあり、諸子豈一層奮勵努力せしめて可ならむや

一層講習の徹底を期すべし

普通學校に於て最も意を注ぐべきは其の訓育に在り而して校訓又は訓練綱領として選擇せられたる條目を見るに概して其の當を得たるもの多く且形式的方面に於ては次第に其の效果見るべきものあるか如し然れども未だ以て精神的教化の實際に於ては遺憾の點少しとせず殊に朝鮮の社會及兒童の家庭は其の風俗習慣等の關係よりして諸子の苦心に成れる教化の効果を徹底せしむるに多大の困難あるべし是れ諸子の爲に同情に堪へざる所なり諸子は須らく家庭との連絡を密にし且餘暇を以て社會教育をも併せ行ひ以て學校訓育の徹底を期すべきなり殊に近時普通學校兒童の同風休校又は是に類するもの往往之れあり斯の如きは實に學校教育の爲に遺憾とするのみならず果に社會に及ぼし公安を害し施政上に影響するなきを保せず而して其の原因種種ありと雖教員の至誠足らず官行の不謹慎亦實に之が起因として數へざるべからざるものなきにあらず諸子は須らく内に顧みて益自己の修養に求め外に對しては寛嚴宜しきを得風威併せ施し秩序規律節制等の諸德に關しては殊に意を致して校風の端正を期すべきなり

一 國語教授の成績著しく進歩したるは尤に欣ぶべきなれば更に一層の努力を要す

普通學校に於ける國語教授の成績は近來著しく其傾向を示しつつあるものか如し是れ一は朝鮮兒童の語學學習の能力可なるにもよらむか主として教員諸子が銳意其の教授の方法を改善し勉勵努力せられたる結果ならざるはあらず

是れ寔に朝鮮啓蒙上貢すべきことなり然りと雖今や各科の教科書新定せられ  
攻究研鑽を要すへき事項一にして止まず諸子は須らく是に關する講話を傾聴  
し教科書編纂の根本精神を會得し其の運用に關しては經驗家の所説と自己の  
實驗とを比較攻究して疑問あらは之を質し採長補短益其効果を擧ぐるに努め  
ざるへからず

# 地方的特色を發揮すへし

朝鮮教育令に朝鮮の教育は時勢及民度に適合せしむべきことを明記せられた  
り時勢及民度とは各地方に於て相異なるや論なし従て各普通學校に於ても其  
の教育の根本精神に至りては寸毫も相異なるべきものあらざるを離海濱、山間、  
都市等學校所在地の狀況に應じ民度に鑑み各地方の特色を有すへきものなる  
ことは勿論なり例へば漁村に於ては網の製作法、漁獲方法、其の販路の發展  
法等には殊に綿密なる注意を拂ふ必要あるへく養蠶の盛なる地方、大豆の産  
出多き地方、果樹の栽培に適したる地方、米麥の改良を要する地方、森林多  
き地方、國境に位する地方等皆其の教材選擇に輕重あり緩急ありて以て其の  
地方的要求に適合せしむへき所謂地方的特色を發揮する必要あり斯くして學  
校教育と實際生活とが密接なる連絡結合を保ち初めて活ける教育たることを  
得へし然るに近時の教育は動もすれば智的に偏し形式に流れ其の結果は徒ら  
に不生産的人物の輩出を多からしむる缺點を有す諸子は須らく常に意を此所  
に用ひ土地の狀況に應じ生活の實際に裨益せしむることに努むへし

# 卒業生の監督指導に一層意を致すへし

多くの學校に於ては生徒をして卒業せしむれば既に教育の目的を達したるや  
如く考へ卒業後の方針、境遇、言行等に對しては更に何等の注意を拂はざる  
ものあり誤れるも甚しと云はざるへからず此の卒業後の指導は之れを在學中  
の教育に比すれば一層大切なものなれども眞に其の成績を挙げむとせば頗  
る困難なるものなり而して學校教育の効果は其の卒業生に依りて決するもの  
なれば實務に従事せる者に就きても或は上級の學校に入學せる者につきても  
其の指導監督を怠らず就中内地留學生及私立中等學校入學者等に對しては常  
に其の思想の變移に留意し多年學校に於て苦心せし教育の効果を破壞せられ  
ざる様其の連絡の方法を一層密接有效ならしむるは且下の急務とする所なり  
即ち卒業生をして常に母校を中心として活動せしめ進ては學校設置區域内の

人民は學校を中心として行動するに至らば實に教育者其の人の快事のみにあ  
らざるへし

# 學級整理に關して考慮を要す

普通學校は義務教育に非ざることは既に諸子の熟知せる所従て兒童をして強  
制的に入學せしむる必要なきは勿論能く學校設備と經費とを考慮して以て其  
の人員を定め選抜の方法を講ぜざるへからず然るに各學校の實際を見るに收  
容し得へき員數に比して尙著しく其の生徒數の少きもの或は生徒數に比し學  
級編制の方法に考慮を要するもの等少からず

斯の如きは經費の最も有効に使用せざるへからざる今日其の使用法宜しきを  
得たるものと稱することを得ず故に教室の廣狹部下職員の技倆及教科の分擔  
等を考へ少額の經費を以て一層效果多き編制方法を講し且は多數の兒童を收  
容せざるへからず

# (二)

以上訓示せる所は且下普通學校に於て意を注ぐへき必要ありと認めたる事項中  
特に著しき二三を指示せるに過ぎず諸子克く部下教員と一致協力して其の意を  
體し以て朝鮮教育の本旨を徹底せしむることに努力せざるへからず

# 講習科目及講師

# 講習科目

新教科書編纂總旨

同 朝鮮總督府事務官 小田 省吾

同 朝鮮總督府編纂官 立柄 敬俊

同 學校施設及訓育に關する事項

同 朝鮮總督府視學官 太田 秀雄

同 教授法の實際的事項

同 京城高等普通學校教諭 渡部 春藏

同 國藝に關する事項

同 京城高等普通學校教諭 山口喜一郎

同 學校園及學校林に關する事項

同 朝鮮總督府勸業模範場技師 久次米邦藏

同 博物館本製作法

同 京城高等普通學校教諭 大森 護平

同

同 京城高等普通學校教諭 生原與一郎

同

同 京城高等普通學校教諭 高橋 永造

同

同 京城高等普通學校教諭 横地捨次郎

同

同 京城高等普通學校教諭 甲木機次郎

(三) 閉會 七月二十四日講習會場に於て閉會式を舉行し弓削學務課長は内務部長  
官代理として閉會の辭を述べたり

四 諸官員道別遊學校別

道名	公立普通學校	公立商業學校	公立小學校	私立普通學校	計
京畿道	二五				二五
忠清北道	一〇				一〇
忠清南道	一〇				一〇
全羅北道	一一				一一
全羅南道	一〇				一〇
慶尙北道	九				九
慶尙南道	二				二
黃海道	一〇				一〇
平安南道	七				七
平安北道	三				三
江原道	一〇				一〇
咸鏡南道	七				七
咸鏡北道	二				二
合計	一一六	四	一	七	一二八

○天長節祝日 天長節に付ては自今八月三十一日に在りては天長節の祭のみを行はせられ特に十月三十一日を天長節祝日と定め宮中に於ける拜賀宴會は同日に於て行はるべき旨仰出さる

天長節に付宮中に参賀し又は賀表を捧呈する者は十月三十一日に於て之を爲すへしと七月十八日宮内大臣より告示せり

右に付從來各學校等に於て天長節當日舉行せられたる祝賀式は天長節祝日に於て舉行すべき旨道長官、學校長等へ通牒せられたり

○塔洞公園公開 京城塔洞(パコタ)公園は從來日曜日のみ公開したる處來る二十八日より毎日公開することとなり其の開閉時間左の如し

七月一日より九月三十日迄	自午前八時 至午後七時
十月一日より二月二十八日迄	自午前九時 至午後四時
三月一日より六月三十日迄	自午前八時 至午後五時

必要と認むるときは前項の時間を變更し又は全く閉鎖することあり

○鴨綠江航行船舶の注意 鴨綠江航路を航行する船舶は左記各項に注意すべき旨告示せらる

- 一 本航路は大潮或は増水の場合殊に夏期出水の際には沙堆の伸縮又は變位極なきこと
- 二 入港の船舶は紅色浮標を右舷に、黑色浮標を左舷に保ち尙潮流急激なることは浮標より浮標に至る一線を保持し其の以外に偏移せざる様航行すること

三 本航路中門白附近より上流安東縣に至る水路は順る狹隘なるのみならず最低潮時の水深六呎以下の箇所あるを以て中潮時以上に非ざれば航行甚だ困難なること

四 本航路を航行せむとする船舶の喫水は左に掲ぐるものを超ゆるる可ざること

- (一) 安東縣に至る間 高潮時に於て 十呎
- (二) 龍巖浦に至る間 同 十五呎
- (三) 第三號浮標より多 低潮時に於て 十五呎

五 本航路に於ける龍巖浦附近は水路變遷の結果頗る狹隘なるのみならず潮流急激にして船舶の碇泊不可能なるを以て此の附近に於て碇泊せむとするものは斗漣浦の西側以北及黃草坪の東側以南の間に於て深所を避ひ他船の航行を妨げざる様碇泊すること

六 本航路の浮標は毎年結氷中一時之を撤去し解氷後に至り漸次之を碇置するものなること

七 本航路の浮標は沙堆の位置及水深の變更に伴ひ隨時之を増減變更する場合あること

八 毎年解氷後碇置し又は沙堆の伸縮移動に伴ひ變更する標識に付ては新に増減したるもの又は著しく位置等の變更したるものに限り之を告示すること

九 本航路に於て水路の縮道を望む者は船舶關係者又は船長より電報其の他の方法を以て出入港の碇定期日及到着すべき水道名を二日以前に朝鮮總督府通信局龍巖浦出張所に申出て之を依頼すること

○鐵道局營業案内所設置 東京市芝區櫻田本町十七、十八番地に朝鮮總督府鐵道局東京營業案内所を設置し大正二年九月一日より朝鮮鐵道線經由及到着乘車券類の發賣、手小荷物の受託並鐵道の聯絡船車の接續其の他朝鮮鐵道經由及發着旅客、荷物に關する各種案内等の事務を取扱はしむることとなり

○京元線一部開通 大正二年八月二十一日より京元線の内元山龍池院間鐵道運輸營業を開始す新設停車場及哩程左の如し但し南山停車場に於ては大小荷物の取扱を爲さず

停車場名	哩	程
元山	安邊	六哩七分
安邊	南山	六哩五分
南山	釋王寺	五哩八分
釋王寺	龍池院	五哩一分

○七月中本府に於て購入したる圖書左の如し

著 者	書 名	發行年月	整理番號	著 者	書 名	發行年月	整理番號
內閣記録課	現法令輯覽 明治四十五年	明治四十七年	自二二一 至二二七	高木貞治	新幾何教科書 平面	明治四十二丁	七三
東亞同文會	東亞特種條約彙纂	明治四十七年	二二八	酒井鳳兄	植物の文學的研究	大正三三丁	七四
外務省	再條約彙纂 第二編 萬國條約	大正三三	自二二五 至二三五	金澤庄三郎	日本文法新論	大正元二丁	七五
落合直文	漫遊人國記	明治四十二乙	二二六	宮田長次郎	大日本老樹帶附	大正二四丁	七六
角田勤一郎	漫遊人國記	大正三三	二二七	澤村 眞	實食品辭典	明治四二丁	七六
李根就譯	國民修身訓 乾坤	明治四十三丙	二二八	森林太郎譯	フアウスト 第一部	大正三三丁	七六
土方久光	國民修身訓 乾坤	明治四十三丙	二二九	驚見金三郎	東京府稅務全書	明治四三丁	七六
東久世通禧	山陽道稿 自一	明治四十三丙	二三〇	同	加除現行警視廳令規全集	明治四八丁	七六
近藤元粹	山陽道稿 自一	明治四十三丙	二三一	木場喜一郎	讀書作文用字鑑	大正三三丁	七六
關 潮 孫	孔子集語	光緒三	二三二	朝鮮總督府	朝鮮法規提要	大正三六丁	七六
吳 郡 趙	管子	光緒三	二三三	內研究會編	朝鮮法規提要	大正三六丁	七六
加藤弘之	中等大正女大學 自卷一	大正三三	二三四	清水書店	日六法全書	大正三三丁	七六
中島健藏	教科大正女大學 自卷四	大正三三	二三五	水路部編	朝鮮南東岸及對馬	明治四七丁	七六
加藤末吉	實驗修身教授法	大正三三	二三六	同	朝鮮東岸 釜山港	明治四八丁	七六
同	孟子集註	明治四二丙	二三七	同	朝鮮東岸 竹邊港	明治四八丁	七六
同	論語集註	明治四二丙	二三八	同	朝鮮東岸 水邊港	明治四八丁	七六
天野爲之	改實業新讀本 自卷一	大正三三	二三九	同	朝鮮東岸 水邊港	明治四八丁	七六
上田貞次郎	商業史教科書 日本之部	明治三三	四三六	同	朝鮮東岸 至咸興灣	明治四八丁	七六
森富次郎	最新商業事項教科書	大正元二丙	四三六	同	朝鮮東岸 至豆滿江	明治四八丁	七六
吉田光藏	新商業事項教科書	大正元二丙	四三六	同	朝鮮東岸 至小乳嶺角	明治四八丁	七六
小畑敬助	新商業事項教科書	大正元二丙	四三六	同	朝鮮東岸 至鴨綠江口	明治四八丁	七六
和田萬吉	諸曲物語 後編	大正三三	四三六	同	朝鮮東岸 至大黑山群島	明治四八丁	七六
石川岩吉	國體要義	大正三三	四三六	同	朝鮮東岸 至大黑山群島	明治四八丁	七六
留 外 外	國體要義	大正三三	四三六	同	朝鮮東岸 至大黑山群島	明治四八丁	七六
納富由三	朝鮮商品と地理	大正三三	四三六	同	朝鮮東岸 至大黑山群島	明治四八丁	七六



中央金物新報社	中央金物新報	一二八號
大阪貿易商報社	大阪貿易商報	一〇八號
上海實業協會	通報	每
日本實業協會	滿韓之實業	七月
朝鮮實業協會	朝鮮實業會報	第五號
名古屋勸業協會	朝鮮實業會報	每
朝鮮農會	朝鮮農會報	七月
日本體育會	體育	六月
日州教育會	日州教育會雜誌	第一四號
日本美術協會	美術之日本	第二六號
神道雜誌社	神之道	二十三號
國定教科書	國定教科書供給表	第三年報
東京市立	一覽	第四十五號
東京圖書館	臺灣時報	第十四號
東京支那協會	東京支那貿易商報	第五七號
東京商報社	會報 同附錄	第七四號
帝國吃語正會	紙之世界	第三八號
紙之世界社	紙之世界	第一二二號
岡山商工業報社	岡山商工業報	第七七號
大連海務協會	海友	第七九號
中央銀行會	中央銀行通信錄	第一四號
間島時報社	間島時報	第一二四號
大連實業協會	大連實業雜誌	第一二九號
滿韓實業協會	滿韓ノ實業 朝鮮號	第三八五號
水産講習所	試驗報告	七月
岡山縣	果物月報	七月
果物同業組合	果物月報	七月
茨城支會	産業組合之友	七月
中央金物新報社	中央金物新報	七月
大日本農會	大日本農會報	七月
縣立山口圖書館	縣立山口圖書館山口縣圖書館事業一覽	七月
朝鮮及滿洲社	朝鮮及滿洲	七月
關城新報社	關城新報	七月十三日

長崎水産組合 長崎水産時報 第三五號  
東京商報社 東京商報 第一七號

Secretaria de Fomento.—Gaceta Oficial de la Oficina de patentes y Marcas, Febrero de 1913.  
Le Monde Oriental Vol. 6.  
Congres Geologique International 12<sup>e</sup> Session, Canada, 1913.—Third Circular.  
International Institute of Agriculture, Rome, Bulletin of Agricultural Statistics Statistics, 1913.  
China Maritime Customs.—Returns of Trade and Trade Reports, 1912.

○近著英文雜誌所載主要論文題目

- 一 國民評論(The National Review)七月號
  - A 支那借款と英國出資者
  - B 「ナスンリー」に關する意見
  - C 米國時事
  - C 更に大なる不列顛—加那陀
- 二 隔週評論(The Fortnightly Review)七月號
  - A 建設的帝國主義
  - B 英本國と自治殖民地—合同者たるか又は同盟者たるか將た又孰にもあらざるか
  - C 「ウキリヤム」二世皇帝—回顧録
  - C 「アケネル」の百年祭
- 三 米國評論の評論(The American Review of Reviews)七月號
  - A 信用及通貨の伸縮性
  - B 米國諸州に於ける進歩的法律の制定

- C 獨逸の政府補助軍用自動車
- C 米國陸軍省に於ける自動車ノ驛馬代用
- E 加州問題
- 四 「アウトロク」誌(The Outlook) (週刊)六月二十日發行の分
  - A 物價保護と消費者
  - B 五十年前の「グンチスバーク」の戦争
  - C 雄辯家としての「ヘンリー・ワード・ビーチャー」
- 五 同上
  - A 飛行船と其の將來
  - B 賭場と市場—粗賣株式取引所の取引状況調査
  - C 未見の友人に與ふるの書(其の一)ライマン・アボット
- 六 同上
  - A 生活程度に適應せる勞銀と生活程度に適應せざる料金
  - B 未見の友人に與ふるの書(其の二)ライマン・アボット
- 七 同上
  - A 二懸案—直接選舉會及正型の鐵釘官
  - B 「グックバーク」に於ける「シンカン」の演説
  - C 未見の友人に與ふるの書(其の三)ライマン・アボット



# 辭令

○自七月九日至八月七日

九日

任朝鮮總督府書記

給七級俸

十日

任朝鮮總督府道憲醫院醫員

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十一級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十一級俸

十一日

任朝鮮公立小學校訓導

給九級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十級俸

十二日

任朝鮮總督府道技手

給六級俸

任朝鮮總督府道技手

給九級俸

崔奉柱

任朝鮮總督府中央試驗所技師

給高等官七等

任朝鮮總督府中央試驗所技師

給二級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十一級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給十一級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給五級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

十五日

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給五級俸

(各通)

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給八級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給九級俸

文部閣兼東京高等工業學校助教授 宇野 三郎

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給十級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給二級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給十一級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給十一級俸

任朝鮮公立小學校訓導

給五級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給五級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給五級俸

(各通)

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給八級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給九級俸

陸軍工兵少尉正入位 三上 海平

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給十級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給九級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給月俸二十五圓

(各通)

任朝鮮公立小學校訓導

給十一級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給八級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給七級俸

(各通)

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給八級俸

任朝鮮總督府道憲醫院助手

給九級俸

兼任朝鮮公立簡易實業學校訓導

辭令

七九

辭令

八〇

(各通) 朝鮮公立普通學校訓導 洪祐寅  
同 徐相應  
同 李榮基

二十日 任朝鮮總督府郡書記 從七位勳七等 谷川金一郎  
給三級俸  
任朝鮮公立小學校訓導 榎本基照  
給九級俸

任朝鮮公立小學校訓導 和歌山縣日高郡切目尋常  
高等小學校訓導兼校長和歌山縣日高郡切目農桑補習學校訓導兼校長 山本啓藏

兼任朝鮮公立簡易實業學校訓導

免本官

任朝鮮總督府郡書記 朴昌鎰  
給九級俸

朝鮮公立普通學校訓導 申彦甲  
依願免本官

兼任朝鮮總督府道書記

朝鮮總督府郡書記 濱田盛治

依願免本官 朝鮮總督府臨時土地調查局書記 嚴致鳳  
任朝鮮總督府府書記 吳世昌  
給月俸十八圓

任朝鮮總督府府書記 依願免本官  
任朝鮮總督府府書記 吳世昌  
給八級俸

朝鮮公立普通學校訓導 橋本章一  
依願免本官

任朝鮮總督府府書記 依願免本官  
任朝鮮總督府府書記 依願免本官  
給十一級俸

朝鮮總督府府書記 依願免本官  
任朝鮮總督府府書記 依願免本官  
給十一級俸

十八日

任朝鮮公立小學校訓導 佐賀縣杵島郡北方  
尋常高等小學校訓導 吉次利雄  
給十級俸

任朝鮮總督府郡書記 給八級俸  
任朝鮮總督府府書記 給九級俸

任朝鮮總督府府書記 給九級俸  
任朝鮮總督府府書記 給九級俸

任朝鮮總督府府書記 給九級俸  
任朝鮮總督府府書記 給九級俸

任朝鮮總督府府書記 給九級俸  
任朝鮮總督府府書記 給九級俸

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

(各通)

任朝鮮公立小學校訓導 佐賀縣神埼郡芙蓉尋  
常高等小學校訓導 古賀儀三  
德島縣板野郡撫養尋常小學校訓導 篠塚廣之丞  
給七級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮公立小學校訓導 給十級俸

任朝鮮公立小學校訓導 福岡縣福岡市御供所  
尋常小學校訓導 近藤マツ  
福岡縣八女郡中廣川尋常小學校訓導 稻富清三郎

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮公立小學校訓導 給十一級俸

任朝鮮公立小學校訓導 給十一級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮公立小學校訓導 給月俸貳拾貳圓

任朝鮮公立小學校訓導 給月俸貳拾貳圓

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

十九日

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

(各通)

朝鮮總督府臨時土地調查局技手 黑田安一郎  
朝鮮總督府臨時土地調查局技手 盧有煥  
朝鮮總督府臨時土地調查局技手 安承信

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸  
任朝鮮總督府府航路標識看守 給九級俸

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

依願免本官

兼任朝鮮總督府裁判所書記 朝鮮總督府通譯生 韓 奎 淵

依願免本官 朝鮮總督府臨時土地調查局書記 權 元 亨

任朝鮮總督府中央試驗所技師兼朝鮮總督府工業傳習所技師 慶南務技手 橫山國次郎

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府中央試驗所技師兼朝鮮總督府工業傳習所技師

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府醫院副醫官

敘高等官七等

四級俸下賜

任朝鮮總督府醫院醫員

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

任朝鮮總督府道書記

敘高等官七等

十級俸下賜

依願免本官

任朝鮮總督府道書記 廣崎 浩一

給十一級俸

兼任朝鮮總督府書記官

敘高等官六等

(各通)

依願免本官

任朝鮮總督府稅關監吏

給十一級手當

依願免本官

任朝鮮總督府稅關監吏

給月俸十四圓

任朝鮮總督府道書記

給月俸二十七圓

任朝鮮總督府道書記

給七級俸

任朝鮮總督府道書記

給七級俸

任朝鮮總督府道書記

給七級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

給五級俸

任朝鮮總督府道書記

三十一日

任朝鮮總督府技手 鈴木 茂次

給五級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

任朝鮮總督府技手

給十一級俸

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

鈴木 茂次

辭令

八一

(各通)

陸軍憲兵上尋兵 魁生 政五  
同 牛塚 太重  
同 猪越 初吉

任朝鮮總督府稅關監吏

二日

解銀紙 京城覆審法院檢事兼高等法院檢事 西內 德

任朝鮮總督府郡書記

給八級俸

任朝鮮公立普通學校訓導 高知縣師範學校訓導 赤堀 薰

給九級俸

(各通)

今井 明  
田中稻之丞  
林 獻二郎

任朝鮮總督府稅關監吏

給月俸十四圓

朝鮮公立普通學校訓導 山田民治郎

任朝鮮公立簡易實業學校訓導

給九級俸(一日附)

朝鮮總督府航路樓議事守 小川源之助

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

四日

任朝鮮總督府裁判所書記兼朝鮮總督府通譯生 尹 同 植

給月俸十八圓

願ニ依リ本職ヲ免ス

五日

任朝鮮總督府府書記

給六級俸

(各通)

依願免本官

六日

任朝鮮總督府府屬

給五級俸

任朝鮮總督府郡書記

給七級俸

任朝鮮總督府郡書記

給六級俸

任朝鮮總督府屬

給八級俸

任朝鮮總督府道憲醫院醫員

給七級俸

七日

任朝鮮總督府道憲醫院醫員

給七級俸

朝鮮總督府教師 佐佐木最恩

給七級俸

任朝鮮總督府臨時土地調查局技手

勳八等 山本 光

李 廷 甲

給八級俸

朝鮮總督府通信技手勳七等 森田 香三

朝鮮總督府警視 是澤真一郎

朝鮮總督府郡守 吳 景 麟

兼任朝鮮總督府警察官署技手

任朝鮮總督府道書記

朝鮮總督府郡書記 富家 定三

朝鮮總督府道書記 蔭井國太郎

任朝鮮總督府醫院教官

給九級俸

稻本龜五郎

任朝鮮總督府道憲醫院醫官

敘高等官七等

境田 民

朝鮮總督府郡書記 柏谷 飛鳥

勳七等功七級 沼倉 孚



勳七等功七級 沼倉 孚

村田眞兵衛

統計

貿易概況

本年七月中朝鮮貿易概況左の如し

本月初旬の貿易額は輸出二百八十萬一千三百八十四圓輸入五百十四萬六千八百六十五圓總計七百九十四萬八千二百四十九圓にして之を前月の貿易額に對比すれば輸出は四十四萬六千六百六十三圓を増加し輸入は八十八萬四千四百十五圓を減少し従て出入總計に於て二十四萬七千七百四十八圓の増進なりとす

輸出出頭要品中米は本月一日より内地移入税廢止の結果出頭要品の盛況を呈し其額に百七十二萬五千二百二十五圓に達し前月に比し更に三十五萬餘圓を増加したる大豆亦内地相場の好況に依り仁川釜山等よりの出頭を誘致し前月に比し一萬五千餘圓の増加を見たり鮮魚は暑熱を加はるる共に輸送容易ならず且重要魚類の漁期も一般に經過したるを以て本月の輸出出基た不振なりしか乾魚及鹹魚に至りては本年の漁業各地方一般に豐漁なりし結果製造額に達し本月の出頭俄に増加し輸出出基十五萬八千餘圓を算し前月に比すれば十萬餘圓の増加を示せり人蔘及棉花は輸出時期既に經過し前月來出頭殆んど杜絶し肥料亦内地農作植付期の經過と共に漸次出頭を減少したり其他の諸品各多少の増減ありと雖も其額大

ならず即ち本月の輸出増進は主として米及乾魚鹹魚の出頭に基因せり輸入貿易にありては本年上半期中輸入旺盛なりし外米及滿洲米は本年の麥作豐穰にして既に收穫を了したれば是等輸入品の需要較に減少し前月に比し外米は二十六萬餘圓米は十四萬餘圓の減退を示したり其他の日用品に於ても食鹽は漁業用品の需要減退し且つ前月の入荷比較的多額に達し再製原料亦豐富なりしたため果實は朝鮮産の出市を見るに至りたるため何れも減退し小麦粉は外米、粟の入減並に目下需要期節のため又砂糖及精糖も需要盛期に入りたるため更に石油は前月の入荷僅少にして各地品需なりしたため何れも入荷増進し殊に石油の増進額は四十四萬餘圓の多額を示せり衣料品に於ては綿織物、生金巾及生シーチング日本木綿等は時節柄賣行少く輸入從て減退し只晒金巾及晒シーチング綿襪子及綿イタリアンズ絹布等は鮮人間に賣行ありたるため各五六萬圓の増進を示したり工事用品に至りては鉄鐵釘鐵道機關車等に多少減少したるも軌條鐵條等に増加したるため前月に比し大なる増進なく石炭は一般市場需益減少したるを以て二萬七千餘圓の入減あり木材及板は需要好況なるも鴨綠江材の南下漸次増加して三萬二千餘圓の輸入減少を見たりセメント及石灰は各種工事用の需要多く五萬二千餘圓を増加し其他各品の輸入は前月と大なる増減なく之を要するに本月は前月來引續き輸入貿易の閑散期に屬し殊に本月は米粟の入減著かりしを以て前月に比し右の如く約十萬圓の減少を見たるものとす

一貿易額港別 (圓)

	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行應	清津	咸津	新義州及龍巖浦	平壤	合計	一月以降累計
輸出及移出	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000	1,000,000
輸入及移入	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000	1,000,000
輸出超過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸入超過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一月以降輸入及移出	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000	1,000,000
通過及同漕貨物	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000	1,000,000

統計

二 輸出及移出重要品價額港別 (圓)

品名	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行應灣	清津	城津	新義州及龍應浦	平壤	合計
米	2,688,800	2,770,000	1,500,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
大麥及小麥	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
豆類	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
鮮魚及鹹魚	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
乾魚及鹹魚	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
人蔘	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
棉花	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
鐵礦	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
鉛	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
石炭	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
牛皮	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
木材及板料	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
肥料	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
其他諸品	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
總計	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000

三 輸入及移入重要品價額港別 (圓)

品名	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行應灣	清津	城津	新義州及龍應浦	平壤	合計
米	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
小麥	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
食鹽	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
果實及核子	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
鐵礦及鐵渣	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
鐵渣及鐵渣	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000
砂糖及糖	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000	1,130,000



品名	仁川	釜山	元山	道南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及	行廳	濟州	城津	新義州及	平壤	合計	一月以降累計
木材及板	五九七〇	七三三、五	九七五	一五、五	一五、二	七、六二五	五、一六八	一、四八八	五、八八八	五、五	三三、四六六	一、二四二、一〇八	三八、九四四、〇	三三、四六六	一、二四二、一〇八	三八、九四四、〇
繩及筵	一、一八六	三、四八八	三、〇〇九	二、五	二、五	四、四六〇	一、〇三七	三、五	一、一八九	一、一八九	一、六八〇	二、五	二、四〇七	四、五	五、九二七	二、四〇七
メント及石灰	五、六五〇	一、四一七、五	一、四一七、五	一	一	一、四一七、五	一、四一七、五	一	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五	一、四一七、五
家具	一、四八六	二、四八七	五、一	二、四八七	二、四八七	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六
木製	五、三三三	二、四八七	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六	一、四八六
發物	六、五二六	一	六、五二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
傘	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一
小包郵便物	一、〇〇八	七、二八八	一	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八
その他諸品	一、〇〇八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八	七、二八八
總計	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八

四 正貨及地金 (圓)

(△印江城)

五  
船  
舶  
(四)

(△印は減)

[illegible]



# 經濟概況

(大正二年六月分)

## 第一款通貨

### 一各種貨幣流通高表

(△印は減)

年	月	朝鮮銀行券	硬貨	內通貨	各地貨	計
六月	末	三,三三〇,三三三	一八,一三三,三三三	三,〇九六,六六六	二,二二〇,〇〇〇	二六,七八〇,〇〇〇
對前月	增減	△ 一一〇,〇〇〇	△ 六,〇〇〇	△ 一,一六六	△ 一,七六六	△ 一二九,〇〇〇
對前年	同月增減	△ 九〇,〇〇〇	△ 八八八	△ 一〇,〇〇〇	△ 一〇,〇〇〇	△ 一一〇,〇〇〇

### 三朝鮮銀行券流通高表

(△印は減)

年	月	正貨準備	發行準備	金庫在高	銀行手許在高	市場流通高
六月	末	六,八二五,四四〇	一,二七三,三三三	一九五,八七九	六八,四〇二	一八,三三三
對前月	增減	△ 一三〇,八三三	△ 一六〇,八四二	△ 三〇,〇一一	△ 二七,二七九	△ 二四〇,九六三
對前年	同月增減	△ 一五,三三五〇	△ 三,四二七,九六一	△ 四九,五二二	△ 一〇,四〇八	△ 五〇,八四一

### 四內地各通貨流通見込高表

(△印は減)

年	月	金貨	補助貨	兌換券	計	朝鮮銀行正貨準備高	金庫在高	朝鮮銀行手許在高	市場流通高
六月	末	一,九七九,三三三	四,四四六,二二〇	三,四七八,〇〇一	九,八〇三,五五六	一,九七六,〇二五	三,三七四,九八五	五,三五二,〇〇〇	一,一八三,四七二
對前月	增減	△ 五〇	△ 六,二九一	△ 二九,三三六	△ 二九,九五七	△ 二九,八五〇	△ 九八,五〇一	△ 九八,八〇〇	△ 四〇,三九七
對前年	同月增減	△ 三三五	△ 五,三六二	△ 二,一〇一	△ 五,七七一	△ 二九,八五〇	△ 九八,五〇一	△ 九八,八〇〇	△ 四〇,三九七

## 二舊韓國硬貨流通高表

種	五月末流通高	六月中引上高	差引流通高
金貨	三,八八五,〇〇〇	—	三,八八五,〇〇〇
銀貨	二,七〇六,四〇五	九,三三八,七七〇	二,六一四,〇〇〇
白銅貨	三,五五二,〇三〇	一,三三五,八〇〇	三,四〇〇,六九七
青銅貨	四,〇七三,七四〇	六,一一二,四三〇	四,〇〇〇,六三〇
計	三,四七三,三三三	二,二〇〇,八三〇	三,三六〇,三三三
引上高累計	—	二,二七五,〇三〇	—

統計

五 業錢輸出回收高表

年	月	同	收	高	輸	出	高
六	月	計	三七三三六〇〇				
引上著手後累計			五五〇四三五六二九				
差引市場流通高					一六七九六一〇〇〇		

第二款金 融

第一項 概況

一 六月末各種銀行預金貸出金

銀行別	預金貸出金	現金	遊金	預金	貸出金
朝鮮銀行	二二,五〇〇,〇〇〇	二四,三八五,二〇六	三,八三五,八一八	五,七三七,四一	二,一〇二,一〇二
農工銀行	五,二六九,一〇四	一〇,三六七,六〇六	四,九三三,五七八	五,一四二,三四	二,一〇二,一〇二
普通銀行	一一,四九八,〇五五	一六,四七二,〇六〇	九七八,〇八九	二七〇,九二八	二,一〇二,一〇二
東洋銀行	四〇,四〇〇,六五三	五三,〇七四,八五	一,三五八,八〇三	一,三〇一,六三六	二,一〇二,一〇二
合 計	三八,三二七,一六九	五五,二六四,五二五	五,三〇七,四八五	一,三五八,八〇三	二,一〇二,一〇二
對前月增減	△五,一九九,九五	△二,三〇〇,一九三	五,六九〇,一六	△三〇一,六三六	△四三六,一九
對前年同月增減	二,六九三,三七四	一九,九二九,〇四四	△一八四九,二二八	△四三六,一九	

三 六月末各種銀行貸出金金利表

銀行別	不動產	證券	商 品	信 用	當 座 貸 金	手 形 制 引
朝鮮銀行	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普
農工銀行	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普
普通銀行	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普
東洋銀行	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普
合 計	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普	高 低 普
對前月增減	三,八 三三 三六	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九
對前年同月增減	三,八 三三 三六	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九	△ 三〇 二七 二九

二 六月末各種銀行預金金利表

銀行別	定期預金	當座預金	小口預金	附預金
朝鮮銀行	六〇 六五 九八	九 八 九	三 三 三	一 五 二
農工銀行	六三 六二 五七	二 一 二	二 六 六	一 五 二
普通銀行	六六 六三 五七	二 一 二	二 六 六	一 五 二
平 均	六三 六二 五七	二 一 二	二 六 六	一 五 二
對前月增減	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
對前年同月增減	五 六 七	一 一 一	一 一 一	一 一 一

(△印は減)

(△印は減)

四 六月中各種銀行爲替受拂表

銀行別	朝鮮				朝鮮及内地間				朝鮮及支那其他間				計			
	受入	高	拂出	高	受入	高	拂出	高	受入	高	拂出	高	受入	高	拂出	高
朝鮮銀行	五五五七〇三	四	五五七七〇一	四	三三三九四四二	四	一七〇三五六二	四	二六九五六八	四	三〇七、一八	四	九〇八〇七三	四	七五八八三八一	四
農工銀行	二二二三五七七	四	一六九五四二四	四	二〇六六六〇	四	一七〇六三三	四	二二、六二〇	四	一四七六〇	四	二三四二八二七	四	一八八〇八二六	四
普通銀行	二二一八〇〇七	四	二、〇九四八八	四	三六九〇四四七	四	一三八六九七七	四	一六六、四七九	四	一四〇、〇一九	四	五九七四九三三	四	三六二〇八八四	四
合計	九七六七二六七	四	九、三八二、六一三	四	七、二七二、五四九	四	三、三六、一七一	四	三、五八、六五七	四	四三、五八九七	四	一七、三九八、四七三	四	一三〇、七九六、八一	四
對前月増減	二五、一七六八一	四	三、八五一、二六九	四	八五六、一九五	四	一、五九三、六四〇	四	二、九、九六二	四	一七、五五七	四	三、五〇三、三八八	四	五、四六、二、三六六	四
對前年同月増減	一、五七六、五九九	四	四、九六、一一〇	四	一、四五五、八〇五	四	四、五二、一八七三	四	二、三三、六七三	四	一六、〇七五	四	一、四二、二八三	四	五、〇三、四〇五八	四

五 地方金融組合業務概況

(五月末日現在) (△印は減)

道別	組合員數	組合員總數	組合資金	共同購入金	委託販賣金	貸入金	補助貸放金	積立金	繰勘定	計	貸付金	共同購入金	農林業所有物	現金	預金	繰勘定	計
京畿道	一九	六四三八	一、〇〇〇、〇〇〇	九	三三	三、八五五	八八六	一、七九	三、七〇	二〇、二七〇	一九、三二一	一、三三	二、五九三	二、一七	一、〇六	六、六六〇	二〇、二七〇
忠清北道	九	三、五六三	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	—	—	—	二、〇〇〇
忠清南道	一六	六、七一	一、〇〇〇、〇〇〇	二八	—	—	—	—	—	三、一〇〇	三、一〇〇	—	—	—	—	—	三、一〇〇
全羅北道	一六	六、八九七	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二、六〇〇	二、六〇〇	—	—	—	—	—	二、六〇〇
全羅南道	三〇	九、九七	一、〇〇〇、〇〇〇	八六	—	—	—	—	—	六、九六〇	六、九六〇	—	—	—	—	—	六、九六〇
慶尙北道	三〇	七、八七八	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	五、一九三	五、一九三	—	—	—	—	—	五、一九三
慶尙南道	一七	六、八三六	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	三、三九一	三、三九一	—	—	—	—	—	三、三九一
黃海道	三三	五、三三七	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇	—	—	—	—	—	二、四六三	二、四六三	—	—	—	—	—	二、四六三
平安南道	三三	三、八八三	一、〇〇〇、〇〇〇	一六	—	—	—	—	—	二、五七三	二、五七三	—	—	—	—	—	二、五七三
平安北道	二五	四、五三七	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	三、三九〇	三、三九〇	—	—	—	—	—	三、三九〇
江原道	一一	三、八八一	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二、一六〇	二、一六〇	—	—	—	—	—	二、一六〇
咸鏡南道	三三	四、七三三	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	六、〇七九	六、〇七九	—	—	—	—	—	六、〇七九
咸鏡北道	八	二、七四九	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	七、七〇七	七、七〇七	—	—	—	—	—	七、七〇七
合計	一九〇	七、二八〇九	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	九六五	三、一〇一	三、九二六	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇	一、二九三、四六〇
前月末に對し増減	—	七七一	—	八三九	一、七八七	—	七、三九三	—	—	九、三三七	—	—	—	—	—	—	九、三三七

統計

## 第二項 各地状況

## 一 京城、仁川方面

京城地方 内地市場の定期米代用として鮮米の大口買付二三ありたるを以て市場は活氣を生したるも荷主側か高値待買惜みの爲め移出額は豫想程に大ならず輸移入品は内地人向か概して好況なるに反し鮮人向は兎角荷問への氣味にて資金の運轉思はしからず半季決算期にも當ることとて通して金融頻繁なりき

仁川地方 下旬に約定米の移出ありて市場を賑はせし外は輸出精米の些ありたるのみにて概して活況無く放出資金は依然固定の儘なりしか月末に至り大口米の買付あり金融小繁を見たり

## 二 平壤、鎮南浦、新義州方面

平壤地方 春來逼迫相繼きたる當地の金融界も漸く緩和せらるるに至れり之れ金塊の出廻り次第に増加し諸工事竣成して資金散布せられ且季節品の賣行良好又中旬よりは倉庫米も弗弗移出せられたるに由る從て商況も自然回復の曙光を見るに至れり

鎮南浦地方 保稅品として又定期渡米として玄米の移出せられたる額寡からず之に連れ各產地買付米の出廻りも多く爲替決済及在庫品持堪に對する資金の需要相當の額に達し金融界多忙なりき

新義州地方 輸移入品の賣行は不振なりしか大豆及玄米の輸

移出盛況を呈して資金の需要尠からず木材の商況も時節柄注文幅狭し關係者の金繰忙はしき模様なりき

## 三 群山方面

群山地方 定期米受渡用として大口の買付行はれ其移出額も前月に比して著しく増加し又約定外米の移入も相應の額に達し商品の賣行も可なりなるため市場活氣を帯ひ金融概して繁忙なりき

## 四 木浦方面

木浦地方 輸移出は不振にして輸移入品は賣行不良取引減退せるため資金の需要起らざるも放資金の回收思はしからず金融依然引締を以て過きたり

## 五 大邱、釜山、馬山方面

大邱地方 一時米價の騰貴に連れ且麥作良好なるかため粳米の増加を促かせしも商況は一般に依然不振米穀の移出も下旬には頓挫を來たし移入品の賣行鈍ければ新資金の需要起らざりしか商人間の手許逼迫にして金融緊縮を告げたり

釜山地方 輸移入貿易は例年閑散期のこととて市場不振なるか中旬に於て米の移出多額に上り及海產物の荷捌相當の額に達せしため活況を呈し金融界幾分色めきしも大體靜穩を以て過きたり

馬山地方 農繁期の頂上にして漁業も合ひの手なれば大體市況閑散なるも碎米の輸入麥作佳良關稅撤廢等相俟ちて地方米

の放出を促し且村井農場の大口放賣あり之か買付資金及鎮海に於ける工事資金の爲め金融可なり繁忙を示せり

## 六 元山方面

元山地方 移出入貿易共に振はす又好望と囑目せられたる漁業頗る不況にして市場の景氣を殺しこと夥しく従て大口資金の需要は無きも商品の賣行鈍くして輸移入決済に金繰多忙を極めしかは金融の大勢は小締なりき

## 七 城津、清津、會寧方面

城津地方 麻及明太の出荷思はしからず輸移入品の捌方も鈍ければ金繰順調ならずして越月せり

清津地方 季節物の取引若干ありたる外輸移出入共市況頗る閑散にして之と云ふ資金の需要無く金融界は至極平凡なりき會寧地方 農繁と降雨との爲め市況悉皆沈静且夏物仕入の決済も一段落を告げ新資金の需要を見ざるも賣掛金の回收滞りにて一般に手許は潤澤ならさりしか如し

## 一 六月中地方別各種銀行金銀出納及遊金表

(△印は減)

地方別	繰越		入		出		現在	
	現金	預金	現金	預金	現金	預金	現金	預金
京城、仁川方面	三二四八七五三	八七五九一七	八八八三〇〇五	五四四九〇〇一	八八四〇二〇一九	五六二六九四四	三六六九七五九	七〇八八七四
平壤、嶺南方面	二四二二九〇	二八七七二	一二七八六二七六	一三五六七九九	一二七八九四四五	一三四九四八九	二三八二二	三六〇八二
釜山、大邱方面	五〇九八八八	三七八五七三	二二六八二〇五五	一六八八九二四	二二四九五三三七	一六七七二四一	六九二六〇六	三九〇三四六
群山方面	一七九七八三	九〇七七〇	六八〇二二五八	三三三三五一	六七六六〇〇三	三四四二九七	二二五〇三八	三五七七四
水浦方面	一八六五五九	三八八九〇	四一九九〇八七	二一八七三三	四二三八六九五	一一〇八六三	一五六九三	四六七六〇
元山方面	一四九二二四	二八六二四九	七〇五〇〇八二	七四五〇七二	七〇一八二二二	八九二一六五	一八二一六四	一四〇二五六
清津方面	二四八〇二五	一三二二八	二四八二八八八	二九七三六	二五四八二二三	三〇二四三	一八二七〇〇	八一
合計	四七五九四九二	一六六〇四三九	一四五八二四六五一	九七二八五〇六	一四五二四七八五四	一〇〇二〇一四二	五三三六二八九	一三五八八〇三
對前月増減	△五〇七三五〇	二四九六一三	一四、五七一、一〇六	△六二八二二五	△一五、六五五、三三三	△一、〇七六、八七六	五七六七七	△三〇一、六三六
對前年同月増減	△二、三六六、六五	△三〇、八八五	△一、七五八、一四	△一七五、三八八	△二、二九四、一四九	△一七六、六三三	△一八二、三九〇	△四三六、一九

(備考) 金銀在高中には外國貨幣及外國手形(二八、八〇四圓)を含む

## 二 六月末地方別各種銀行金利表

(△印は減)

[illegible]

### 三 六月末地方別各種銀行預金種別表

地方別	公金預金	定期預金	當座預金	小口預金	諸預金	計
京城、仁川方面	一、〇三、一六五	四、四三、五五二	二、六〇、二三七	二、六六、一八一	七、九七、六九五	二八、七二、六一九
平壤、鎮南浦方面	三八、一二二	四六、一六〇	五三、〇七七	五、二九、四九六	三三〇、〇二九	二、二三五、一四四
釜山、大邱方面	四〇〇、〇〇三	八三、四、五六	一、二六、八〇五	一、二五、六四〇	二、四四、一七八	三、九九三、二五五
群山方面	一〇三、六二四	一一、九八三七	四、五四、七四六	一、六七、一四三	五、八七、七三九	九〇、四〇、八九九
木浦方面	一、三五、二三四	一、八九、三九一	三、三九、八五三	二、三三、六五八	八、四六、八八七	九、七二、八二三
元山方面	七、三、四一七	二、九五、〇四九	三、〇〇、八二三	一、九一、二二五	三、四、八一七	八、九四、三三二
清津方面	一、〇九、一一〇	五、七、〇九二	一、五、一一九	二、八九、五三三	一、四、四六六	六、〇一、四〇〇
合計	三、二二、三二四	六、四、一一、一六七	二、五、六二、九〇六	五、三、一九、五九〇	八、七、三四、一一一	三八、三二、一六九
對前月增減	二七、六九六	五、二、四六四	三〇、九、三三五	五、五、六五八	四二、二、八四六	五一、九、九五五
對前年同月增減	一、三、四七九	六、五、四、五九五	七、〇、三、〇八七	一、九、七、七二六	二、六、七、四、一八六	一〇、六、九三、三七四

#### 四 六月末地方別各種銀行貸出金種別表





目商標又江品柄	米			同
	上	中	下	
位京城	一石 一廿八〇〇	同 一廿八〇〇	同 一廿八〇〇	同 一廿八〇〇
七川	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
平壤	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
鎮南浦	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
群山	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
釜山	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
大邱	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
馬山	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
木浦	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
元山	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
城津	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
清津	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
新義州	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇
平壤	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇	一廿八〇〇

### 三 各地重要物價表 (生産品の部)

備考 右は大正元年八月の平均相場を一〇〇として算出したるものなり

種	別	單位	本		種	別	單位	本	
			指	數				指	數
種	上	百斤	九八	月	種	和	巾	一〇三	月
炭	筑豊切込	一噸	一〇三	前	旗	生シーチング △三A 主天竺	一	一〇三	前
油	上松	十カロシ箱	一〇六	月	細地	一	一〇〇	一〇七	月
油	勝利	同	一〇八	前	太地	一	一四七	一四五	月
油	旗	同	一〇六	月	手漉	一 (上二種 六斤見方)	一〇〇	一〇〇	月
油	龜甲萬	小樽一樽	一〇〇	前	二時半	一	一〇三	一〇三	月
油	赤	十貫目	九五	月	小野田	一	九六	九六	月
精	四温令	百斤	九六	前	淺野	同	九八	九八	月
精	金露	四斗五升八 一樽	二六	月	安全壁鹿	一 (大貫打)	一〇〇	一〇〇	月
精	白鷄	同	二三	前	實機桃猿	同 (半二百打)	八二	八二	月
精	櫻正宗	同 三千九升八	二八	月	松(北松)	同	一〇六	一〇六	月
紡	單十手平	一	一〇三	前	同六分版	一	一〇六	一〇六	月
紡	單六手平	同	一〇三	月	杉角	一	一〇六	一〇六	月
紡	單三手平	同	一〇三	前	同六分板	一	一〇六	一〇六	月
金	三金市	一	一〇三	月	第二類平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	前	平均	一〇五・一六	一〇五・一六	一〇五・一六	月
金	三金市	一	一〇三	月	平均</				



[illegible]

品名	目商標又は品類	単位	京	城	仁	川	平	塚	鎮	南	浦	群	山	釜	山	大	郎	馬	山	木	浦	元	山	城	津	清	津	新	義	州	平	均
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
同六分板	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪
	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪	一					

四 各地重要物價表 (輸移入品の部)

[illegible]



第四款 勞 銀

各地勞勸賃銀表

職 業 別	京 城	仁 川	平 壤	鐵 南 浦	群 山	釜 山	大 邱	馬 山	木 浦	元 山	會 寧	平 均
大 工	一四五〇	一四〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一四〇〇
同 朝 鮮 人	九五〇	八五〇	九〇〇	七〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	—	—	九〇〇	一〇〇〇	八三〇
左 官	一四五〇	一四五〇	一六〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一五〇〇
石 工	二〇〇〇	一六八〇	一九〇〇	二〇〇〇	一六〇〇	一八〇〇	一六〇〇	一六五〇	一五〇〇	二〇〇〇	二六〇〇	一八四八
同 朝 鮮 人	一二〇〇	九四〇	一〇〇〇	—	八〇〇	—	九〇〇	—	一二〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一〇五五
木 挽	一五〇〇	一三六〇	一四〇〇	—	一五〇〇	一三五〇	一五〇〇	一四〇〇	—	二〇〇〇	二二〇〇	一五六八
同 朝 鮮 人	九五〇	一〇〇〇	九〇〇	—	—	八七五	八〇〇	—	—	一二〇〇	一二〇〇	九八九
瓦 葺	二〇〇〇	一四八〇	一六〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一八〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一八〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一六三五
煉 瓦 職	一七五〇	一四八〇	一九〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一六〇〇	一八〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一六七五
同 朝 鮮 人	一二五〇	八五〇	一四〇〇	—	—	一二〇〇	七〇〇	—	—	六五〇	一二〇〇	一〇〇七
力 職	一五〇〇	一三八〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一四九八
冶 職	一五〇〇	一四八〇	一七〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一三五〇	一三〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一八〇〇	二〇〇〇	一五三九
鑄 冶 職	一五〇〇	一五七〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一三五〇	一三〇〇	一六五〇	二二〇〇	一八〇〇	二五〇〇	一五二二
鑄 冶 職	一四五〇	一四七〇	一五〇〇	一六五〇	一五〇〇	一〇〇〇	一三〇〇	一三五〇	一三〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一四二〇
井 戸 掘	一二五〇	一六六〇	一九〇〇	二〇〇〇	—	一六五〇	一三〇〇	—	—	一五〇〇	一六〇〇	一六四〇
表 具 師	一二〇〇	一三八〇	一九〇〇	一五〇〇	一二〇〇	一三〇〇	一〇〇〇	一三五〇	一五〇〇	一五〇〇	一八〇〇	一四二二
同 朝 鮮 人	七五〇	八六〇	八〇〇	—	八〇〇	—	—	—	一三〇〇	六五〇	八〇〇	八五一
靴 製 造 職	一五〇〇	一四七〇	一〇〇〇	—	一三〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一〇〇〇	—	一八〇〇	八〇〇	一六三
洋 服 職 工	一四五〇	一四五〇	二二〇〇	—	一五〇〇	一三〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一五四〇
車 夫	一二〇〇	一三三〇	二〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	一三〇〇	一三〇〇	—	一〇〇〇	—	一四六一
同 朝 鮮 人	八五〇	一〇〇〇	一七〇〇	一五〇〇	一八〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一三〇〇	—	五〇〇	—	一二五〇
人 夫	八〇〇	九〇〇	九〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	七五〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一二〇〇	八九五
同 朝 鮮 人	四五〇	五五〇	四五〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	四五〇	三五〇	五〇〇	五〇〇	六五〇	四七七

## 第五款 參考資料

## 第一手形交換

## 一 京城、釜山、仁川手形交換所交換高表

(△印は減)

銀行名	仕拂手形			持出			計		
	京城	釜山	仁川	京城	釜山	仁川	京城	釜山	仁川
朝鮮銀行	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000	交換金額 1,000,000
第一銀行支店	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
百三銀行支店	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
十八銀行支店	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
漢湖農工銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
朝鮮商業銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
韓一銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
漢城銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
慶尙農工銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
周防銀行支店	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
郵便局	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
合計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前月と比較増減	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000	△100,000

## 二 交換手形種別表

(△印は減)

種類	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	計
小切手	1,257	3,777,722	6,273	1,389,946	2,467	1,082,399	2,277	5,675,937	
爲替手形	582	4,012,233	901	2,297,655	262	977,549	745	7,888,333	
約束手形	36	1,479,200	86	2,758,100	—	—	321	1,655,000	
統計							99		

統計

種類	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
仕拂命令	一八四三	七九七、八二三	一〇二	五六、九五五	五八	五九〇三	二、〇〇三	八六〇、六七一
郵便為替證書	三八六六	三六〇、二五二	一五八七	四六、七四〇	—	—	五四五三	四〇六、八九二
公債債券同利札	二四五四	二四、二七七	—	—	—	—	二、四五四	二四、二七七
雜證書	二七二	五三、五〇二〇	五七	五二、〇四一	—	—	三三〇	五八、七四八
合計	二、七八〇	五、四四四、二五七	九〇六	一、七八三、〇一八	二七八	一、二二三、〇六六	三、三五四	八、四三九、五九一
前月と比較増減	△ 一四〇一	△ 四六、二七五〇	一、一〇九	四、一五五	△ 七七	五、三四九四	△ 三六九	△ 四〇五、一〇一

第二大阪及仁川定期米相場表

年月	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
六月中	二二、〇〇〇	一九、九八〇	二〇、四八〇	一九、九八〇	一九、九八〇	一九、九八〇	二二、〇〇〇	一九、九八〇	二〇、四八〇	二二、〇〇〇	一九、九八〇	二〇、四八〇
對前月増減	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇
對前年増減	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇

第三朝鮮國產大豆大阪相場表

年月	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
六月中	二二、〇〇〇	二一、三〇〇	二一、三三七	二一、三〇〇	二〇、九〇〇	二〇、九八六	二二、〇〇〇	二一、三〇〇	二一、三三七	二二、〇〇〇	二一、三〇〇	二一、三三七
對前月増減	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
對前年増減	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇

# 朝鮮人教育私立學校數調

(大正二年六月末日現在)

道	現在校數	一月以降設置校數	一月以降廢止校數
京畿道	一三三	二〇五	一四
忠清北道	一九	二四	一
忠清南道	二四	二八	九
全羅北道	一三	三五	一
全羅南道	一六	二二	二
慶尙北道	二六	六三	一
慶尙南道	五六	七〇	一
總計	一四一	二二一	二四

## 法令

○宿泊及居住規則中改正 四十四年六月改正 大正二年七月  
總督府令第七十五號 總督府令第七十一號

### 宿泊及居住規則

第一條 旅店主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシメタル者ハ其ノ宿泊人ノ著發毎ニ左記各號ノ事項ヲ宿泊人名簿ニ記載シ到著ノ際ニハ第一號乃至第三號ノ事項ヲ、出發ノ際ニハ宿泊人ノ氏名、軍隊又ハ多數(團)ノ學生、生徒ハ其ノ第四號ノ事項ヲ具シ當日午前九時迄ノ分ハ午前十時迄ニ、其ノ以後ノ分ハ翌日午前一時迄ニ所轄警察署兵分隊、憲兵分遣所ヲ取扱フ。又ハ巡査駐在所、巡査派出所、憲兵出張所ヲ二届出シヘシ但シ警察署又ハ巡査駐在所ノ所在地外ニ在リテハ特ニ警察署長ノ指示シタル場合ヲ除クノ外宿泊人名簿ニ所定ノ事項ヲ記載シ之ヲ

法令

黃海道	四八	六四	二二	一	一	一	四	八
江原道	二七	八	三五	六	一	一	一	一
平安南道	一一	一九五	二七〇	一	一	一	一九	二二
平安北道	一八一	九二	二七三	一	一	一	七	四二
咸鏡南道	一五八	二二	一八〇	一六	一	一	五	一五
咸鏡北道	四八	二	五〇	五	一	一	一	一
合計	八五九	五八	一三七七	三四	一六	一六	五〇	二二

備考  
一 種別欄中「宗教」とあるは教科課程中宗教に關するものを加へたるものにして「一般」とあるは然らざるものとす  
一 廢止の原因は多く維持困難若しくは六箇月以上所定授業を爲さざるを以て設立認可失效に由るものとす  
參照 大正元年十二月末日現在校數に比し一般學校二十五、宗教學校三十七、計六十二校を減したり

臨檢ノ警察官又ハ憲兵ニ提示シ届出ヲ省略スルコトヲ得  
一 宿泊人ノ氏名、本籍、外國人ニ在、住所、職業、年齢但シ軍隊又ハ多數(團)ノ學生、生徒ハ其ノ隊名、學校名及人員並指揮者又ハ引率者ノ官職及氏名ヲ、華族、貴族ハ其ノ族稱及氏名、官公吏又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ハ其ノ官公職及氏名ノミヲ記載スルコトヲ得  
二 前宿泊地  
三 到着年月日時  
四 出發年月日時及行先地  
營業ニ依ラスシテ他人ヲ宿泊セシメ十日ニ至リタル者ハ宿泊人ニ付前項第一號乃至第三號ノ事項ヲ其ノ翌日中ニ、出發ノ際ニハ宿泊人ノ氏名、軍隊又ハ多數(團)ノ學生、生徒

ハ其ノ人員及指標者 及前項第四號ノ事項ヲ三日内ニ所轄警察署又ハ巡査駐在所  
又ハ引率者ノ氏名  
ニ届出ツヘシ

第三條 一月ヲ構ヘテ居住シ又ハ一月ヲ構ヘサルモ二箇月以上同一府郡内ニ居住  
スル者ハ自己及其ノ携帶スル家族ニ關シ左ノ事項ヲ記載シ居住ノ日ヨリ十日内  
ニ所轄警察署又ハ巡査駐在所 巡査派出所ニ届出ツヘシ

一 氏名

二 本籍 外國人ニ在リテハ國籍  
及外國ニ於ケル住所

三 職業

四 生年月日

五 居住所

六 居住ノ日

七 前居住所

ハ 戸主非戸主ノ別 非戸主ニ在リテハ戸主ノ  
氏名及戸主トノ續柄

前項第一號乃至第三號及第八號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキ又ハ出生、死亡、失  
踪若ハ國籍ノ變更アリタルトキハ十日内ニ届出ツヘシ但シ居住者死亡又ハ失踪  
ノ場合ニ於テハ相續人、戸主、家族又ハ同居者ヨリ届出ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 居住者一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ他人ノ家  
屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屬所有者若ハ家屬管理人前條ノ届書  
ニ連署スヘシ但シ連署ヲ得ルコト能ハサル事情アルトキハ届出人其ノ旨ヲ届書  
ニ附記スヘシ

第五條 居住所ヲ移轉スルトキハ移轉前又ハ移轉後十日以内ニ移轉ノ年月日及移  
轉先ヲ所轄警察署又ハ巡査駐在所 巡査派出所ニ届出ツヘシ

第六條 第三條及前條ノ届出ハ單身者ニ在リテハ本人、家族携帶者ニ在リテハ戸  
主又ハ之ニ準スヘキ者ヨリ之ヲ爲スヘシ

前項ノ者其ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ家族又ハ土地ノ管理ヲ爲ス者其ノ  
事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出ヲ爲スヘシ

第七條 第三條ノ届出ハ面又ハ口部事務所ヲ經由スヘシ但シ居留民團地域内ニ居住  
スル内地人ノ届出ハ居留民團役所ヲ經由スヘシ

第八條 警察署及巡査駐在所 巡査派出所ニハ登録簿ヲ備ヘ第三條及第五條ノ届書ヲ  
受ケタルトキ其ノ届出事項ヲ登録スヘシ

第九條 何人ト雖前條ノ登録簿ノ閲覧又ハ登録ノ謄本者ハ抄本ノ交付ヲ請求スル

コトヲ得登録簿ノ閲覧ヲ請求スル者ハ手数料トシテ十錢謄本又ハ抄本ノ交付ヲ  
請求スル者ハ一枚ニ付十錢ヲ納ムヘシ其ノ一枚ニ滿タサルモノ亦同シ  
前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十條 第一條、第三條及第五條ニ依リ届出ヲ要スル事項ニ關シ警察官又ハ憲兵  
ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

旅券其ノ他國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スル外國人ハ警察官又ハ憲兵ノ請求ア  
ルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十一條 前條ニ違反シテ警察官又ハ憲兵ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ其ノ實ヲ  
以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十二條 第一條、第三條又ハ第五條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ其ノ實ヲ  
以テセス又ハ第二條若ハ第四條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ居住ノ外國人及未タ居留規則ニ依リ届出ヲ爲ササル内地人ニ付  
テハ第三條及第五條ノ届出期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○古墳ノ發掘ヲ願出ツル者アルトキ 措置方 大正二年七月  
地督府訓令第四十三號

古墳ノ發掘ヲ願出ツル者アルトキハ豫メ左ノ事項ヲ具シ警務局長ヲ經テ朝鮮總督  
ニ申請シ指標ヲ受ケヘシ

一 出願者ノ氏名、職業及住所

二 發掘ノ目的

三 古墳ノ所在地

四 古墳ニシテ名稱アルモノハ其ノ名稱及由來傳説等

五 管理者ノ有無及其ノ諸否

六 古墳ニ對スル其ノ地方人民ノ感情其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

○市街地建築取締規則ノ市街地及同規則第六條ノ地域指定

京城市街地

京畿道京城府中部、東部、西部、南部、北部、龍山面、漢芝面及仁昌面ノ内轄

大正二年七月  
總督府告示第二百二十號



魚井洞、伏車橋下洞、楠木洞、蘆橋洞、湯基里、崇信面ノ内紅樹洞、宮洞、伏車橋上洞、仁壽洞、堂嶋洞、新村、亭子洞、坪川洞、米盛洞

京城市街地中市街地建築取締規則第六條ノ地域  
一 城壁外ノ地域但シ西部及龍山面ノ内西大門停車場ヨリ漢江ニ至ル鐵道線路以東ノ地域ヲ除ク

二 城壁内東部北廟ヨリ新橋洞新橋ニ至ル無名川流域、新橋洞新橋ヨリ於義洞道路ヲ經テ東大門通ニ至ル線及同交又點ヨリ直線ヲ劃シ南部北帶洞黃金町通交又點ヲ見通シタル線以東ニシテ黃金町道路ヲ境界トシタル地域

### ○京城市街地中市街地建築取締規則第四條ノ地域指定

大正二年七月  
警務總監部告示第三號

京畿道京城府京城城壁内全部並京城御成町、古市町一丁目、同二丁目、吉野町一丁目、同二丁目、岡崎町、獨立門通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、竹添町一丁目、同二丁目、和泉町、蓬萊町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、青葉町、漢江通、櫻田町、瓦町、柳町、東柳町、山下町、南山下町、京町、田町、水道町、三板通、小松通、白濱町、鐵道橋内、元町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、祝町、末廣町、東町、若松町、老松町、榮町、川端町、旭橋通、新明町、凱旋町、大島町、錦町、彌生町、櫻町、梅町、清水町、山手町、京城西部ノ内巡廳洞、治洞、蓋井洞、紫岩洞、盆洞、里門洞、蓮池洞、梅井洞、林洞、涼台洞、醫洞、車洞、帶洞、布洞、亭子洞、蛤洞、翰林洞、上洞、中洞、下洞、萬里洞、新村洞、壯元洞、玉澤洞、館后洞、后川洞、李判洞、天然亭洞、東川邊洞、月岩洞、石橋洞、平洞、京口洞、履馬洞、新橋洞、尾洞、八角洞、儀政奉洞、芹洞、冷洞、餘洞、新村洞、松亭洞、紅門洞、把撥洞、兄弟洞、車子里洞、三湖洞及漢芝面ノ内厚岩洞、孝峴洞、石盤洞、林密洞、典牲洞、葛月里、利太院、芭芝味、元興洞、龍山面ノ内青坡一契、同二契、同三契、同四契、桃花洞外契、仁昌面ノ内鯉魚井洞、伏車橋下洞、楠木洞、蘆橋洞、湯基里、崇信面ノ内紅樹洞、宮洞、伏車橋上洞、仁壽洞、堂嶋洞、新村、亭子洞、坪川洞、米盛洞

### ○市街地建築取締規則 大正二年二月 總督府令第十一號

第一條 市街地ニ於テ住家、工場、倉庫其ノ他各種ノ建物、井戸又ハ公共道路ニ

法 令

積ミタル門戶牆壁等ノ工作物ヲ建設セムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ警察署長、警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フ職ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ増築、改建、大修繕又ハ模範管工事ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

一 建物又ハ工作物建設者ノ住所、氏名  
二 敷地ノ所有者建物又ハ工作物ノ建設者ト同一人ニ非サルトキハ其ノ住所、氏名

三 敷地ノ面積及位置

四 建物又ハ工作物ノ種類及其ノ構造、設備ノ大要並其ノ平面圖

五 工事着手及竣功豫定期日

六 前各號ノ外警察署長ニ於テ必要ト認メ特ニ提出シタル書類又ハ圖面  
前項ノ市街地ハ別ニ之ヲ指定ス

第二條 前條ノ工事ニ付警察署長ニ於テ特ニ検査ヲ受クヘキコトヲ指定シタルトキハ其ノ工事竣功後當該吏員ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條 第一條ノ建物又ハ工作物ノ構造、設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ  
一 建物ノ面積ハ敷地面積ノ十分ノ八ヲ超過スヘカラサルコト

二 建物ノ基礎ハ公共道路トノ境界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ保テ之ヲ築造スヘキコト

三 建物及門戶牆壁ノ軒先、鐵羽、庇持等ヲ公共道路上ニ突出セシメサルコト  
四 公共道路ニ沿ハサル敷地ニ建設スル家屋ハ道路ニ通スル爲少クモ幅員四尺以上ノ道路ヲ設クヘキコト

五 住家ノ床幾ハ其ノ高ササチ地盤ヨリ一尺五寸以上ト爲スヘキコト但シ使用上必要ナシト認メタル場合又ハ床板ヲ容易ニ取外シ得ヘキ構造ト爲シタル場合ヲ除ク

六 公共道路ニ沿ヒタル建物ノ敷地ハ地先道路路面以上ノ高サト爲スヘキコト

七 敷地内ニ適當ノ排水設備ヲ爲スヘキコト

八 飲料水用ノ井戸ハ周、下水溜又ハ大下水溝ヨリ三間以上ノ距離ヲ保テ且懸水ノ滲入セサル裝置ヲ爲シ井戸側ノ高サハ二尺五寸以上ト爲スヘキコト

九 周ハ各住家ニ之ヲ設クヘキコト但シ長屋建家屋ニシテ戸數ニ應ジ適當ナル共同廁ヲ設クルモノヲ除ク

十 糞尿溜及其ノ附屬裝置ハ石ヲ含ム、煉瓦、陶磁器、瓦、「コンクリート」、「モル

タール、アスファルト、其ノ下ニ漆喰、石綿盤其ノ他防水材料又ハ木材ヲ以テ汚濁ノ滲漏セサル様態ニシテスルコト

十一 市街地内ニ於テ石炭、骸炭其ノ他ノ燃料ヲ多量ニ燃用スル火爐、暖爐ノ類ニハ近隣ノ居住者又ハ建物ニ對シ害ヲ及ボササル程度ノ煙突ヲ設ケヘキコト

十二 煙突ハ屋上三尺以上突出セシメ煉瓦造煙突ハ煙道ト木部トノ間隔ヲ煉瓦長手一枚以上トシ金屬製煙突ニシテ木材其ノ他可燃質物ト五寸以内ニ接近スルトキハ其ノ部分ヲ石、煉瓦、陶磁器、瓦、厚サ三寸以上ノ「コンクリート」、厚サ二寸以上ノ「モルタル」又ハ石綿盤其ノ他不燃質材料金屬ヲ以テ構造若ハ被覆スヘキコト

十三 高さ五十尺以上ノ建物又ハ工作物ニハ適當ナル避雷裝置ヲ爲スヘキコト  
十四 墨臭、有毒瓦斯又ハ粉塵ヲ發散スル物品ノ收蔵若ハ取扱ヲ爲ス建物ノ出入口、窓其ノ他ノ空隙ハ公共道路、多衆集合スヘキ建物又ハ他人ノ住家ニ接近シテ之ヲ設クルヲ得サルコト但シ適當ナル除害裝置ヲ爲ス場合ヲ除ク  
十五 多衆集合スヘキ建物ニハ之ニ相當スル非常口、階段其ノ他避難ノ設備ヲ爲スヘキコト

家屋ヲ建築スル者ハ成ルヘク其ノ家屋ニ防風設備ヲ爲スヘシ

第四條 第一條ノ市街地中警察部長務局長以下同シハ警ノ指定シタル地域内ニ於ケル建物又ハ工作物ノ構造、設備ニ付テハ前條ニ依ルノ外仍左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一 建物ノ屋根ハ前條第十二號ノ不燃質材料金屬板ヲ以テ覆葺スヘキコト

二 警察署長ニ於テ附近ノ狀況ニ依リ必要ト認メタル建物ニハ其ノ指定ニ從ヒ防火壁ヲ設ケヘキコト

三 建物ハ三階ヲ超過スヘカラス

四 木造長屋ハ開口二十間以内毎ニ煉瓦厚サ一枚半以上ニシテ屋上一尺五寸以上突出シタル防火壁ヲ設ケルコト

五 建物ノ公共道路ニ沿ヒタル軒先ニハ樋ヲ設ケ雨水ハ壺ニ依リ之ヲ排水スルコト

六 厠ハ公共道路ニ沿ヒテ設クルヲ得サルコト但シ障礙ノ類ヲ以テ之ヲ圍ム場合ヲ除ク

第五條 警察署長ハ建物又ハ工作物ニ付警務ノ構造、設備又ハ附近ノ狀況其ノ他

ノ事由ニ依リ前二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ許可スルコトヲ得

第六條 墨臭、有毒瓦斯又ハ多量ノ煤煙若ハ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他公安、衛生上危害ヲ及スノ虞アル建物ハ第一條ノ市街地中警ノ指定シタル地域内ニ非サレハ之ヲ建設スルコトヲ得ス

第七條 警察署長ハ建物又ハ工作物ノ構造、設備カ法令ノ規定ニ適合セス又ハ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ其ノ工事ヲ停止シ若ハ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

警察部長ハ危害豫防又ハ衛生ノ爲必要アリト認ムルトキハ建物、工作物ニ關シ特別ノ構造、設備ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 本令ハ假設ノ建物、工作物ニ之ヲ適用セス但シ警察署長ハ建設後一年以上存置スルモノ又ハ構造方法ニ依リ必要ト認ムルモノニ付本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第九條 第一條第二條又ハ第六條ノ規定ニ違反シ、第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ不實ノ申告ヲ爲シ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ材料ニ處ス

○市街地建築取締規則取扱手續 大正二年七月三十一日

警察署 警察署同分署

警察署ノ事務ヲ取扱フ警察分署同分署

市街地建築取締規則取扱手續左ノ通定ム

市街地建築取締規則取扱手續

第一條 警察署長警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵ハ特ニ警察官署ノ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ業態ニ使用スル建物其ノ他特別ノ取扱ヲ爲ス場合ヲ除クノ外左ノ建物又ハ工作物ノ建設ニ付市街地建築取締規則以下稱シ第一條ノ圖出アリタルトキハ其ノ許可否ニ關シ意見ヲ具シ警察署長務局長以下同シ

一 市場、共同販賣所、勸商場  
二 公會堂、教會、寺院  
三 就業者五十人以上ヲ使用シ又ハ十五馬力以上ノ原動機ヲ使用スル工場

四 前各號ノ外多量集合ノ用ニ供スル建物又ハ特種ノ構造ニシテ技術上費資ヲ

要スルモノ其ノ他警察署長ニ於テ經何ノ必要アリト認メタルモノ

前項ノ取扱ヲ爲スヘキ顧客ニハ左ノ書類ヲ添附セシメ經何ノ際顧客ト共ニ提出

スヘシ

一 仕様書 圖面ニ明示シ難キ材料ノ種類、尺度其ノ

他構造、設備ノ方法ヲ詳記シタルモノ

二 圖 正面圖、断面圖、側面圖其ノ他必要ノ詳細圖

(縮尺ハ百分ノ一、五十分ノ一、又ハ二十分ノ一トス)

第二條 警察部長ハ規則第一條第二項若ハ第六條ノ規定ニ依リ市街地若ハ地域ヲ

指定シ又ハ之ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ旨警察署長ニ具申ス

ヘシ

第三條 警察部長ハ規則第四條ノ規定ニ依リ地域ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セムトス

ルトキハ其ノ事由ヲ具シ警察署長ニ經何スヘシ

第四條 前二條ノ事項ニ關シテハ警察部長ハ具申前課メ道長官ニ協議スヘシ

第五條 警察署長ハ規則第七條第二項ノ規定ニ依リ命令ノ必要アリト認メタルト

キハ其ノ旨警察部長ニ具申スヘシ

○朝鮮陸接國境關稅令第二條ノ規定ニ依リ大正二年八月

一日以後貨物ノ輸入又ハ輸出ヲ爲スコトヲ得ル地點

朝鮮陸接國境關稅令第二條ノ規定ニ依リ大正二年八月一日以後貨物ノ輸入又ハ輸

出ヲ爲スコトヲ得ル地點左ノ通指定ス

平安北道義州府清城鎮

平安北道清原郡舊邑

平安北道江界郡滿浦鎮

平安北道慈城郡慈城江口

○稅關出張所ノ設置 大正二年七月

大正二年八月一日ヨリ左記稅關出張所ヲ設置ス

名 稱 位 置

清城鎮稅關出張所 平安北道義州府清城鎮

舊邑稅關出張所 平安北道清原郡舊邑

法 令

滿浦鎮稅關出張所 平安北道江界郡滿浦鎮

慈城江口稅關出張所 平安北道慈城郡慈城江口

○郵便規則中改正 大正二年七月

郵便規則中左ノ通改正ス

第十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ郵便物ニハ返信用ニ充ツル爲封筒、通常葉書若ハ相當料金ノ郵便切手ヲ

貼附シタル私製葉書ニ差出人ノ住所、氏名又ハ返信用文ヲ印刷シタルモノ一枚

ヲ限リ添附スルコトヲ得

前二項ノ郵便物ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ、

印刷物ノ差出人ハ注文用ニ充ツル爲自己ノ住所、氏名ヲ印刷シタル封筒一枚ヲ

限リ添附スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○通常郵便物市内特別取扱規則中改正 大正二年七月

通常郵便物市内特別取扱規則中左ノ通改正ス

第一條第一項第一號但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ返信用ニ充ツル爲其ノ全部ニ對シ有封書狀ニハ郵便葉書、郵便切手、封筒

又ハ印刷シタル各種ノ用紙或ハ必要ナル收入印紙ヲ封入シ無封書狀ニハ封

筒、通常葉書若ハ相當料金ノ郵便切手ヲ貼附シタル私製葉書ニ差出人ノ住所氏

名又ハ返信用文ヲ印刷シタルモノ一枚ヲ限リ添附スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○藥品巡視規則 大正二年七月

藥品巡視規則左ノ通定ム

藥品巡視規則

第一條 警察官吏憲兵或警察官署所屬ノ醫師及藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥品及

藥品醫藥取締令第十六條ニ規定スル巡視ヲ爲サシム

第二條 監視員巡視ヲ爲ストキハ藥品、賣藥及左ノ各號ノ事項ニ付検査ヲ行フ

一〇五

法令

一〇六

- 一 藥品及藥品營業取締令第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十二條、第十四條、第十五條ノ事項
- 二 藥品及藥品營業取締令施行規則第八條、第九條、第十一條、第十六條ノ事項

第三條 監視員巡視ヲ爲ストキハ左記圖形ノ證票ヲ携帯スヘシ

二寸二分

分七寸一尺曲

藥品監視員之證

朝鮮總督府警務總監部(印)

面裏第號

第四條 監視員巡視ノ期日ハ豫メ通告セス其ノ時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮關稅定率令第四條第一號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラ

ルヘキ輸入貨物ノ容器指定 大正二年七月  
總督府令第七十五號

朝鮮關稅定率令第四條第一號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸入貨物ノ容器左ノ通指定ス

一 壓搾瓦斯ヲ填充シタル鐵製容器

附則

本令ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮關稅定率令第七條第七號及第八條ノ規定ニ依リ

輸入ヲ禁止スル物品 大正二年七月  
總督府令第七十六號

朝鮮關稅定率令第七條第七號及第八條ノ規定ニ依リ輸入又ハ移入ヲ禁止スル物品左ノ通指定ス

一 左ノ各號ノ一ニ該當セサル乳用牛

(イ) 輸出又ハ移出地ノ官廳ニ於テ臨床的診察及(ツベルクリン)注射ノ方法ニ依リ検査ヲ行ヒ其ノ健康證明書ヲ發シタル後五十日ヲ経過セサルモノ

(ロ) 輸入又ハ移入地ニ於テ臨床的診察及ツベルクリン注射ノ方法ニ依リ検査ヲ爲シ結核病ニ罹ラサルコトヲ認メタルモノ

二 畜牛結核病毒ニ汚染シタリト認ムル物品

乳用牛及物品ノ検査ヲ行フヘキ場所ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本令ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○同上ノ規定ニ依ル乳用牛及物品ノ検査箇所

大正二年七月  
總督府告示第三二二一號

大正二年朝鮮總督府令第七十六號ノ規定ニ依ル乳用牛及物品ノ検査ハ釜山警察署ニ於テ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府會計監查規程 大正二年七月  
總督府訓令第四十四號

朝鮮總督府會計監查規程左ノ通定ム

朝鮮總督府會計監查規程

第一條 朝鮮總督府ニ於テ爲ス會計監查ハ本規程ニ依ル

第二條 本規程ニ依リ監查スヘキ事項左ノ如シ

一 國費、地方費其ノ他官廳所管特別經濟ノ會計ニ屬スル收支及其ノ決算、物品ノ出納財産ノ管理

二 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體ノ收支及其ノ決算

三 法律命令ニ依リ特ニ朝鮮總督府ノ監查ニ屬セシメラレタル事項

第三條 會計監查ハ各廳府ヨリ提出スル計算書及證據書類ニ就キ常時之ヲ行ヒ尙臨時監査員ヲ命シ實地監査ヲ爲サシム

第四條 朝鮮總督府總務局長ハ會計監査ニ關シ當該主務者ニ對シ推問書ヲ發シ又ハ當該主務者ノ爲シタル背規事項ニシテ容易ニ更正シ得ヘキモノハ其ノ更正ヲ命スルコトヲ得

前項ノ背規事項ニシテ其ノ重大ナルモノ又ハ不正ノ行爲ニ付テハ意見ヲ具シ連ニ朝鮮總督ノ指揮ヲ請フヘシ

第五條 實地監査ハ休日又ハ執務時間外ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ當該廳解ニ之ヲ通知スヘシ但シ廳解外ニ於テ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 監査員實地監査ノ場合ハ監査員證ヲ携帯シ監査ヲ受クヘキ當該主務者ノ要求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ

監査員證ハ別記様式ニ依ル

第七條 監査員ハ書類、帳簿、現金其ノ他必要ナル物件ヲ査閱スヘシ

當該主務者ハ何等ノ理由アルニ拘ラス前項ノ査閱ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 監査員ハ監査シタル事項ニ付口頭若ハ書面ヲ以テ當該主務者ニ辯明セシメ又ハ監査上必要ト認ムルトキハ當該廳解ノ長ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第九條 監査員監査ノ結果不正ノ所爲アルコトヲ發見シ又ハ背規事項ニシテ差指キ難キモノト原料シタルトキハ意見ヲ附シ連ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十條 監査員ハ前條ノ背規事項中輕微ニシテ直ニ訂正シ得ヘキモノニ付テハ當該主務者ニ對シ注意ヲ與ヘ又ハ其ノ處理ヲ指示スルコトヲ得

第十一條 各廳解ニ於テハ指示簿ヲ備置キ前條ノ注意又ハ指示ヲ受ケタル事項ノ登載ヲ受クヘシ

前項ニ依リ指示簿ニ登載セラレタル事項ハ遲滞ナク之ヲ執行シ其ノ順末ヲ總務局長ニ報告スヘシ

第十二條 監査員ハ監査シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十三條 監査員ハ監査終了後遲滞ナク復命書ヲ提出スヘシ

前項ノ復命書ニハ第十條ニ依リ注意ヲ與ヘ又ハ處理ヲ指示シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

様式

三寸

第 號

朝鮮總督府會計監査員之證

朝鮮總督府

會計監査員證

用紙 鳥ノ子  
輪廓 花紋

○朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所事務分掌規程中改正

朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所事務分掌規程中左ノ通改正ス

大正二年七月  
總督府訓令第四十五號

法 令

第二條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 郵便爲替金、郵便取立金、振替及振替受拂ニ係ル貸入金、貸出金及貸入金、貸出金ノ計理ニ關スル事項

同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第三號乃至第七號ヲ第四號乃至第八號トス

三 郵便貯金受拂金ノ精算ニ關スル事項

第三條 原簿課ニ於テハ郵便貯金原簿ノ計理ニ關スル事務ヲ掌ル

附則

本令ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府中學校規則中改正 大正二年七月  
總督府令第七十七號

朝鮮總督府中學校規則中左ノ通改正ス  
第十二條中「天長節」ヲ「天皇節」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○普通學校規則、高等普通學校規則、女子高等普通學校規則、實業學校規則及京城專修學校規程中改正

大正二年七月  
總督府令第七十八號

普通學校規則、高等普通學校規則、女子高等普通學校規則、實業學校規則及京城專修學校規程中左ノ通改正ス

普通學校規則第二十六條第一項、高等普通學校規則第三十四條第一項、女子高等普通學校規則第三十一條第一項、實業學校規則第十六條第一項及京城專修學校規程第八條第一項中「天長節」ノ次ニ「天皇節」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

○文官任用令 大正二年八月  
勅令第二百六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條 文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條 第五條第一項ノ資格ヲ有セシ二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得但シ大正二年勅令第二百六十二號第一條ニ掲グル文官ノ職ニ在リタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 陸海軍將官ハ各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 文官高等試験ニ合格シタル者

二 外交官及領事官試験ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者

三 二年以上列事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者

二年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文官部内ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條 勅任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

二 一般ノ專門學校入學ニ關スル試験檢定ニ合格シタル者

三 專門學校令ニ依リ法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四 文官普通試験ニ合格シタル者

五 文官高等試験ニ合格シタル者

六 三年以上文官ノ職ニ在リタル者

七 五年以上雇員タル者

第七條 教官、技術官其ノ他特別ノ學術技術ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、勅任官ニ在リテハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

○任用分限又ハ官等ノ初級陞級ノ規定ヲ適用セサル

文官ニ關スル件 大正二年七月  
勅令第二百六十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ任用分限又ハ官等ノ初級陞級ノ規定ヲ適用セサル文官ニ

關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ニ掲クル諸官ニハ文官任用令、文官分限令並高等官官等俸給令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セス

内閣書記官長

法制局長官

各省次官 陸軍次官及海軍次官ヲ除ク

警視總監

貴族院書記官長

衆議院書記官長

内務省警保局長

勅任ノ各省參事官

秘書官

總書

第二條 敎官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ニハ高等官官等俸給令

第四條ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第六十二號、明治四十三年勅令第二百八十八號及同年勅令第二百八十九號ハ之ヲ廢止ス

○朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則中改正 大正二年八月

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則中左ノ通改正ス 總督府令第七十九號

第七條中「天長節」ノ次ニ「天長節祝日」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府濟生院規則中改正 大正二年八月

朝鮮總督府濟生院規則中左ノ通改正ス 總督府令第八十號

第九條中「天長節」ノ次ニ「天長節祝日」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法 令







## 判 決 例

## 民 事

○宗孫權確認請求ノ件 (大正二年民控第三一六號)  
(大正二年七月十一日判決官渡)

## 判決要旨

一 朝鮮ニ於ケル慣習上宗孫タル家ヲ相續シ其ノ家ニ長タル男子ハ戸主權、財産權、祭祀權ヲ承繼スヘキモノトス

## 判 決

京畿道高陽郡九耳面城洞里

控 訴 人

崔 萬 喜

右訴訟代理人辯護士

星 田 正 一 郎

被 控 訴 人

京畿道高陽郡神穴面上山里

右訴訟代理人辯護士

崔 銀 校

## 主 文

右當事者同宗孫權確認請求訴訟事件ニ付當院ハ判決スルコト左ノ如シ  
本件控訴ヲ棄却ス  
控訴ニ關スル訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

## 事 實

控訴人ハ原判決ヲ廢棄シ被控訴人ノ請求ヲ却下ス訴訟費用ハ第一、二審トモ被控訴人ノ負擔トスル旨ノ判決被控訴人ハ控訴棄却ノ判決ヲ求ムル旨各申立其ノ陳述シタル事實關係ハ被控訴人ニ於テ本訴宗孫權確認請求ノ趣旨ハ亡推實家ハ鶴林君ノ宗孫ニ當ルヘキ家柄ニシテ控訴人ハ相續ニ因リ同家ノ戸主トナリ依テ其ノ家ノ戸主權財産權祭祀權ヲ承繼シタルヲ以テ同家ノ戸主トシテ以上權利ノ主體タル地位ニ在ルコトノ確證ヲ求ムルニ在リテ宗孫權ナル名稱ヲ用キタルハ以上戸主タル地位ニ伴フ總テノ權利ヲ指稱セムトスルニ外ナラストノ旨控訴人ハ實愛ノ養子トナリタルハ四十七年前ニシテ實愛ノ死亡ハ明治二十三年二月申葬喜ノ死亡ハ同三十一年十二月十八日ナリトノ旨被控訴人ニ於テ右葬喜入養ノ時期及實愛葬喜ノ

各死亡時期ニ關スル對手方ノ主張ヲ認ムト附演シタル外各當事者共原判決指示ニ同シキヲ以テ茲ニ右指示ヲ引用ス

立證トシテ被控訴人ハ甲一、二號證ヲ提出シ原告ニ於ケル證人崔永七、崔永年、李鼎聖、金萬成、崔性休ノ各證言ヲ援用シ乙號證ヲ否認シ控訴人ハ乙第一號證ヲ提出シ原告ノ證人崔益煥、崔錫祐、洪容植ノ各證言ヲ援用シ甲號各證ヲ否認シタリ

## 理 由

依テ審按スルニ控訴人ハ宗孫權ナルモノハ朝鮮ニ於ケル慣習上並法令上共ニ認めサル所ナルヲ以テ本訴ハ畢竟宗孫タル過去ニ於ケル事實ノ確證ヲ求ムル不合法ノ訴ナリト抗爭スルモ被控訴人ノ釋明ナル所ニ從ヘハ本訴ノ趣旨ハ鶴林君、崔漢洪ノ宗孫タル崔實愛家ノ後繼者トシテ其ノ家ノ戸主權財産權祭祀權ヲ併セテ承繼シタル家長タル地位ノ確證ヲ求ムルモノニシテ所謂宗孫權トハ右地位ニ伴フ戸主權財産權祭祀權ヲ總括指稱スル爲ニ用キタル稱呼ニ過キサルコト明ニシテ證スル所ニ據テ洪家ノ現戸主トシテ戸主權財産權祭祀權ヲ有スルコトノ確證ヲ求ムルニ外ナラス而シテ崔實愛ハ鶴林君崔漢洪ノ宗孫ニ該當スルコト當事者間一致スル所ニシテ其ノ家ニ長タル男子ハ被控訴人ニ於テ宗孫權ナル稱呼ヲ以テ指稱スル所ノ戸主權財産權祭祀權等ヲ有スヘキコト並朝鮮ニ於ケル慣習ニ徴シテ明ナリトス而シテ本訴請求ハ單ニ過去ニ於テ相續シタル事實ノ確證ヲ求ムルニアラスシテ既ニ開始シタル相續ノ結果現ニ上示ノ地位ニ伴フ權利ヲ有スルコトノ確證ヲ求ムルニ在リテ法律上正當ノ利益ヲ有スル適法ノ訴ナリト謂ハサルヘカラス依テ此ノ點ニ關スル控訴人ノ抗辯ヲ採容セス

依テ本按ニ付テ按スルニ亡推實家カ鶴林君、崔漢洪ノ宗孫タルヘキ家ニシテ被控訴人ノ父崔葬喜ハ今ヨリ四十七年前實愛ノ生前ニ於テ其ノ養子トナリ實愛ハ明治二十三年二月申死亡シタル事實並被控訴人カ同三十一年申葬喜ノ死亡ニ因リ同家ノ相續シタルコト被控訴人カ實愛ノ庶子タルノ事實等ニ付テハ當事者間爭ナキ所ナリ右爭ナキ事實ト原告ノ證人崔永七ノ崔葬喜ハ十四歳ノ時實愛ノ養子トナリ戊戌ノ歲陰十二月五十二歳ニテ死亡シ控訴人ハ己巳ノ歲ニ出生シ本年四十五歳ニ

シテ被控訴人ハ崔舜喜ノ入養後出生シタリ又被控訴人ハ鶴林君ノ宗孫ナリトノ旨  
同證人李鼎聖ノ被控訴人ハ舜喜カ寅養ノ養子トナリタル後ニ出生シタリ舜喜ハ鶴  
林君ノ宗孫ナレハ其ノ子タル被控訴人モ亦同君ノ宗孫ナリトノ旨ノ各證言トチ對  
照考厥スルニ亡寅養ノ其ノ相續者ト爲サムカ爲ニ舜喜ヲ養子トシ控訴人ハ庶子ト  
シテ其ノ入養後ニ出生シタルモノナルコトヲ認ムルニ足ル果シテ然ラハ之ヲ朝鮮  
ニ於ケル慣習ニ照スニ亡舜喜ヲ以テ寅養ノ相續先順位者ナリト謂ハサルヘカワサ  
ルナリ依テ本件ノ爭點ハ一ニ緊リテ舜喜ニ養子ト有無一點ニ在リトス依テ此ノ點ニ  
付テ證據ヲ按スルニ原審ノ證人崔永七ノ證人ハ崔家ノ門長ナルカ鶴林君ノ宗孫ハ  
被控訴人ナル旨及舜喜ハ寅養ノ死後三年ノ喪ニ服シ破養サレタルコトナシ又崔  
喜ナルモノ寅養ノ養子トナリシ事實ヲ知ラス族譜ハ控訴人ニ於テ舜喜ハ養子ナル  
ヲ以テ脫宗スヘシトテ記入セサリシ旨及乙第一號族譜ハ知ラストノ旨崔舜喜カ  
破養サレタル事實ナク又崔喜カ養子トナリタルコトナシ寅養カ舜喜ヲ寅家ニ歸  
ラシメタルハ寅養モ共ニ移住セムトノ志望アリシカ爲ニシテ控訴人ヲ以テ後嗣者  
タラシメムカ爲ニアラス又族譜ハ寅養ノ生前ヨリ作成ニ著手シタルモ完成シタル  
ハ其ノ死後ニシテ控訴人ト舜喜トノ間不和ナリシヨリ控訴人ニ於テ恣ニ族譜ヲ作  
成シ之ニ舜喜ヲ登載セサリシ旨又被控訴人ハ寅養ノ死後舜喜ト共ニ其ノ喪ニ服シ  
又舜喜ハ寅養ノ死後七八年生存セシカ其ノ間祭祀ヲ營ミタリ又舜喜ハ孝子ナリト  
ノ評アリトノ旨同李鼎聖ノ舜喜カ破養ノ事實ハ聞知シタルコトナシ同ハ寅養ノ  
喪ニ服シタリ舜喜ハ鶴林君ノ宗孫ナレハ被控訴人モ亦其ノ宗孫ナリトノ旨同證人  
金萬成ノ舜喜破養ノコトハ知ラス同ハ寅養ノ喪ニ服シタリトノ各信スヘキ證言  
ニ徴スレハ亡舜喜ハ寅養ヨリ破養サレシコトナキノミナラス其ノ死亡以後子トシ  
テ其ノ喪ニ服シタル事實ヲ認ムルニ足ル然ラハ前段認定ノ事實ト相照スニ寅養ノ  
死亡ト同時ニ舜喜ハ相續人トシテ其ノ跡ヲ襲ヒ寅養ノ位地ヲ繼ギ鶴林君ニ對スル  
宗孫タルノ地位ヲ占メタルコト明ナリトス既ニ寅養ノ生前罷養ノ事實ナシト認ム  
ルコト前説明ノ如クナレハ其ノ後ニ於テ罷養ノ事實生スヘキ謂ハレナク而シテ被  
控訴人カ舜喜ノ跡ヲ相續シタル事實ニ付テハ控訴人ノ認メテ爭ハサル所ナルヲ以  
テ現ニ被控訴人カ前示鶴林君ノ宗孫トシテ其ノ家ノ主宰者タル地位ニ於テ月主權  
財產權祭祀權等ヲ有スルコト論ヲ俟タス從テ控訴人ニ於テ以上ノ地位ヲ相續シタ  
リト認ムヘキ餘地アラサルナリ右認定ニ反スル證言ハ之ヲ採用セス乙第一號證ハ  
信用ノ價ナシ

右説明ノ如クナレハ本訴被控訴人ノ請求ハ相當ナリトス而シテ原判決ノ趣旨モ畢  
竟以上ト同趣旨ニ於テ被控訴人ノ請求ヲ認容シタルモノナルコト判文ニ依テ明ナ  
ルヲ以テ本件控訴ハ其ノ理由ナク尙訴訟費用ハ敗訴ノ當事者チシテ之カ負擔ニ當  
ラシムヘキモノトシ判決スルコト主文ノ如シ

(京城覆審法院民事第一部)

朝鮮總督府  
參事官

太田輝次校閱

朝鮮總督府研究會編纂

(最新版發賣)

# 朝鮮法規提要

ポケット形總クロース製

美本全一冊

定價金八十錢

郵税金八錢

現行朝鮮の法規全部を蒐集しポケット形携帯に使ならしむ何人も一本を座右に備へざるべからず

國分象太郎校閱

伊藤伊吉著

(韓語大成の著者)

# 獨日語教範

洋裝總クロース製

全一冊

定價金二圓五十錢

郵税金二十四錢

今回新刊發賣廣めの爲一千部限り 特價金一圓八十錢 郵税金二十四錢

發行所

京城本町二丁目

日韓書房

振替口座京城百十五番

# 日韓書房藏版書類

總督府内研究會編輯朝鮮法規提要	定價金八拾	郵定價金六拾	錢錢
神尾大治平著朝鮮不動產證明令義解	定價金壹圓五拾錢	郵稅金拾四	錢錢
日韓書房編輯朝鮮教育法規提要	定價金參拾	郵稅金參拾	錢錢
日韓書房編輯大部日本帝國史略	定價金參拾五錢	郵稅金六拾五	錢錢
菊池謙讓著朝鮮最近外交史附大院君傳の附王紀	定價金壹圓五拾錢	郵稅金拾四	錢錢
漢城高等學校學監高橋亨著朝鮮の物語集附俚諺	定價金壹圓	郵稅金拾	錢錢
山松井道一著朝鮮半島	定價金壹圓五拾錢	郵稅金拾六	錢錢
元宮内府御苑事務局員杉原定吉編朝鮮國寶大觀	定價金貳圓五拾錢	郵稅金拾八	錢錢
中野馨視二郎校閱最新朝鮮一	定價金拾四	郵稅金拾四	錢錢
田口春二郎著朝鮮金融及產業政策	定價金拾	郵稅金拾	錢錢
日韓瓦斯電氣株式會社遠岡崎著朝鮮補訂正最新朝鮮要覽	定價金拾四	郵稅金拾四	錢錢
朝鮮雜誌社編輯朝鮮要覽	定價金拾四	郵稅金拾四	錢錢
文學士上田駿一郎校閱最新朝鮮地誌	定價金壹圓五拾錢	郵稅金拾貳	錢錢
農學博士本田幸介校閱朝鮮農業要覽	定價金壹圓八拾錢	郵稅金拾八	錢錢
式田幸三著朝鮮事情要覽	定價金五拾	郵稅金五拾	錢錢
總督府御編纂最新朝鮮事情要覽	定價金五拾	郵稅金五拾	錢錢
東京圖書刊行會版高麗史總クハ全參冊小包	定價金七圓五拾錢	郵稅金四拾貳	錢錢
京城日報記者合本日本日韓古蹟	定價金壹圓四拾錢	郵稅金拾四	錢錢
細菊池謙讓校閱漢城の風雲と名士	定價金八拾	郵稅金八拾	錢錢
法京學士原田豐次郎主筆伊藤公と韓國	定價金五拾	郵稅金六拾	錢錢
鳥越靜軒雲共著朝鮮漫畫	定價金四拾	郵稅金四拾	錢錢

日韓書房編輯部	朝鮮風景寫真帖	郵特價金貳圓五拾錢
金澤博士校閱	正則日鮮會話	郵定價金五拾錢
鄭日雲中報復社	訂正版韓日英新會話	郵特價金壹圓
村平壤控訴院書記	著長ポケツト日鮮會話	郵定價金五拾五錢
鄭日雲中報復社	著長獨習日鮮尺牘	郵定價金壹拾貳錢
文學士成田忠良著	對朝鮮語國語會話入門	定價各金壹拾貳錢 一冊定價各金壹拾貳錢 二冊定價各金壹拾貳錢
日韓書房編輯部	朝鮮風景寫真帖全五冊	郵定價各金貳拾錢
日韓書房編輯部	優美朝鮮風景寫真帖全三冊	郵特價各金五拾錢 郵稅價各金四拾錢
京城日報編輯部	朝鮮百業百種	郵定價金五拾錢
朝鮮土地調查會著作	最新朝鮮大地圖軸製	郵定價金壹拾貳圓
朝鮮土地調查會著作	最新朝鮮大地圖折本	郵定價金四拾錢
日韓書房編輯部	實測最新朝鮮全圖	郵定價金拾五錢
日韓書房編輯部	最新京城市街全圖	郵特價金貳拾錢
幣文學原博著士韓國政爭志	郵特價金八拾錢	錢錢
野口小蟹著	家庭朝鮮大伽斯那	郵定價金拾貳錢
返朝鮮總局編輯部	朝鮮郵便線路圖大判	郵定價金八拾錢
返朝鮮總局編輯部	朝鮮通信略圖	郵定價金貳拾錢
每月一回二十日發行	朝鮮總督府月報	郵定價金貳拾貳錢

朝鮮京城本町二丁目 金口座 (京城一四五番) 振替貯金 (京城一四五番) 日韓書房

趣味ある歴史物語

大倉桃郎先生著

江戸城

美装全一冊 定價九拾錢

英傑太田道灌の事蹟に潤飾を加へたる趣味ある歴史物語——我が戰國暗黒の時代に在りて賢聖の道を説き武將として勇略關東に絶し江戸城の創設者として築城術に新生面を開き最初の江戸の經營者としては非凡なる行政手腕を發揮したる變化に富める事蹟は縦横に活寫せらる。

笹川臨風先生著

九郎判官

美装全一冊 定價壹圓

血あり涙あり、勇あり義あり、忠節あり貞烈ある情的英雄の榮枯盛衰有爲轉變の一生を美しく面白く事細かに敘して花實二つながら兼ね備ふ歴史にして小説、畫圖にして無韻の詩。花に對して讀むべく、月に對して讀むべく、綠蔭に坐して讀むべく、清風に嘯きて讀むべく、若きも老いたるも紳士も佳人も誰人も愛讀せらるべきなり。

笹川臨風先生著

日蓮上人

美装全一冊 定價壹圓

日蓮は我國が有したる最も大なる英雄僧なり。本書は遺文に依りて熱烈なる一生の經路と眞摯なる心事と兼ねて深奥なる教義とを敍べて殆んど餘蘊なし。法華宗の信徒は固より日蓮を知ると知らざるに論なく必ず一讀せられんことを欲す。

笹川臨風先生著

新田左中將

美装全一冊 定價壹圓

國民精神の凝て現れた建武中興及南朝五十七年の史實を基とし、忠臣義士と奸賊謀士、美人と怪僧とをば錯綜させて巧に潤色した歴史物語です。悲壯清怨字々血に、句々涙に、骨鳴り肉動くの思が致しませう。如何に我が國民精神の尊くして美しきかを見よ。

發行所 特約店

東京 表町 神保町 本町 日

株式會社 日韓

同文館 韓書房

振東京 替一 貯三 金五 振京 替一 口一 座五

# 大 理 石 彫 刻 販 賣

## 營 業 品 目

ス  
ト  
ー  
フ  
前  
飾  
  
洗 面 器  
陳 列 臺  
紀 念 碑  
家 根 看 板  
電 氣 臺  
床 板 食 卓  
浴 槽 浴 室  
兩 便 器 室

京 城 南 大 門 通 三 丁 目

藤 田 林 吾 郎

## 新 荷 著 廣 告

沼波瑠音	文學士	東亞堂	有馬祐政	井上頼國	新渡戸	尾内欽吉	小菅寅吉	中佐兵衛	法學士廣	小林五三郎	法學博士	會發行	京都法學	織田美著	法學博士	高橋亨著	文學士	發行	博文館	縮刷新著	社編纂	京城日報	
大	疑	の	天	地	實	錄	書	論	論	法	通	典	話	百	種	百	種	百	種	百	種	百	種
郵税金八十錢	定價金七十錢	郵税金十二錢	定價金十一圓	郵税金十四錢	定價金十二圓	郵税金六錢	定價金五錢	郵税金二十錢	定價金四圓	郵税金十二錢	定價金一圓	郵税金十四錢	定價金一圓	郵税金二十錢	定價金一圓	郵税金十四錢	定價金一圓	郵税金十六錢	定價金一圓	郵税金十六錢	定價金一圓	郵税金五十錢	

朝鮮 販賣 一手 京城本町三丁目 振替京城百十五番 日韓書房

清涼飲料  
シトロン

サッポロ  
アサヒ  
エビス  
三ツ星  
ルービ





營業品目

洋酒類  
食料品  
洋食器具  
硝子器陶磁器  
化粧品  
舶來蕘葉卷  
金口埃及、土耳其古費  
各種

專賣品

英國ジョンブラウン社スコツチウキスキー  
英國ビユカナシ社スコツチウキスキー  
ボツクウキツビヤーマン社葡萄酒

ダイヤモンド印

サイダー及

オレンジ

布引鑛泉水

サイダー

キリンビール

ボックエール

ピルスナービール

京城本町三丁目三番戸

宮内省株式會社  
御用達  
明治屋  
城京支店

本店 横濱

支店 東京 京都 大阪 神戸 門司

電話 長  
電 話  
一 七 二  
二 二 一  
振替貯金 京城四四番

消 火 器 の 革 命 者

東 京

西 野 製 作 所

特 許 モ デ ル

粉 劑 消 火 器

朝 鮮  
代 理 店



器 械 部 の 移 轉

從來本町二丁目にて營業罷在候

處業務の發展上狹隘の爲

め今回旭町二丁目(府廳横

門前)に移轉營業仕候間一層之御

引立被下度奉希上候

藥 品 部 の 電 話 増 設

電話三七二番の外更に

今回二〇一四番を増設致

し候間一層迅速に貴需に應じ可

申候

山 岸 天 佑 堂

器 械 部      藥 品 部

京 城 旭 町 二 丁 目 (府 廳 横 門 前)

電 話 長 一 〇 六 番

京 城 本 町 一 丁 目

電 話 三 七 二 番

# 文房具

測量

製圖

器械

## 和洋紙帳簿

京城本町一丁目

### 篠崎本店

電六四八同七〇五番  
振替京城一五四番

活版

石版 凸版

寫真銅版製版

印刷及和洋帳簿美術裝釘

京 城 日 報 社 印 刷 部

京 城 大 和 町 壹 丁 目

(電 話 六 六 〇 三 番 二 六 番)  
京 城 報 社 口 座 三 〇 〇 番

各 號 活 字 單 欄 約 物

イ ン テ ル

製 造 販 賣

# 朝鮮總督府月報ニ關スル規程

(四十四年五月  
總訓第四十一號)

第一條 朝鮮ニ於ケル施政、産業其ノ他各般ノ狀況ヲ蒐集スル爲毎月二十日朝鮮總督府月報ヲ發行ス

臨時調査事項ニシテ附屬ニ添ルモノハ月報附録トシテ之ヲ發行スルコトヲ得

第二條 月報ハ官房總務局總務課ニ於テ之ヲ編纂ス

第三條 月報ニ掲載スヘキ事項ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 農業及殖林
- 二 商工業
- 三 礦業
- 四 水産業
- 五 貿易
- 六 運輸及交通
- 七 理財及金融
- 八 教育
- 九 社寺宗教
- 十 衛生
- 十一 救恤慈善
- 十二 地方行政
- 十三 司法
- 十四 調査資料
- 十五 統計

第四條 月報ニ記載スヘキ材料ハ關係ノ各部及所屬官署ニ於テ之ヲ蒐集スヘシ

第五條 材料ヲ蒐集セシムル爲各部及所屬官署(道ニ在リテハ内務部及財務部)ニ各一名ノ月報報告主任ヲ置ケ

月報報告主任ハ委任官又ハ列任官中ヨリ所屬長官之ヲ命シ其ノ官氏名ヲ總務課長ニ通知スヘシ

第六條 月報報告主任月報ニ掲載スヘキ事項ヲ調査シタルトキハ其ノ都度直ニ之

ヲ總務課長ニ送付スヘシ

第七條 月報原稿締切期限ハ毎月十日トス

第八條 總務課長ハ月報掲載事項ニ關シ月報報告主任ニ直接交渉ヲ爲スコトヲ得

第九條 月報原稿ハ別記様式ノ原稿用紙ニ之ヲ記入スヘシ但シ統計圖表類及印刷ニ係ルモノハ便宜美濃十三行郵紙若ハ美濃白紙ニ之ヲ記入シ又ハ其ノ印刷物ヲ

美濃白紙ニ貼附シ之ニ代用スルコトヲ得

第十條 月報ハ官房總務局印刷所之ヲ印刷ス

印刷所長ハ依頼ニ應ジ月報ニ廣告ヲ掲載スルコトヲ得其ノ料金ハ印刷所長之ヲ定ム

(別紙様式略)

## 朝鮮總督府月報廣告掲載手續

一 朝鮮總督府月報ニ廣告ヲ掲載セムトスル者ハ京城本町二丁目日韓書房ニ申込ムヘシ

一 掲載シタル廣告ノ原稿ハ一切之ヲ送付トス

一 廣告料ハ一頁金五圓トス

但シ廣告ニ圖畫又ハ計表其ノ他特殊ノ版式ヲ要スルモノハ別ニ其ノ實費ヲ徴ス

大正二年八月十八日印刷

定價金二十二錢

大正二年八月二十日發行

郵税金一錢五厘

朝鮮總督府編纂

印刷所 朝鮮總督官房總務局印刷所

京城本町二丁目

發賣所 日韓書房

# 汽車時刻表

大正二年八月現行

京釜、家線

黒字ハ午前ヲ示ス  
赤字ハ午後ヲ示ス

上り				下り			
東京	11:00	11:10	6:00	釜山	10:40	10:50	10:40
三浦	12:00	12:10	7:00	三浦	11:40	11:50	11:40
大田	12:10	12:20	7:10	大田	11:50	12:00	11:50
大邱	12:20	12:30	7:20	大邱	12:00	12:10	12:00
永登浦	12:30	12:40	7:30	永登浦	12:10	12:20	12:10
南大門	12:40	12:50	7:40	南大門	12:20	12:30	12:20
開城	12:50	13:00	7:50	開城	12:30	12:40	12:30
新義州	13:00	13:10	8:00	新義州	12:40	12:50	12:40
平壤	13:10	13:20	8:10	平壤	12:50	13:00	12:50
定州	13:20	13:30	8:20	定州	13:00	13:10	13:00
新義州	13:30	13:40	8:30	新義州	13:10	13:20	13:10
釜山	13:40	13:50	8:40	釜山	13:20	13:30	13:20
三浦	13:50	14:00	8:50	三浦	13:30	13:40	13:30
大田	14:00	14:10	9:00	大田	13:40	13:50	13:40
大邱	14:10	14:20	9:10	大邱	13:50	14:00	13:50
永登浦	14:20	14:30	9:20	永登浦	14:00	14:10	14:00
南大門	14:30	14:40	9:30	南大門	14:10	14:20	14:10
開城	14:40	14:50	9:40	開城	14:20	14:30	14:20
新義州	14:50	15:00	9:50	新義州	14:30	14:40	14:30
平壤	15:00	15:10	10:00	平壤	14:40	14:50	14:40
定州	15:10	15:20	10:10	定州	14:50	15:00	14:50
新義州	15:20	15:30	10:20	新義州	15:00	15:10	15:00
釜山	15:30	15:40	10:30	釜山	15:10	15:20	15:10
三浦	15:40	15:50	10:40	三浦	15:20	15:30	15:20
大田	15:50	16:00	10:50	大田	15:30	15:40	15:30
大邱	16:00	16:10	11:00	大邱	15:40	15:50	15:40
永登浦	16:10	16:20	11:10	永登浦	15:50	16:00	15:50
南大門	16:20	16:30	11:20	南大門	16:00	16:10	16:00
開城	16:30	16:40	11:30	開城	16:10	16:20	16:10
新義州	16:40	16:50	11:40	新義州	16:20	16:30	16:20
平壤	16:50	17:00	11:50	平壤	16:30	16:40	16:30
定州	17:00	17:10	12:00	定州	16:40	16:50	16:40
新義州	17:10	17:20	12:10	新義州	16:50	17:00	16:50
釜山	17:20	17:30	12:20	釜山	17:00	17:10	17:00
三浦	17:30	17:40	12:30	三浦	17:10	17:20	17:10
大田	17:40	17:50	12:40	大田	17:20	17:30	17:20
大邱	17:50	18:00	12:50	大邱	17:30	17:40	17:30
永登浦	18:00	18:10	13:00	永登浦	17:40	17:50	17:40
南大門	18:10	18:20	13:10	南大門	17:50	18:00	17:50
開城	18:20	18:30	13:20	開城	18:00	18:10	18:00
新義州	18:30	18:40	13:30	新義州	18:10	18:20	18:10
平壤	18:40	18:50	13:40	平壤	18:20	18:30	18:20
定州	18:50	19:00	13:50	定州	18:30	18:40	18:30
新義州	19:00	19:10	14:00	新義州	18:40	18:50	18:40
釜山	19:10	19:20	14:10	釜山	18:50	19:00	18:50
三浦	19:20	19:30	14:20	三浦	19:00	19:10	19:00
大田	19:30	19:40	14:30	大田	19:10	19:20	19:10
大邱	19:40	19:50	14:40	大邱	19:20	19:30	19:20
永登浦	19:50	20:00	14:50	永登浦	19:30	19:40	19:30
南大門	20:00	20:10	15:00	南大門	19:40	19:50	19:40
開城	20:10	20:20	15:10	開城	19:50	20:00	19:50
新義州	20:20	20:30	15:20	新義州	20:00	20:10	20:00
平壤	20:30	20:40	15:30	平壤	20:10	20:20	20:10
定州	20:40	20:50	15:40	定州	20:20	20:30	20:20
新義州	20:50	21:00	15:50	新義州	20:30	20:40	20:30
釜山	21:00	21:10	16:00	釜山	20:40	20:50	20:40
三浦	21:10	21:20	16:10	三浦	20:50	21:00	20:50
大田	21:20	21:30	16:20	大田	21:00	21:10	21:00
大邱	21:30	21:40	16:30	大邱	21:10	21:20	21:10
永登浦	21:40	21:50	16:40	永登浦	21:20	21:30	21:20
南大門	21:50	22:00	16:50	南大門	21:30	21:40	21:30
開城	22:00	22:10	17:00	開城	21:40	21:50	21:40
新義州	22:10	22:20	17:10	新義州	21:50	22:00	21:50
平壤	22:20	22:30	17:20	平壤	22:00	22:10	22:00
定州	22:30	22:40	17:30	定州	22:10	22:20	22:10
新義州	22:40	22:50	17:40	新義州	22:20	22:30	22:20
釜山	22:50	23:00	17:50	釜山	22:30	22:40	22:30
三浦	23:00	23:10	18:00	三浦	22:40	22:50	22:40
大田	23:10	23:20	18:10	大田	22:50	23:00	22:50
大邱	23:20	23:30	18:20	大邱	23:00	23:10	23:00
永登浦	23:30	23:40	18:30	永登浦	23:10	23:20	23:10
南大門	23:40	23:50	18:40	南大門	23:20	23:30	23:20
開城	23:50	00:00	18:50	開城	23:30	23:40	23:30
新義州	00:00	00:10	19:00	新義州	23:40	23:50	23:40
平壤	00:10	00:20	19:10	平壤	23:50	00:00	23:50
定州	00:20	00:30	19:20	定州	00:00	00:10	00:00
新義州	00:30	00:40	19:30	新義州	00:10	00:20	00:10
釜山	00:40	00:50	19:40	釜山	00:20	00:30	00:20
三浦	00:50	01:00	19:50	三浦	00:30	00:40	00:30
大田	01:00	01:10	20:00	大田	00:40	00:50	00:40
大邱	01:10	01:20	20:10	大邱	00:50	01:00	00:50
永登浦	01:20	01:30	20:20	永登浦	01:00	01:10	01:00
南大門	01:30	01:40	20:30	南大門	01:10	01:20	01:10
開城	01:40	01:50	20:40	開城	01:20	01:30	01:20
新義州	01:50	02:00	20:50	新義州	01:30	01:40	01:30
平壤	02:00	02:10	21:00	平壤	01:40	01:50	01:40
定州	02:10	02:20	21:10	定州	01:50	02:00	01:50
新義州	02:20	02:30	21:20	新義州	02:00	02:10	02:00
釜山	02:30	02:40	21:30	釜山	02:10	02:20	02:10
三浦	02:40	02:50	21:40	三浦	02:20	02:30	02:20
大田	02:50	03:00	21:50	大田	02:30	02:40	02:30
大邱	03:00	03:10	22:00	大邱	02:40	02:50	02:40
永登浦	03:10	03:20	22:10	永登浦	02:50	03:00	02:50
南大門	03:20	03:30	22:20	南大門	03:00	03:10	03:00
開城	03:30	03:40	22:30	開城	03:10	03:20	03:10
新義州	03:40	03:50	22:40	新義州	03:20	03:30	03:20
平壤	03:50	04:00	22:50	平壤	03:30	03:40	03:30
定州	04:00	04:10	23:00	定州	03:40	03:50	03:40
新義州	04:10	04:20	23:10	新義州	03:50	04:00	03:50
釜山	04:20	04:30	23:20	釜山	04:00	04:10	04:00
三浦	04:30	04:40	23:30	三浦	04:10	04:20	04:10
大田	04:40	04:50	23:40	大田	04:20	04:30	04:20
大邱	04:50	05:00	23:50	大邱	04:30	04:40	04:30
永登浦	05:00	05:10	00:00	永登浦	04:40	04:50	04:40
南大門	05:10	05:20	00:10	南大門	04:50	05:00	04:50
開城	05:20	05:30	00:20	開城	05:00	05:10	05:00
新義州	05:30	05:40	00:30	新義州	05:10	05:20	05:10
平壤	05:40	05:50	00:40	平壤	05:20	05:30	05:20
定州	05:50	06:00	00:50	定州	05:30	05:40	05:30
新義州	06:00	06:10	01:00	新義州	05:40	05:50	05:40
釜山	06:10	06:20	01:10	釜山	05:50	06:00	05:50
三浦	06:20	06:30	01:20	三浦	06:00	06:10	06:00
大田	06:30	06:40	01:30	大田	06:10	06:20	06:10
大邱	06:40	06:50	01:40	大邱	06:20	06:30	06:20
永登浦	06:50	07:00	01:50	永登浦	06:30	06:40	06:30
南大門	07:00	07:10	02:00	南大門	06:40	06:50	06:40
開城	07:10	07:20	02:10	開城	06:50	07:00	06:50
新義州	07:20	07:30	02:20	新義州	07:00	07:10	07:00
平壤	07:30	07:40	02:30	平壤	07:10	07:20	07:10
定州	07:40	07:50	02:40	定州	07:20	07:30	07:20
新義州	07:50	08:00	02:50	新義州	07:30	07:40	07:30
釜山	08:00	08:10	03:00	釜山	07:40	07:50	07:40
三浦	08:10	08:20	03:10	三浦	07:50	08:00	07:50
大田	08:20	08:30	03:20	大田	08:00	08:10	08:00
大邱	08:30	08:40	03:30	大邱	08:10	08:20	08:10
永登浦	08:40	08:50	03:40	永登浦	08:20	08:30	08:20
南大門	08:50	09:00	03:50	南大門	08:30	08:40	08:30
開城	09:00	09:10	04:00	開城	08:40	08:50	08:40
新義州	09:10	09:20	04:10	新義州	08:50	09:00	08:50
平壤	09:20	09:30	04:20	平壤	09:00	09:10	09:00
定州	09:30	09:40	04:30	定州	09:10	09:20	09:10
新義州	09:40	09:50	04:40	新義州	09:20	09:30	09:20
釜山	09:50	10:00	04:50	釜山	09:30	09:40	09:30
三浦	10:00	10:10	05:00	三浦	09:40	09:50	09:40
大田	10:10	10:20	05:10	大田	09:50	10:00	09:50
大邱	10:20	10:30	05:20	大邱	10:00	10:10	10:00
永登浦	10:30	10:40	05:30	永登浦	10:10	10:20	10:10
南大門	10:40	10:50	05:40	南大門	10:20	10:30	10:20
開城	10:50	11:00	05:50	開城	10:30	10:40	10:30
新義州	11:00	11:10	06:00	新義州	10:40	10:50	10:40
平壤	11:10	11:20	06:10	平壤	10:50	11:00	10:50
定州	11:20	11:30	06:20	定州	11:00	11:10	11:00
新義州	11:30	11:40	06:30	新義州	11:10	11:20	11:10
釜山	11:40	11:50	06:40	釜山	11:20	11:30	11:20
三浦	11:50	12:00	06:50	三浦	11:30	11:40	11:30
大田	12:00	12:10	07:00	大田	11:40	11:50	11:40
大邱	12:10	12:20	07:10	大邱	11:50	12:00	11:50
永登浦	12:20	12:30	07:20	永登浦	12:00	12:10	12:00
南大門	12:30	12:40	07:30	南大門	12:10	12:20	12:10
開城	12:40	12:50	07:40	開城	12:20	12:30	12:20
新義州	12:50	13:00					








UC-NRLF



QC 117 188

5353

Google

UNIVERSITY OF CALIFORNIA

BUILDING USE ONLY